

平成 22 年 度

# 専門科目教育要項

東京医科歯科大学歯学部口腔保健学科

## ま え が き

この教育要項は、口腔保健学科専門科目の授業を受ける学生の皆さんに、平成22年度に行われる予定の専門教育科目を示し、それらの授業計画および授業内容の概要を知らせるためのものです。

学生の皆さんが、本学における口腔保健学教育の内容を把握すると共に、充実した履修が行えるよう本要項を有意義に活用されることを希望します。

平成22年 4 月

歯学部口腔保健学科教育委員会

## 基本的理念

温かく豊かな人間性を有し、口腔保健・福祉の立場から、人々の健康で幸せな生活の実現のため、専門的知識および技術をもって広く社会貢献し、指導的役割を果たすことのできる人材を育成する。

## 一般教育目標

- ・ 生命の尊厳と基本的な科学原理・概念を理解し、生命科学の知識を修得する。
- ・ 基本的人権を尊重し、相手の心情と行動を理解して人と接する能力を身につける。
- ・ 社会における口腔保健・福祉の果たす役割とその重要性を理解する。
- ・ 心身の様々な状態を理解し、口腔保健に関する知識および技術を修得する。
- ・ 科学的探究心と問題解決能力を身につけ、生涯学習への意欲を培う。
- ・ 保健・医療・福祉等の関連職種と連携して活動できる能力を身につける。
- ・ 口腔保健の立場から国際貢献ができる能力を修得する。

## 歯学部長あいさつ

歯学部長 田 上 順 次

歯学部口腔保健学科では、温かく豊かな人間性を有し、口腔保健・福祉の立場から、人々の健康で幸せな生活の実現のため、専門的知識および技術をもって広く社会貢献し、指導的役割を果たすことのできる人材を育成することを教育の基本理念に掲げています。日本で最初の口腔保健専門の学科としてスタートしたばかりですので、学生の皆さんには歯科界の各方面から大きな期待が寄せられています。こうした社会的な責任を果たすためにも、最善と思われる専門課程のカリキュラムが組まれています。

非常に多くの科目がありますが、いずれも実践できなければ人々や社会に貢献することはできません。実習の時間が多いのも一つの特徴ですが、しっかりとした理論に支えられてこその実習です。かなりタイトなカリキュラムですが、必ず得られるものも大きいはずです。既に教養課程でも自学自習の態度、問題認識、問題解決型のアプローチについては、PBL、テュートリアル教育などを通じて身につけてきたことと思います。もちろん専門教育においてもこうした手法は当然役立ちます。また、臨床実習の充実が本学の大きな特徴です。ここでは包括的な専門知識、コミュニケーション、チームアプローチなど、実際の患者さんとの接触を通して、得がたい時間を過ごすことになります。人々の健康で幸せな生活を実現するために、本当に役に立つ専門的知識と技術を実践・体得して、社会に貢献できる専門家になってください。

教員の先生方のほか、歯学科の先生方や外部の先生方も皆さんの教育を担当してまいります。いずれも業界のリーダーとして活躍する先生方ばかりです。こんなに素晴らしい将来の目標となる人物が身近にたくさんいらっしゃるのですから、積極的に先生方にアプローチして、少しでも多くのことを学んでください。さらに皆さんには4年制の口腔保健学科の卒業生として、将来は口腔保健学をリードして行く立場にあります。社会的に期待されるということはとても幸せなことです。この期待に応えることができるように充実した専門教育課程を過ごしてください。期待しています。

## 第2学年 履修ユニット

|             |                       |
|-------------|-----------------------|
| 科目名         | 科学英語 I                |
| ユニット名       | 科学英語 I                |
| 授業形態        | 講義                    |
| 開講時期・単位・時間数 | 2 学年前期・必修 1 単位・15 時間  |
| 科目・ユニット責任者  | 坂本裕次郎                 |
| 授業担当者       | 坂本裕次郎、森尾郁子（歯学教育開発学分野） |
| 主な授業場所      | 口腔保健学科 第4講義室          |

### 学習目標

- ・口腔保健に関連する基本的英語表現を身につける。
- ・科学英語論文の構成を学ぶとともに、基礎的読解能力を身につける。
- ・口腔保健に関して、英語で意思疎通をする基礎的能力を身につける。

### 到達目標

- ・口腔保健関連の専門用語を英語で表現できる。
- ・口腔保健関連の英文を読解し、内容を説明できる。
- ・科学英語論文の論理構成を把握し、批判できる。

### 授業計画 2 学年前期・必修 1 単位・15 時間

| 回    | 授業題目    | 授業内容                                                                               |
|------|---------|------------------------------------------------------------------------------------|
| 1-6  | 歯学の基本英語 | 歯科・口腔保健学に必要な基本的英語表現を学ぶ                                                             |
| 7-8  | 学術論文とは  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学術論文の構成について</li> <li>・抄読する英文の紹介</li> </ul> |
| 9-15 | 英文抄読    | 歯科・口腔保健の英語論文の読解                                                                    |

### 評価方法

- ・随時の小テスト等で形成的評価を行い、授業態度等も総括的評価に加える。
- ・提出レポート、課題発表等で総括的評価を行う場合があります。

### 参考図書等

必要な文献はプリントで配布します。

### 留意事項

- 英語の辞書等は持参すること。
- 授業に各自のパソコンを持参してもらう場合があります。

|             |                      |
|-------------|----------------------|
| 科目名         | 科学英語Ⅱ                |
| ユニット名       | 科学英語Ⅱ                |
| 授業形態        | 講義                   |
| 開講時期・単位・時間数 | 2 学年後期・選択 1 単位・15 時間 |
| 科目・ユニット責任者  | 坂本裕次郎                |
| 授業担当者       | 坂本裕次郎                |
| 主な授業場所      | 口腔保健学科 第4講義室・セミナー室   |

### 学習目標

- ・口腔保健に関して、英語で意思疎通をする基礎的能力を身につける。
- ・英語論文作成の模擬体験を通して、科学的思考力を身につける。

### 到達目標

- ・科学英語論文の論理構成を把握し、批判できる。
- ・口腔保健に関連した基本的内容を英語で表現できる。

### 授業計画 2 学年後期・選択 1 単位・15 時間

| 回     | 授業題目              | 授業内容                              |
|-------|-------------------|-----------------------------------|
| 1-5   | 科学英語文献の検索         | 仮の研究テーマを決めて文献検索の方法を学ぶ。            |
| 6-10  | 科学英語文献の活用         | 文献から得られる情報と疑問や問題点を抽出する            |
| 11-15 | 緒言（イントロダクション）の英作文 | テーマの現状と問題点を整理して、研究目的を論理的に英文で説明する。 |

### 評価方法

- ・提出レポート、課題発表等で総括的評価を行う。
- ・グループ別の授業や発表では、各個人の参加態度も総括的評価に加味する。

### 参考図書等

必要な文献はプリントで配布します。

### 留意事項

- ・英語の辞書等は持参すること。
- ・授業に各自のパソコンを持参してもらう場合があります。

|             |                               |
|-------------|-------------------------------|
| 科目名         | 人体の構造と機能Ⅱ                     |
| ユニット名       | 人体の構造と機能Ⅱ                     |
| 授業形態        | 講義                            |
| 開講時期・単位・時間数 | 2 学年前期・必修 2 単位・30 時間          |
| 科目・ユニット責任者  | 杉本久美子                         |
| 授業担当者       | 杉本久美子、坂本裕次郎、井関祥子（分子発生学分野）     |
| 主な授業場所      | 口腔保健学科 第4講義室・基礎科学実習室、医学部解剖実習室 |

### 学習目標

人体の正常な構造、機能と分子的基礎、ならびに発生、成長、加齢に伴う変化について学ぶことにより、生命現象が営まれるメカニズムを分子レベルから個体レベルに至るまで系統的に理解する。

### 到達目標

- ・ 生命における遺伝子の分子機構ならびに働きを説明できる。（1年）
- ・ 生命の基本単位である細胞の構造、構成要素と働きを説明できる。（1年）
- ・ 人体の発生、成長と発達を説明できる。（1年）
- ・ 上皮組織、支持組織、筋組織および神経組織の構成成分、構造および機能を説明できる。（1年）
- ・ 循環器系の構造と機能、および発生機序を説明できる。（1年）
- ・ 血液の成分と働き、および造血器、リンパ網内系の構造と機能を説明できる。（1年）
- ・ 運動器系の構造と機能、および発生、成長、加齢に伴う変化を説明できる。（1年）
- ・ 感覚器系の構造と機能、および発生、成長、加齢に伴う変化を説明できる。
- ・ 末梢神経系および中枢神経系の構造と機能、およびその発生、成長、加齢に伴う変化を説明できる。
- ・ 呼吸器系の構造と機能、および発生、成長に伴う変化を説明できる。
- ・ 消化器系の構造と機能および発生機序を説明できる。
- ・ 泌尿器系の構造と機能、尿の生成機序を説明できる。
- ・ 内分泌系の構造、機能、およびホルモンの作用を説明できる。
- ・ 生殖器の構造と機能、および発生、成長、加齢に伴う変化を説明できる。
- ・ 生体の恒常性維持機構（体温調節、体液組成および体液量の調節）を説明できる。

### 授業計画 2 学年前期・必修 2 単位・30 時間

| 回 | 授業題目     | 授業内容                     |
|---|----------|--------------------------|
| 1 | 神経系の基本構造 | 神経系の構成要素、ニューロン（神経細胞）の構造、 |

|        |                |                                    |
|--------|----------------|------------------------------------|
|        |                | 化学シナプスの構造                          |
| 2, 3   | 全身の神経系         | 全身の神経系の種類と走行                       |
| 4      | 神経系・感覚器の組織観察   | 神経系および感覚器組織の顕微鏡観察                  |
| 5      | 神経系の発生         | 神経系の発生過程とその機構                      |
| 6      | 神経系の働き 1       | 興奮伝導・興奮伝達のしくみ、神経伝達物質の働き            |
| 7, 8   | 神経系の働き 2, 3    | 末梢神経系の構造と働き、中枢神経系の構成、脊髄の働きと脊髄反射    |
| 9      | 神経系の働き 4       | 脳（大脳皮質、大脳辺縁系、間脳、小脳、脳幹ほか）の働き        |
| 10     | 一般体性感覚、内臓感覚    | 感覚器の基本構造、一般体性感覚器・内臓感覚器の構造、機能および伝導路 |
| 11     | 特殊感覚 1         | 視覚・嗅覚の感覚器の構造と機能、視覚・嗅覚の伝導路          |
| 12     | 特殊感覚 2         | 聴覚・平衡感覚の感覚器の構造と機能、聴覚・平衡感覚の伝導路      |
| 13     | 呼吸器系の構造        | 呼吸器系の構成と組織                         |
| 14     | 呼吸器系の発生        | 呼吸器系の発生過程とその機構                     |
| 15, 16 | 内分泌系の構造と発生     | 内分泌系の構造と発生のしくみ                     |
| 17     | 呼吸器系の働き        | 呼吸運動、ガス交換のしくみ、呼吸調節、肺気量の分画          |
| 18     | ホルモンの働き 1      | ホルモンによる恒常性維持、ホルモンの分泌と作用メカニズム       |
| 19     | ホルモンの働き 2      | ホルモンの働きと内分泌異常                      |
| 20     | 呼吸器系・内分泌系の組織観察 | 呼吸器系・内分泌系組織の顕微鏡観察                  |
| 21, 22 | 生殖器の構造と発生      | 生殖器の構造と発生のしくみ                      |
| 23, 24 | 泌尿器系の構造と発生     | 尿器系の構造と発生のしくみ                      |
| 25, 26 | 尿の生成と体液の調節     | 尿生成のメカニズム、排尿、体液量および体液組成の調節         |
| 27-29  | 人体解剖見学         | 医学部における人体解剖の見学                     |
| 30     | 体温調節           | 発汗、体温調節機構                          |

## 評価方法

- ・提出レポート、期末の客観試験、論述試験で総括的評価を行う。
- ・出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。

#### 参考図書等

- ・「解剖生理学」 高野廣子著 南山堂
- ・「図解生理学」第2版 中野昭一編 医学書院
- ・「カラーで学ぶ解剖生理学」 ゲーリー・A・ティボドー、ケビン・T・パットン著 コメディカルサポート研究会訳 医学書院
- ・「標準生理学」第5版 本郷利憲、廣重力監修 医学書院
- ・新歯科衛生士教本「生理学」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・歯科衛生士教本「組織・発生」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・歯科衛生士教本「解剖」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・歯科衛生士教本「口腔解剖」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版

#### 留意事項

事前に資料の配付、e-learning へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

|             |                                           |
|-------------|-------------------------------------------|
| 科目名         | 人体の構造と機能Ⅱ                                 |
| ユニット名       | 歯・口腔の構造と機能                                |
| 授業形態        | 講義                                        |
| 開講時期・単位・時間数 | 2 学年前期・必修・30 時間<br>2 学年後期・必修・45 時間 } 5 単位 |
| 科目・ユニット責任者  | 杉本久美子・坂本裕次郎                               |
| 授業担当者       | 坂本裕次郎、杉本久美子                               |
| 主な授業場所      | 口腔保健学科 第4講義室・基礎科学実習室<br>医学部解剖学実習室         |

### 学習目標

顎・顔面・口腔領域の組織、器官の構造と機能およびその分子的基盤を学ぶとともに、それらの発生と成長について学び、顎・顔面・口腔領域の健康と全身の健康との関連について理解を深める。

### 到達目標

- ・口腔諸器官の構造、構成分子と機能および発生と成長について説明できる。
- ・歯と歯周組織の形態と構成成分ならびに機能について説明できる。
- ・歯と歯周組織の発生、成長過程を説明できる。
- ・歯の石灰化の機序とカルシウム・リン代謝について説明できる。
- ・唾液線の構造と分泌機構および唾液の成分とその作用について説明できる。
- ・口腔諸器官（歯・歯周組織・唾液線を含む）の機能と全身の正常機能とを関連づけられる。
- ・頭頸部の主要な骨（頭蓋骨、下顎骨等）の形態、発生と成長について説明できる。
- ・頭頸部の主要な筋（表情筋、咀嚼筋）の形態とその機能を説明できる。
- ・脳神経の支配様式と働きについて説明できる。
- ・頭頸部の脈管系（血管系、リンパ系）について説明できる。
- ・頭頸部と全身の骨・筋・神経・脈管系を互いに関連づけられる。
- ・口腔領域の体性感覚器・味覚器官の構造と働きおよび発生と成長について説明できる。
- ・下顎反射のしくみとその役割について説明できる。
- ・咀嚼運動の神経機構を説明できる。
- ・嚥下・吸引・嘔吐反射のしくみを説明できる。
- ・発声・構音のしくみを説明できる。
- ・頭頸部・口腔領域と全身の感覚・反射・運動のしくみを対比できる。

### 授業計画

## 2 学年前期・必修・30 時間

| 回      | 授業題目           | 授業内容                                |
|--------|----------------|-------------------------------------|
| 1      | 口腔諸器官の構造と機能    | 口腔諸器官の構造と機能                         |
| 2      | 歯と歯周組織の総論      | 歯と歯周組織の構成要素、歯列と咬合の基礎知識、歯の種類と記号・方向用語 |
| 3, 4   | 歯の構成成分         | 歯の構成成分の物理化学的性状                      |
| 5-10   | 永久歯の解剖学        | 切歯・犬歯・小臼歯・大臼歯の形態                    |
| 11, 12 | 乳歯の解剖学         | 乳切歯・乳犬歯・乳臼歯の形態                      |
| 13     | 顎顔面領域の発生       | 顎顔面領域の初期発生                          |
| 14     | 歯の発生 1         | 硬組織形成前までの歯胚の発生過程                    |
| 15     | 歯の発生 2         | 象牙質・歯髄複合体の形成機構                      |
| 16     | 歯の発生 3         | エナメル質の形成機構                          |
| 17     | 顔面の発生・初期歯胚の組織像 | 顔面の発生と初期歯胚の顕微鏡観察                    |
| 18     | 硬組織形成期歯胚の組織像   | 象牙質・エナメル質の形成初期の顕微鏡観察                |
| 19     | 歯周組織の形成機構      | 歯周組織の形成機構                           |
| 20     | 象牙質・歯髄複合体      | 象牙質・歯髄複合体の構造と象牙質の成長線                |
| 21     | エナメル質          | エナメル質の構造と成長線                        |
| 22     | 歯周組織           | 歯周組織の構造                             |
| 23     | 歯列形成と歯の萌出と交換   | 歯列と咬合の形成と歯の萌出と交換のしくみ                |
| 24-26  | 脳神経／歯と口腔の神経支配  | 歯と口腔の感覚をつかさどる神経                     |
| 27, 28 | 歯髄感覚・歯根膜感覚     | 歯髄感覚・歯根膜感覚のしくみ                      |
| 29, 30 | 歯と歯周組織の組織像     | 象牙質・エナメル質、歯周組織の顕微鏡観察                |

## 2 学年後期・必修・45 時間

| 回      | 授業題目         | 授業内容                   |
|--------|--------------|------------------------|
| 31-33  | 体幹・体肢の骨格系・筋系 | 骨格標本を使って体幹・体肢の骨格と筋の総括  |
| 34, 35 | 脊髄神経系・自律神経系  | 体幹・体肢の末梢神経系の総括         |
| 36     | 体幹・体肢の脈管系    | 体幹・体肢の脈管系の総括           |
| 37-39  | 頭蓋と頭頸部の脈管系   | 頭蓋の外景・内景、頭頸部の動・静脈      |
| 40-42  | 解剖体慰霊式       | 東京医科歯科大学・解剖体慰霊式に出席     |
| 43-45  | 頭蓋と頭頸部の脈管系   | 頭蓋を構成する骨、頭頸部のリンパ管・リンパ節 |

|        |                |                                                 |
|--------|----------------|-------------------------------------------------|
| 46     | 頭頸部の筋系         | 表情筋・咀嚼筋・浅頸筋・外側頸筋                                |
| 47     | 頭頸部の筋系と頸筋膜     | 前頸筋（舌骨上筋・舌骨下筋）・後頸筋、頸筋膜                          |
| 48     | 顎関節と顎運動        | 顎関節の構造と機能および顎運動                                 |
| 49, 50 | 中枢神経系          | 中枢神経系の構造と伝導路                                    |
| 51     | 記憶・学習・情動行動     | 記憶・学習・情動行動のしくみ                                  |
| 52     | 口腔粘膜・舌         | 口腔粘膜・舌の構造                                       |
| 53, 54 | 口腔粘膜感覚・味覚・嗅覚   | 口腔粘膜感覚・味覚・嗅覚のしくみ                                |
| 55, 56 | 唾液腺            | 唾液腺の構造と唾液の分泌機構                                  |
| 57     | 唾液             | 唾液の性状・成分・生理作用                                   |
| 58     | 消化器系           | 消化器系の発生と基本構造                                    |
| 59, 60 | 口腔領域の消化器系の組織観察 | 口唇・舌・扁桃・唾液腺の顕微鏡観察                               |
| 61     | 咽頭～食道・喉頭       | 咽頭～食道・喉頭の構造と機能                                  |
| 62     | 顎関節感覚・咀嚼運動     | 顎関節感覚・咀嚼運動の制御機構                                 |
| 63     | 下顎反射           | 下顎反射のしくみ                                        |
| 64     | 嚥下、吸引、嘔吐       | 嚥下、吸引、嘔吐のしくみ                                    |
| 65     | 発声と構音          | 発声のしくみと構音                                       |
| 66     | 胃腸、肝胆膵         | 胃、小腸、大腸、肝臓、胆のう、膵臓の構造と機能                         |
| 67-70  | 消化と吸収          | 消化管運動のしくみ、消化液の成分と作用および分泌調節、栄養素の消化と吸収および排便反射のしくみ |
| 71, 72 | 消化器系の組織観察      | 口腔領域以外の消化器系の顕微鏡観察                               |
| 73-75  | 肉眼解剖見学実習       | 頭頸部の局所解剖学の見学                                    |

## 評価方法

- ・随時の小テスト等で形成的評価を行う。
- ・期末の客観試験、論述試験等で総括的評価を行う。
- ・授業態度、製作品、提出レポート等を総括的評価に加える。
- ・前期評価と後期評価を総合して年間評価とするが、原則として前期と後期それぞれに合格しなくてはならない。
- ・前期末と後期末に評価するので、前期と後期それぞれに受験資格を満たさなくてはならない。

## 参考図書等

- ・「基礎歯科生理学」第5版 森本俊文、山田好秋編 医歯薬出版

- ・「入門人体解剖学」改訂第4版 藤田恒夫 南江堂
- ・「人体解剖学」改訂第42版 藤田恒太郎 南江堂
- ・「解剖生理学」 高野廣子著 南山堂
- ・「図解生理学」第2版 中野昭一編 医学書院
- ・「標準生理学」第6版 本郷利憲、豊田順一、広重力監修 医学書院
- ・新歯科衛生士教本「解剖学・組織発生学・口腔解剖学」第2版 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「生理学」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・歯科衛生士教本「組織・発生」第2版 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・歯科衛生士教本「解剖」第2版 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・歯科衛生士教本「口腔解剖」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版

### 留意事項

- ・解剖実習室で行われる授業では、白衣と上履きを着用すること。
- ・東京医科歯科大学解剖体慰霊式の「会場と時間、服装と心得など」については、日が近くなったら大学側から掲示で連絡されるので各自注意して確認すること。

|             |                                           |
|-------------|-------------------------------------------|
| 科目名         | 疾病の成り立ちと生体防御                              |
| ユニット名       | 病理学総論                                     |
| 授業形態        | 講義                                        |
| 開講時期・単位・時間数 | 2 学年前期・必修・15 時間 } 2 単位<br>2 学年後期・必修・15 時間 |
| 科目・ユニット責任者  | 坂本裕次郎                                     |
| 授業担当者       | 石川雅章、坂本啓（口腔病理学分野）、坂本裕次郎、高柳広（分子情報伝達学分野）    |
| 主な授業場所      | 口腔保健学科 第4講義室                              |

### 学習目標

疾病の原因と病態に関する基本的知識を体系的に修得する。

### 到達目標

- ・代謝障害と退行性・進行性病変の病因・病態について説明できる。
- ・遺伝のしくみと遺伝疾患、奇形の原因について説明できる。
- ・循環障害の病因・病態について説明できる。
- ・腫瘍の概念と病因・病態について説明できる。
- ・歯の付着物と疾患との関連について説明できる。
- ・歯と口腔の発育異常について説明できる。
- ・口腔粘膜疾患の病因・病態について説明できる。
- ・唾液腺疾患の病因・病態について説明できる。
- ・消化器疾患の病因・病態について説明できる。
- ・内分泌系疾患の病因・病態について説明できる
- ・免疫獲得と免疫寛容の機構および免疫疾患の病因・病態について説明できる。
- ・病原微生物や様々な外来刺激に対する生態の防御系を説明できる。

### 授業計画

#### 2 学年前期・必修・15 時間

| 回    | 授業題目          | 授業内容          |
|------|---------------|---------------|
| 1, 2 | 病理学とは         | 病因論、細胞障害、組織障害 |
| 3, 4 | 物質代謝障害（退行性病変） | 変性、萎縮、壊死の病理学  |

|        |              |                         |
|--------|--------------|-------------------------|
| 5, 6   | 増殖と再生（進行性病変） | 増殖、肥大、化生、再生、修復の病理学      |
| 7, 8   | 遺伝と疾患        | 遺伝子異常とその発生機構、遺伝性疾患と先天奇形 |
| 9, 10  | 循環障害         | 循環障害の発生機序、分類と病理学        |
| 11, 12 | 腫瘍 1         | 腫瘍の概念と発生機序              |
| 13, 14 | 腫瘍 2         | 腫瘍の分類と病理学               |
| 15     | まとめ          | 前期の内容のまとめと補足            |

## 2 学年後期・必修・15 時間

| 回      | 授業題目         | 授業内容                  |
|--------|--------------|-----------------------|
| 16     | 歯の付着物と疾患（基礎） | 歯の付着物と疾患との関連に関する基礎的概念 |
| 17, 18 | 歯と口腔の発育異常    | 歯と口腔の発育異常の病因と病理学的所見   |
| 19, 20 | 口腔粘膜疾患       | 口腔粘膜疾患の病因と病理学的所見      |
| 21, 22 | 唾液腺疾患        | 唾液腺疾患の病因と病理学的所見       |
| 23, 24 | 消化器疾患        | 消化器疾患の病因と病理学的所見       |
| 25     | 内分泌系疾患       | 内分泌系疾患の病因と病理学的所見      |
| 26, 27 | 免疫学総論        | 免疫のしくみ、免疫獲得と免疫寛容      |
| 28, 29 | 免疫反応とアレルギー   | 免疫とアレルギーの関係           |
| 30     | 免疫・アレルギー疾患   | 疾患の種類と病態              |

## 評価方法

- ・随時の小テスト等で形成的評価を行う。
- ・期末の客観試験、論述試験等で総括的评价を行い、授業態度等も総括的评价に加える。
- ・前期評価と後期評価を総合して年間評価とするが、原則として前期と後期それぞれに合格しなくてはならない。
- ・前期末と後期末に評価するので、前期と後期それぞれに受験資格を満たさなくてはならない。

## 参考図書等

- ・「標準病理学」第3版 秦順一監修 医学書院
- ・「エッセンシャル病理学」沢井高志他編 医歯薬出版
- ・「わかりやすい病理学」改訂第3版 岩田隆子他編 南江堂
- ・「これだけは知っておきたい疾病のなりたち」 井上泰訳 医学書院
- ・新歯科衛生士教本「病理学」第2版 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・「口腔病理アトラス」第2版 高木實監修 文光堂

|             |                      |
|-------------|----------------------|
| 科目名         | 疾病の成り立ちと生体防御         |
| ユニット名       | 口腔病理学                |
| 授業形態        | 講義                   |
| 開講時期・単位・時間数 | 2 学年後期・必修 1 単位・15 時間 |
| 科目・ユニット責任者  | 坂本裕次郎                |
| 授業担当者       | 坂本裕次郎                |
| 主な授業場所      | 口腔保健学科 第4講義室         |

### 学習目標

顎・顔面・口腔疾患の原因と病態の特徴および全身疾患との関連性について理解する。

### 到達目標

- ・う蝕の病因と分類・病態について説明できる。
- ・歯髄炎および根尖性歯周炎の病因・病態について説明できる。
- ・辺縁性歯周炎の病因・病態について説明できる。
- ・顎骨疾患の病因・病態について説明できる。
- ・顎口腔領域の嚢胞の病因・病態について説明できる。
- ・顎口腔領域の腫瘍の病因・病態について説明できる。

### 授業計画 2 学年後期・必修 1 単位・15 時間

| 回      | 授業題目      | 授業内容                  |
|--------|-----------|-----------------------|
| 1, 2   | う蝕（基礎）    | う蝕の病因と分類と病理学的所見       |
| 3, 4   | 歯髄の病変（基礎） | 歯髄炎・その他の疾患の病因と病理学     |
| 5, 6   | 歯周疾患（基礎）1 | 根尖性歯周炎の病因と病理学         |
| 7, 8   | 歯周疾患（基礎）2 | 歯肉炎・辺縁性歯周炎・その他の病因と病理学 |
| 9, 10  | 顎骨の疾患     | 顎骨の疾患の病因と病理学的所見       |
| 11, 12 | 顎口腔領域の嚢胞  | 顎口腔領域の嚢胞の病因と病理学的所見    |
| 13-15  | 顎口腔領域の腫瘍  | 顎口腔領域の腫瘍の病因と病理学的所見    |

### 評価方法

- ・随時の小テスト等で形成的評価を行う。
- ・期末の客観試験、論述試験等で総括的評価を行い、授業態度等も総括的評価に加える。

#### 参考図書等

- ・「標準病理学」第3版 秦順一監修 医学書院
- ・「エッセンシャル病理学」沢井高志他編 医歯薬出版
- ・「わかりやすい病理学」改訂第3版 岩田隆子他編 南江堂
- ・「これだけは知っておきたい疾病のなりたち」 井上泰訳 医学書院
- ・新歯科衛生士教本「病理学」第2版 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・「口腔病理アトラス」第2版 高木實監修 文光堂

|             |                                       |
|-------------|---------------------------------------|
| 科目名         | 疾病の成り立ちと生体防御                          |
| ユニット名       | 病原微生物と生体防御                            |
| 授業形態        | 講義                                    |
| 開講時期・単位・時間数 | 2 学年前期・必修 1 単位・15 時間                  |
| 科目・ユニット責任者  | 坂本裕次郎                                 |
| 授業担当者       | 坂本裕次郎、中川一路（細菌感染制御学分野）、森田育男（分子細胞機能学分野） |
| 主な授業場所      | 口腔保健学科 第4講義室                          |

### 学習目標

病原微生物の特徴と病原性および生体の防御反応のしくみについて理解する。

### 到達目標

- ・病原微生物の分類と病原性について説明できる。
- ・口腔細菌の特徴と病原性について説明できる。
- ・炎症の病因・病態について説明できる。
- ・疼痛の病因・病態について説明できる。
- ・顎・顔面・口腔領域の神経痛の病因・病態について説明できる。

### 授業計画 2 学年前期・必修 1 単位・15 時間

| 回      | 授業題目      | 授業内容                               |
|--------|-----------|------------------------------------|
| 1, 2   | 微生物学各論 1  | グラム陽性菌、グラム陰性菌                      |
| 3, 4   | 微生物学各論 2  | スピロヘータ、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア、真菌、ウイルス |
| 5, 6   | 口腔細菌      | う蝕関連細菌、歯周疾患関連細菌                    |
| 7, 8   | 炎症総論      | 炎症の分類と病態・組織変化                      |
| 9, 10  | 炎症の発生機構   | 炎症の発生機構と媒介因子                       |
| 11, 12 | 疼痛総論      | 疼痛の概念と分類、疼痛発生の原因と機序                |
| 13, 14 | 顎・顔面領域の疼痛 | 脳神経と顎・顔面領域の疼痛の原因と機序                |
| 15     | まとめ       | 病原微生物と生体防御システムのまとめ                 |

### 評価方法

- ・随時の小テスト等で形成的評価を行う。
- ・期末の客観試験、論述試験等で総括的評価を行い、授業態度等も総括的評価に加える。

#### 参考図書等

- ・新歯科衛生士教本「微生物学」第2版 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「病理学」第2版 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・「エッセンシャル病理学」沢井高志他編 医歯薬出版
- ・「わかりやすい病理学」改訂第3版 岩田隆子他編 南江堂
- ・「これだけは知っておきたい疾病のなりたち」 井上泰訳 医学書院

|             |                                                              |
|-------------|--------------------------------------------------------------|
| 科目名         | 薬理・薬剤学                                                       |
| ユニット名       | 薬理・薬剤学                                                       |
| 授業形態        | 講義                                                           |
| 開講時期・単位・時間数 | 2 学年前期・必修 2 単位・30 時間                                         |
| 科目・ユニット責任者  | 杉本久美子                                                        |
| 授業担当者       | 杉本久美子、大谷啓一・青木和広・田村幸彦（硬組織薬理学分野）、土屋文人（歯学部附属病院・薬剤部）、長谷川望（非常勤講師） |
| 主な授業場所      | 口腔保健学科 第4講義室                                                 |

### 学習目標

医薬品の薬理作用を理解し、薬物を安全かつ効果的に利用するために必要な基本的知識を修得する。

### 到達目標

- ・ 薬の作用、有効量、中毒量、致死量について概説できる。
- ・ 薬物の投与方法と生体内分布について概説できる。
- ・ 薬物の連用および併用に伴う現象について概説できる。
- ・ 中枢神経系作用薬物の種類と作用について概説できる。
- ・ 末梢神経系作用薬物の種類と作用について概説できる。
- ・ 呼吸・循環器系作用薬の種類と作用について概説できる。
- ・ 消化器系作用薬の種類と作用について概説できる。
- ・ ホルモン剤の種類と作用について概説できる。
- ・ ビタミンの種類と作用について概説できる。
- ・ 血液・造血系作用薬の種類と作用について説明できる。
- ・ 抗炎症薬の種類と作用について説明できる。
- ・ 免疫系作用薬の種類と作用について概説できる。
- ・ 病原微生物作用薬（消毒薬・化学療法薬）の種類と作用について説明できる。
- ・ 悪性腫瘍治療薬の種類と作用について概説できる。
- ・ 腐食・収斂薬の種類と作用について概説できる。
- ・ 歯科領域で用いられる薬物の種類と作用を説明できる。
- ・ 医薬品の剤形、処方箋および保管方法について概説できる。
- ・ 薬事関連法規について概説できる。
- ・ 歯科用医薬品の特徴および使用の留意点について説明できる。

授業計画 2 学年前期・必修 2 単位・30 時間

| 回      | 授業題目                          | 授業内容                                                                          |
|--------|-------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|
| 1, 2   | 薬理学とは、薬理作用と薬物の作用機序、薬理作用への影響因子 | 薬理学の構成、作用と副作用（薬の有効量・中毒量・致死量）、薬の作用点、情報伝達系、薬物の有害作用、薬物作用に影響する因子、薬物の連用に伴う現象、薬物の併用 |
| 3, 4   | 薬の投与法と生体内運命、薬物療法              | 薬物の投与経路、吸収、分布・代謝・排泄、薬物体内動態と薬効、ライフステージと薬物療法、薬物送達システムほか                         |
| 5, 6   | 中枢神経系作用薬                      | 中枢神経系に対する薬物作用、全身麻酔薬、麻薬性鎮痛薬、鎮静睡眠薬、向精神薬、抗パーキンソン薬、抗てんかん薬、中枢神経興奮薬、抗痴呆薬            |
| 7, 8   | 末梢神経系作用薬                      | 自律神経作用薬（アドレナリン作動薬、抗アドレナリン作動薬、コリン作動薬、抗コリン作動薬）、運動神経系作用薬、局所麻酔薬                   |
| 9, 10  | 循環器系作用薬                       | 降圧薬、高脂血症治療薬、抗狭心症薬、強心薬、抗不整脈薬                                                   |
| 11     | 抗炎症薬・解熱鎮痛薬                    | 生体防御反応と生体警告反応、ステロイド性抗炎症薬、非ステロイド性抗炎症薬、解熱鎮痛薬、消炎酵素薬、痛風治療薬                        |
| 12     | 免疫調節薬・免疫療法薬                   | 免疫抑制薬、免疫増強薬、ワクチン製剤、抗アレルギー薬、特異的抗リウマチ薬、抗ヒスタミン薬                                  |
| 13     | 呼吸器系作用薬                       | 鎮咳薬、去痰薬、気管支拡張薬、喘息治療薬、呼吸促進薬                                                    |
| 14     | 消化器系作用薬                       | 食欲・消化作用薬、消化性潰瘍治療薬、胃腸運動改善薬、腸疾患作用薬                                              |
| 15     | 化学療法薬 1                       | 感染症治療薬（抗生物質）                                                                  |
| 16, 17 | 化学療法薬 2                       | 感染症治療薬（抗真菌薬、抗結核薬、抗ウィルス薬）、悪性腫瘍治療薬                                              |
| 18     | 毒物と解毒薬                        | 毒物の吸収阻害・遅延、毒物の排泄促進、特異的拮抗薬、有機リン剤中毒、金属・重金属中毒                                    |
| 19     | 硬組織に作用する薬物                    | 骨代謝調節ホルモン、骨粗鬆症の治療                                                             |
| 20     | 内分泌系作用薬・ビタミン                  | 内分泌系作用薬、ホルモン拮抗薬、ビタミン                                                          |

|    |                          |                                                                         |
|----|--------------------------|-------------------------------------------------------------------------|
| 21 | 血液・造血系作用薬                | 貧血治療薬、止血薬、抗血栓療法薬、血液製剤                                                   |
| 22 | 歯科領域で使用する薬物<br>う蝕予防に用いる薬 | 歯科領域で使用する薬物の種類、う蝕予防薬の分類、フッ化物、フッ化物以外のう蝕予防薬、プラーク染色剤、洗口剤                   |
| 23 | 口腔粘膜疾患治療薬                | 口腔粘膜疾患と治療薬、口腔内用薬（洗浄剤、口腔用膏剤、口腔用貼付性製剤など）                                  |
| 24 | 歯内療法薬                    | う窩消毒剤および歯髄鎮静剤、覆髄剤、裏層剤、歯髄失活剤、歯髄乾屍剤、根管拡大補助剤と根管清掃剤、根管消毒剤、根管充填剤、象牙質知覚過敏症治療薬 |
| 25 | 歯周疾患治療薬                  | 歯周疾患の分類、歯周炎の発症、プラークコントロールに用いる薬剤、歯周治療の処置に用いる薬剤                           |
| 26 | 薬事関連法規                   | 薬事法、日本薬局方、関連法規、麻薬及び向精神薬取締法、覚醒剤取締法、大麻取締法                                 |
| 27 | 医薬品の剤形、処方箋               | 医薬品の定義、薬剤の剤形、処方箋、調剤と製剤                                                  |
| 28 | 医薬品の保管                   | 医薬品の保存方法、医薬品の混合（配合変化）など                                                 |
| 29 | 歯科用医薬品の特徴と使用             | 歯科用医薬品の特徴と剤形、歯科用医薬品の使用方法と留意点                                            |
| 30 | まとめ                      | まとめ                                                                     |

## 評価方法

- ・提出レポート、期末の客観試験、論述試験で総括的評価を行う。
- ・出席状況および授業態度を総括的評価に加味する。

## 参考図書等

- ・「シンプル薬理学」改訂第3版 植松俊彦 他編 南江堂
- ・新歯科衛生士教本「薬理学」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・「現代歯科薬理学」第3版 小椋秀亮監修 医歯薬出版
- ・「スタンダード歯科薬理学」第2版 川口充幹事編集 学建書院

## 留意事項

事前に資料の配付、e-learning へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

|             |                                       |
|-------------|---------------------------------------|
| 科目名         | 関係法規・衛生行政                             |
| ユニット名       | 関係法規・衛生行政                             |
| 授業形態        | 講義                                    |
| 開講時期・単位・時間数 | 2 学年前期・必修 2 単位・30 時間                  |
| 科目・ユニット責任者  | 寺岡加代                                  |
| 授業担当者       | 佐々木好幸（口腔保健教育研究センター）、矢澤正人（東京都立多摩立川保健所） |
| 主な授業場所      | 口腔保健学科 第4講義室                          |

### 学習目標

憲法および保健・医療・福祉に関連する法律ならびに衛生行政のシステムを理解する。

### 到達目標

- ・憲法の人権・生活権・健康権等に関する条項を説明できる。
- ・保健・医療・福祉関係従事者の身分を規定する法律を説明できる。
- ・保健・医療・福祉の業務遂行に必要となる法律を説明できる。
- ・地域保健法、健康増進法および健康日本 21 施策を説明できる。
- ・衛生行政のシステムを概説できる。

### 授業計画 2 学年前期・必修 2 単位・30 時間

| 回      | 授業題目            | 授業内容                      |
|--------|-----------------|---------------------------|
| 1, 2   | 憲法              | 憲法が保健・医療・福祉に果たす役割         |
| 3, 4   | 医療制度・医療法        | 保健・医療・福祉制度の概要と相互関係        |
| 5, 6   | 医師法・歯科医師法       | 医師法・歯科医師法の特徴と意義           |
| 7, 8   | 歯科衛生士法 1        | 歯科衛生士法の制定・改正の経緯と意義        |
| 9, 10  | 歯科衛生士法 2        | 歯科衛生士法および関連する省令・通達等       |
| 11, 12 | 関連する医療関係者の身分法   | 医師・歯科医師・歯科衛生士以外の医療に関わる身分法 |
| 13, 14 | 母子保健法           | 母子保健の動向と規則                |
| 15, 16 | 学校保健安全法         | 学校保健の動向と規則                |
| 17, 18 | 労働安全衛生法         | 産業保健の動向と規則                |
| 19, 20 | 高齢者の医療の確保に関する法律 | 老人保健の動向と規則                |

|        |        |                      |
|--------|--------|----------------------|
| 21, 22 | 地域保健法  | 地域保健の動向と規則           |
| 23, 24 | 健康増進法  | 健康増進施策の経緯と健康増進法の意義   |
| 25, 26 | 衛生行政 1 | 中央の保健行政組織とその機能       |
| 27, 28 | 衛生行政 2 | 特定の地域の保健行政組織と保健事業の実例 |
| 29, 30 | 衛生行政 3 | 保健行政組織のネットワークと今後のあり方 |

## 評価方法

期末の客観試験、記述試験で総括的評価を行う。

## 参考図書等

- ・「国民衛生の動向」（厚生の指標 臨時増刊） 厚生統計協会毎年発行
- ・新歯科衛生士教本「衛生行政・社会福祉」第2版 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・「歯科でいかそう健康増進法」8020 推進財団編 医歯薬出版
- ・「歯科六法必携」能美光房、宮武光吉、石井拓男編 ヒョーロンパブリッシャーズ
- ・新歯科衛生士教本「衛生学・公衆衛生学」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版

|             |                                       |
|-------------|---------------------------------------|
| 科目名         | 口腔健康科学                                |
| ユニット名       | 口腔健康科学                                |
| 授業形態        | 講義・PBL テュートリアル                        |
| 開講時期・単位・時間数 | 2 学年前期・必修 2 単位・30 時間                  |
| 科目・ユニット責任者  | 寺岡加代・寺岡加代(講義)、小野寺光江 (PBL テュートリアル)     |
| 授業担当者       | 寺岡加代、安藤雄一 (国立保健医療科学院)、口腔保健学科教員        |
| 主な授業場所      | 口腔保健学科 第4講義室(講義)、歯学部 演習室(PBL テュートリアル) |

### 学習目標

ヘルスプロモーションの変遷を知るとともに、活動のプロセスを学び、口腔保健の専門家としての役割を理解する。

### 到達目標

- ・口腔健康科学の意義を説明できる。
- ・ヘルスプロモーションの概要を説明できる。
- ・WHO の健康戦略を説明できる。
- ・保健行動の理論とモデルを説明できる。
- ・ヘルスプロモーションの展開過程（計画・実施・評価）を説明できる。
- ・口腔保健政策におけるヘルスプロモーションの役割を説明できる。
- ・人々の健康に関する問題を自ら発見し、解決するための方法を検討することができる。

### 授業計画 2 学年前期・必修 2 単位・30 時間

| 回     | 授業題目                  | 授業内容                                                         |
|-------|-----------------------|--------------------------------------------------------------|
| 1- 3  | 口腔健康科学・ヘルスプロモーションの概要  | 口腔健康科学の意義、ヘルスプロモーションの定義・変遷、WHO の健康戦略                         |
| 4- 6  | セッション 1               | シナリオ 1                                                       |
| 7-9   | セッション 2               | シナリオ 2                                                       |
| 10-12 | セッション 3               | シナリオ 3                                                       |
| 13-15 | 保健行動の理論・ヘルスプロモーションの役割 | 保健行動の理論とモデル (Precede-Proceed モデル)<br>口腔保健政策におけるヘルスプロモーションの役割 |
| 16-19 | セッション 4               | シナリオ 4                                                       |

|       |         |        |
|-------|---------|--------|
| 20-23 | セッション 5 | シナリオ 5 |
| 24-27 | セッション 6 | シナリオ 6 |
| 28-30 | セッション 7 | まとめ    |

### 評価方法

- ・セッション毎に、チューターによる形成的評価を行う。
- ・PBL 口頭試問および期末の客観試験、論述試験で総括的評価を行う。
- ・出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。

### 参考図書等

- ・「オーラルヘルスプロモーション」 岡田昭五郎監修 （財）口腔保健協会
- ・「ヘルスプロモーション講座」 島内憲夫編著 JUHRC
- ・「健康教育・ヘルスプロモーション」 武藤孝司著 篠原出版

### 留意事項

- ・PBL テュートリアルブックをよく読んで、グランドルールを厳守すること。
- ・事前に資料の配付、e-learning へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。
- ・必要に応じ、科目責任者(演習)、担当チューターによる面談を行うことがある。

|             |                      |
|-------------|----------------------|
| 科目名         | 口腔保健衛生学原論Ⅱ           |
| ユニット名       | 口腔保健衛生学原論Ⅱ           |
| 授業形態        | 講義                   |
| 開講時期・単位・時間数 | 2 学年前期・必修 1 単位・15 時間 |
| 科目・ユニット責任者  | 遠藤圭子                 |
| 授業担当者       | 遠藤圭子、近藤圭子、白田千代子、坪井真  |
| 主な授業場所      | 口腔保健学科 第4講義室         |

### 学習目標

国民の QOL（生活・人生の質）向上のために、口腔保健を担う専門的職業人としての倫理的配慮や活動のあり方を理解する。

### 到達目標

- ・口腔保健学の概念と概要が説明できる。
- ・歯科衛生業務展開に活用する歯科衛生過程を説明する。
- ・専門職業人を説明できる。
- ・専門職業人としての倫理、使命感（心構え）を説明できる。
- ・安全対策を説明する。
- ・クライアント（患者・相談者・利用者）の権利を説明する。
- ・保健・医療・福祉分野の職種の協働を説明する。

### 授業計画 2 学年前期・必修 1 単位・15 時間

| 回      | 授業題目            | 授業内容                                |
|--------|-----------------|-------------------------------------|
| 1, 2   | 口腔保健・歯科衛生学とは    | 口腔保健、歯科衛生とは、歯科衛生業務の展開               |
| 3, 4   | 歯科衛生過程 1        | 歯科衛生過程の意義                           |
| 5, 6   | 歯科衛生過程 2        | 理論と歯科衛生過程のつながり                      |
| 7, 8   | 対象の理解<br>専門的職業人 | 人びとの健康、口腔保健、クライアントの権利<br>専門的職業人とは何か |
| 9, 10  | 職業人としての倫理、使命    | 歯科衛生倫理、法的責任と道義的責任、守秘義務、個人情報管理、安全の確保 |
| 11, 12 | 保健・医療・福祉職種の協働   | 各分野の職種、協働とは                         |
| 13, 14 | 日本の保健・医療・福祉状    | 口腔保健の問題点、マンパワー 等                    |

**評価方法**

- ・課題レポート、期末の試験で総括的評価を行う。
- ・態度、出席状況を総括的評価に加味する。

**参考図書等**

- ・新歯科衛生士教本「歯科衛生士概論」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版 2006
- ・「自己決定の行動科学」 日本保健医療行動科学会編集 メヂカルフレンド社 1996
- ・「歯科衛生ケアプロセス」 下野正基 監著 医歯薬出版 2007
- ・「平成 17 年歯科疾患実態調査報告書」 口腔保健協会 2007
- ・その他、印刷物を配布する。

**留意事項**

事前配布資料や e-learning へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

|             |                                                                   |
|-------------|-------------------------------------------------------------------|
| 科目名         | 臨床歯科医学                                                            |
| ユニット名       | 保存系歯科医学                                                           |
| 授業形態        | 講義                                                                |
| 開講時期・単位・時間数 | 2 学年後期・必修 2 単位・30 時間                                              |
| 科目・ユニット責任者  | 石川雅章・木下淳博（教育メディア開発学分野）                                            |
| 授業担当者       | 木下淳博（教育メディア開発学分野）、島田康史（う蝕制御学分野）<br>竹田淳志（歯髄生物学分野）、坂上斉（歯髄生物学分野 T A） |
| 主な授業場所      | 口腔保健学科 第4講義室                                                      |

### 学習目標

保存系治療の種類と内容を理解し、チーム医療を実践するために必要な知識を修得する。

### 到達目標

- ・ 窩洞の分類を説明できる。
- ・ 保存修復治療の種類、目的、器具、器材、前準備、術後管理を説明できる。
- ・ 歯髄保存療法の種類、目的、器具、器材、前準備、術後管理を説明できる。
- ・ 歯髄除去療法の種類、目的、器具、器材、前準備、術後管理を説明できる。
- ・ 感染根管治療の種類、目的、器具、器材、前準備、術後管理を説明できる。
- ・ 根管充填法の種類、目的、器具、器材、前準備、術後管理を説明できる。
- ・ 外科的歯内治療の種類、目的、器具、器材、前準備、術後管理を説明できる。
- ・ 歯周基本治療の種類、目的、器具、器材、前準備、術後管理を説明できる。
- ・ 外科的歯周治療の種類、目的、器具、器材、前準備を説明できる。
- ・ 歯周治療におけるメンテナンスの内容、目的、器具、器材、前準備、術後管理を説明できる。

### 授業計画 2 学年後期・必修 2 単位・30 時間

| 回    | 授業題目     | 授業内容                           |
|------|----------|--------------------------------|
| 1, 2 | 保存修復治療   | 保存修復治療概説、保存修復治療の種類、目的、窩洞の分類    |
| 3, 4 | 成形充填修復 1 | 成形充填修復治療の流れ、材料・器具の取り扱い、準備、術後管理 |
| 5, 6 | 成形充填修復 2 | 成形充填修復治療の流れ、材料・器具の取り扱い、準備、術後管理 |
| 7, 8 | 鑄造修復     | 鑄造修復治療の流れ、材料・器具の取り扱い、準備、術後管理   |

|        |           |                                                                    |
|--------|-----------|--------------------------------------------------------------------|
| 9, 10  | 歯内治療      | 歯内治療概説、歯髄保存療法の種類、目的、器具、器材、準備、術後管理、ラバーダム防湿、隔壁                       |
| 11, 12 | 歯髄除去療法    | 歯髄除去療法の種類、目的、器具、器材、準備、術後管理                                         |
| 13, 14 | 感染根管治療    | 感染根管治療の種類、目的、器具、器材、準備、術後管理                                         |
| 15, 16 | 根管充填法     | 根管充填法の種類、目的、器具、器材、準備、術後管理、および外科的歯内治療の種類、目的、器具、器材、準備、術後管理           |
| 17, 18 | 歯周治療      | 歯周治療概説、歯周組織診査の種類、目的、器具、器材、準備、術後管理                                  |
| 19, 20 | 歯周基本治療    | 歯周基本治療の種類、目的、器具、器材、準備、術後管理                                         |
| 21, 22 | 歯周外科治療    | 歯周外科治療の種類、目的、器具、器材、準備、術後管理                                         |
| 23, 24 | メンテナンス、他  | 歯周治療におけるメンテナンスの内容、目的、器具、器材、準備、術後管理<br>その他の歯周治療の種類、目的、器具、器材、準備、術後管理 |
| 25, 26 | ケーススタディ 1 | 保存系歯科治療における診療の流れと器材の準備                                             |
| 27, 28 | ケーススタディ 2 | 保存系歯科治療における診療の流れと器材の準備                                             |
| 29, 30 | ケーススタディ 3 | 保存系歯科治療における診療の流れと器材の準備                                             |

## 評価方法

- ・随時の小テストで形成的評価を行う。
- ・期末の客観試験、記述試験で総括的評価を行う。
- ・講義、グループ討論、発表の態度等を総括的評価に加味する。

## 参考図書等

- ・新歯科衛生士教本「歯科診療補助 歯科器械の知識と取り扱い」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「保存修復学・歯内療法学」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「歯周疾患」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版
- ・「ザ・ペリオドントロジー」 和泉雄一、沼部幸博、山本松男、木下淳博 編 永末書店

## 留意事項

事前に資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合には、各自予習して授業に臨むこと。

|             |                                                         |
|-------------|---------------------------------------------------------|
| 科目名         | 臨床歯科医学                                                  |
| ユニット名       | 発達育成系・障害者歯科医学                                           |
| 授業形態        | 講義                                                      |
| 開講時期・単位・時間数 | 2 学年後期・必修 1 単位・15 時間<br>単位認定（2 単位）は 3 学年前期（15 時間）終了時に行う |
| 科目・ユニット責任者  | 石川雅章                                                    |
| 授業担当者       | 石川雅章、遠藤圭子、中里みどり（横浜市教育委員会）                               |
| 主な授業場所      | 口腔保健学科 第4講義室                                            |

### 学習目標

小児の心身の成長・発達をふまえ、発達期口腔保健の意義および口腔疾患の特徴、予防・治療法を理解する。

### 到達目標

- ・出生から青少年期までの心身の成長・発達を説明できる。
- ・小児の情緒と社会性の発達を説明できる。
- ・小児の健康を育む食生活と支援の重要性を説明できる。
- ・歯の萌出と乳歯・幼若永久歯の特徴を説明できる。
- ・顎・顔面頭蓋の成長過程を説明できる。
- ・歯列咬合の発育過程を説明できる。
- ・歯科治療時の小児の行動への対応法を説明できる。
- ・障害児口腔内の特徴と歯科的対応を説明できる。
- ・小児期の口腔保健の重要性とその手段を説明できる。
- ・小児期の口腔疾患とその治療法、チーム医療を説明できる。
- ・青少年期に特有な心身の問題とその解決策を概説できる。

### 授業計画 2 学年後期・必修 1 単位・15 時間

| 回    | 授業題目            | 授業内容                                                                                                           |
|------|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1, 2 | 顎・顔面頭蓋、歯列・咬合の発育 | 頭蓋の構成要素と相対的発育、顎顔面頭蓋の発育機構と評価法、側貌頭部エックス線規格写真計測による日本人小児の平均成長、歯列咬合の発育（無歯期、乳歯萌出期、乳歯列期、混合歯列前期、混合歯列後期、永久歯列期）、歯列発育の評価法 |

|        |                          |                                                                                                                           |
|--------|--------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 3, 4   | 小児の口腔疾患と口腔保健             | 乳歯う蝕の特徴と罹患型、重症乳歯う蝕の為害作用、青少年期のう蝕、発達期の歯周疾患、発達期の不正咬合、口腔軟組織疾患、学校歯科保健、発達期の食の問題                                                 |
| 5, 6   | 歯科治療時の小児行動への対応法、障害児の歯科治療 | 小児の歯科診療時の留意事項（診療環境の整備、小児歯科治療三角、コミュニケーションの確立）、小児の情動の特徴、行動変容法、強制的な行動抑制、鎮静法の応用、全身麻酔法、障害児口腔内所見の特徴と歯科対応                        |
| 7, 8   | 発達期におけるチーム歯科医療Ⅰ          | 診査、ラバーダム防湿法、シーラント、成形充填、鑄造歯冠修復、全部歯冠修復、間接覆髄法、GCRP、直接覆髄法、生活歯髄切断法、抜髄法、感染根管治療法、根未完成永久歯歯内療法の方                                   |
| 9, 10  | 発達期におけるチーム歯科医療Ⅱ          | 小児患者における局所麻酔、拔牙、外来小手術、小児への薬物療法、乳歯・幼若永久歯外傷時の診査、硬組織・歯髄損傷（歯冠破折、歯根破折、歯冠歯根破折）への対応、歯周組織損傷（脳震盪、亜脱臼、脱臼、脱落）への対応、固定法、乳歯外傷の後継永久歯への影響 |
| 11, 12 | 発達期におけるチーム歯科医療Ⅲ          | 咬合誘導の概念、乳歯早期喪失による歯列咬合への影響、保隙装置の種類、保隙装置の変更と撤去、動的咬合誘導の目標、診断・治療計画上のポイント、不正咬合別の治療指針                                           |
| 13, 14 | 青少年期の問題点と解決策             | 青少年の生活環境と問題、いじめ・不登校・児童虐待などの実態、解決策の模索                                                                                      |
| 15     | 発達期の口腔保健                 | 全体のまとめ                                                                                                                    |

## 評価方法

- ・随時の小テストで形成的評価を行う。
- ・2 学年後期末の客観試験、記述試験で中間的評価を行う。

## 参考図書等

- ・新歯科衛生士教本「小児歯科学」 全国歯科衛生士教育協議会 医歯薬出版
- ・小児の口腔科学 前田隆秀、朝田芳信、田中光郎他 学建書院
- ・「国民衛生の動向 2009 年」 厚生統計協会

- ・「平成 21 年版 青少年白書」 内閣府
- ・「平成 21 年版 食育白書」 内閣府
- ・「小学校 歯の保健指導の手引き」 東山書房

#### **留意事項**

- ・前期口腔疾患予防学の一連の授業のうち、最後の 3 回 6 時間の授業と連続性を有する（到達目標の最初 4 項目）
- ・My Blackboard にテキストをアップロードするので、事前の予習を十分行うこと

|             |                                                                                            |
|-------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|
| 科目名         | 口腔疾患予防学                                                                                    |
| ユニット名       | 口腔疾患予防学                                                                                    |
| 授業形態        | 講義                                                                                         |
| 開講時期・単位・時間数 | 2 学年前期・必修 2 単位・30 時間                                                                       |
| 科目・ユニット責任者  | 木下淳博（教育メディア開発学分野）                                                                          |
| 授業担当者       | 木下淳博（教育メディア開発学分野）、寺岡加代、石川雅章、<br>近藤圭子、遠藤圭子、品田佳世子（健康推進歯学分野）<br>小林賢一（スペシャルケア外来）、島田康史（う蝕制御学分野） |
| 主な授業場所      | 口腔保健学科 第4講義室                                                                               |

### 学習目標

口腔の健康状態を維持するための要因と、予防可能な口腔疾患の種類、その原因と予防法について理解する。

### 到達目標

- ・口腔疾患の予防原理を説明できる。
- ・歯科予防処置を説明できる。
- ・プラークコントロールおよび歯につく沈着物の除去について、その重要性、効果、具体的方法等を説明できる。
- ・歯周病の症状・種類・診査を説明できる。
- ・歯周病の予防を説明できる。
- ・う蝕の実態を説明できる。
- ・歯髄炎および根尖性歯周炎の症状、種類を説明できる。
- ・う蝕の予防を説明できる。
- ・フッ素のう蝕予防効果を説明できる。
- ・歯質損耗（tooth wear）の症状、種類、予防、治療法を説明できる。
- ・口臭の分類、原因、予防、処置を説明できる。
- ・セルフケア、プロフェッショナルケア、コミュニティーケアの内容を説明できる。
- ・器質的ケアと機能的ケアを説明できる。
- ・出生から青少年期までの心身の成長・発達を説明できる。
- ・小児の情緒と社会性の発達を説明できる。
- ・小児の健康を育む食生活と支援の重要性を説明できる。
- ・歯の萌出と乳歯・幼若永久歯の特徴を説明できる。

授業計画 2 学年前期・必修 2 単位・30 時間

| 回      | 授業題目                           | 授業内容                                                                 |
|--------|--------------------------------|----------------------------------------------------------------------|
| 1, 2   | 予防可能な口腔疾患概要                    | 辺縁性歯周炎の概要、う蝕の概要                                                      |
| 3, 4   | 口腔疾患予防の原理と概要<br>口腔ケアの分類        | 口腔疾患予防の原理と概要、第 1 次予防から第 3 次予防、セルフケア、プロフェッショナルケア、コミュニティケア、器質的ケア、機能的ケア |
| 5, 6   | 口腔保健の実態                        | 口腔保健の現状と課題                                                           |
| 7, 8   | 歯科予防処置                         | 歯科予防処置の種類、概要                                                         |
| 9, 10  | 口腔内の付着物                        | 口腔内付着物の種類、性質、成因等                                                     |
| 11, 12 | プラークコントロール                     | プラークコントロールの重要性と効果、方法                                                 |
| 13, 14 | 歯周病の実態                         | 歯周病の症状・種類・診査・検診、実態調査                                                 |
| 15, 16 | 歯周病の予防                         | 口腔保健指導、生活習慣指導、歯石除去、歯面研磨等                                             |
| 17, 18 | う蝕の実態                          | う蝕・歯髄炎・根尖性歯周炎の症状・種類・診査・検診、実態調査、う蝕活動性試験                               |
| 19, 20 | う蝕の予防                          | 砂糖、代用甘味料、歯ブラシ、デンタルフロス等、フッ素のう蝕予防効果、フッ素の応用法、フッ素の毒性等                    |
| 21, 22 | 歯質損耗 (tooth wear)              | 歯質損耗 (tooth wear) の症状・種類・予防・治療法                                      |
| 23, 24 | 口臭の実態と予防                       | 口臭の分類・原因・予防・処置                                                       |
| 25, 26 | 発達期の口腔疾患予防概論、身体の成長と発達、小児の生理的特徴 | 発達期の口腔疾患予防概要、発育の一般的原則と評価、発育に影響を及ぼす因子、小児期の分類、器官の発育、小児の生理的特徴と味覚の発達     |
| 27, 28 | 摂食機能の発達と食育、言語・情緒と社会性の発達        | 乳児期の反射、哺乳・離乳と摂食機能の発達、食育、日本語の音声、言語の発達、情動の発達、社会性の発達、精神・情緒の発達障害         |
| 29, 30 | 歯の発育と萌出、乳歯・幼若永久歯の特徴            | 歯の発生と分化、乳歯の萌出、永久歯の萌出、乳歯の形態学的特徴、組織学的特徴、物理化学的特徴、幼若永久歯の特徴               |

評価方法

- ・随時の小テスト・レポートで形成的評価を行う。

- ・期末の客観試験、記述試験で総括的評価を行う。
- ・講義、グループ討論、発表の態度等を総括的評価に加味する。

#### 参考図書等

- ・「ザ・ペリオドントロジー」和泉雄一、沼部幸博、山本松男、木下淳博 編 永末書店
- ・最新歯科衛生士教本「歯周疾患」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版
- ・「口腔保健のためのフッ化物応用ガイドブック」 日本口腔衛生学会フッ素研究部会編 口腔保健協会
- ・「8020 地域歯科保健活動の現場から」 榊原悠紀田郎監修 ヒョーロンパブリッシャーズ
- ・「歯周病と全身の健康を考える」 ライオン歯科衛生研究所編 医歯薬出版
- ・「口腔ケアによる気道感染予防」 地域保健研究会口腔ケアによる気道感染予防研究委員会編 社会保険研究所
- ・新歯科衛生士教本「小児歯科学」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・「小児の口腔科学」 前田隆秀、朝田芳信、田中光郎 他著 学建書院

#### 留意事項

事前に資料の配付、e-learning へのアップロード等があった場合には、各自予習して授業に臨むこと。

|             |                      |
|-------------|----------------------|
| 科目名         | 口腔疾患予防学              |
| ユニット名       | 顎口腔機能育成学             |
| 授業形態        | 講義                   |
| 開講時期・単位・時間数 | 2 学年後期・必修 1 単位・15 時間 |
| 科目・ユニット責任者  | 木下淳博・石川雅章            |
| 授業担当者       | 辻美千子（顎顔面矯正学分野）       |
| 主な授業場所      | 口腔保健学科 第4講義室         |

### 学習目標

顎口腔機能の発達過程および不正咬合との関連を理解し、顎口腔機能の育成および個性正常咬合獲得を、口腔保健の立場から支援するための知識を修得する。

### 到達目標

- ・ 正常な歯列咬合の状態を説明できる。
- ・ 不正咬合の種類とその影響を説明できる。
- ・ 不正咬合の診断に必要な資料・情報を説明できる。
- ・ 不正咬合の診断・治療法を概説できる。
- ・ 歯科矯正器材と装置の種類・取り扱い方を概説できる。
- ・ 歯科矯正治療におけるチーム医療を説明できる。
- ・ 歯科矯正治療中の患児の口腔保健指導が説明できる。
- ・ 歯科矯正治療中の患児への口腔ケアと心理的支援を説明できる。
- ・ 顎口腔機能の育成を概説できる。

### 授業計画 2 学年後期・必修 1 単位・15 時間

| 回    | 授業題目       | 授業内容                                                                              |
|------|------------|-----------------------------------------------------------------------------------|
| 1    | 歯科矯正学概論    | 不正咬合の生理的・心理的障害、矯正治療の目的とその必要性、矯正歯科治療の歴史、矯正歯科臨床における歯科衛生士の役割                         |
| 2, 3 | 成長・発育と口腔習癖 | 成長発育曲線、顎・顔面・頭蓋の成長発育、歯列の成長発育（乳歯列、混合歯列、永久歯列、歯年齢）、口腔習癖の種類と頻度、咬合・咀嚼・発音・嚥下への影響、口腔筋機能療法 |
| 4, 5 | 咬合         | 正常咬合の定義、不正咬合の種類（歯の異常、歯                                                            |

|        |                            |                                                                        |
|--------|----------------------------|------------------------------------------------------------------------|
|        |                            | 列弓形態の異常、上下顎間関係の異常)と分類, 不正咬合の原因(遺伝的・環境的、先天的・後天的)、不正咬合の予防                |
| 6, 7   | 矯正診断                       | 診査と情報の収集(相談・問診・写真・口腔模型・パノラマエックス線写真・頭部エックス線規格写真、口腔機能検査等)、症例分析法、治療方針の立て方 |
| 8, 9   | 矯正治療における生体反応と生力学、矯正治療の使用器材 | 矯正力、歯の移動・組織反応、歯の移動様式、固定、矯正用器具の種類とその取り扱い、矯正材料の種類と取り扱い                   |
| 10, 11 | 矯正装置                       | 舌側弧線装置、マルチブラケット装置、床矯正装置、機能的顎矯正装置、側方拡大装置、顎外固定装置、保定装置など、各装置の説明と注意事項      |
| 12, 13 | 不正咬合の治療法                   | 混合歯列期(第Ⅰ期治療)、永久歯列期(第Ⅱ期治療)、成人の矯正歯科治療(外科矯正、補綴前準備、歯周疾患患者、MTM)             |
| 14, 15 | 歯科矯正治療におけるチーム医療            | 歯科矯正治療の補助、矯正治療中の口腔保健指導、患児への口腔ケアと心理的支援                                  |

## 評価方法

- ・随時の小テスト・レポートで形成的評価、期末の客観試験、記述試験で総括的評価を行う。
- ・講義、グループ討論、発表の態度等を総括的評価に加味する。

## 参考図書等

- ・新歯科衛生士教本「歯科矯正学」 全国歯科衛生士教育評議会編 医歯薬出版
- ・正歯科治療とオーラルハイジーンコントロール 高田健治監修 クインテッセンス出版
- ・歯科矯正学と診療補助 東理十三雄監修 遠藤敏哉著 クインテッセンス出版
- ・歯科矯正学 第4版 葛西一貴他編 医歯薬出版

## 留意事項

事前に資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合には、各自予習して授業に臨むこと。

|             |                                                                                                                              |
|-------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 科目名         | 口腔疾患予防学実習                                                                                                                    |
| ユニット名       | 口腔疾患予防学実習                                                                                                                    |
| 授業形態        | 実習                                                                                                                           |
| 開講時期・単位・時間数 | 2 学年前期・必修・45 時間<br>2 学年後期・必修・45 時間<br>単位認定（3 単位）は3 学年前期（45 時間）終了時に行う                                                         |
| 科目・ユニット責任者  | 近藤圭子                                                                                                                         |
| 授業担当者       | 石川雅章、寺岡加代、吉増秀實、木下淳博（教育メディア開発学分野）、近藤圭子、白田千代子、遠藤圭子、小原由紀、大塚紘未、須永昌代（教育メディア開発学分野）、佐々木好幸（口腔保健教育研究センター）、岡田昌子・田澤千鶴・山梨楠奈子・堀江明子（非常勤講師） |
| 主な授業場所      | 口腔保健学科 臨床基礎実習室・相互実習室                                                                                                         |

### 学習目標

歯・口腔の状態把握および歯科予防処置の基本的技術を修得する。

### 到達目標

- ・う蝕予防と歯周歯科疾患予防の基礎を説明できる。
- ・歯、口腔（歯、歯肉、歯の付着物・沈着物）の状態を把握し、説明できる。
- ・生体への配慮（器具の消毒・滅菌、感染予防、手指の消毒法、偶発事故の予防）の基本を実践しながら、歯科予防処置を実施できる。
- ・歯科予防処置のうち、歯石除去、歯面清掃、SRP、う蝕予防処置、フッ化物歯面塗布、フッ化物洗口を実施できる。
- ・歯科衛生過程の基本を理解し、使用できる。

### 授業計画

#### 2 学年前期・必修・45 時間

| 回     | 授業題目                        | 授業内容                          |
|-------|-----------------------------|-------------------------------|
| 1-3   | 実習の進め方、各種インスツルメント           | 実習の進め方・室の使い方、スケーラー選定          |
| 4-6   | 歯科衛生過程－アセスメント               | 診査・検査（EPP、PCR、OHI、PMA）診査器具    |
| 7-9   | 診査用器具の取り扱い/人間工学             | エキスポローリング/位置と姿勢               |
| 10-12 | 歯科衛生過程－実施<br>インスツルメンテーション 1 | インスツルメントの種類と把持法、基本操作と前歯スケーリング |

|       |                             |                      |
|-------|-----------------------------|----------------------|
| 13-15 | 歯科衛生過程－実施<br>インスツルメンテーション 2 | 前歯部のスケーリング（透明歯肉を用いて） |
| 16-18 | 歯科衛生過程－実施<br>インスツルメンテーション 3 | 前歯部のスケーリング（透明歯肉を用いて） |
| 19-21 | 歯科衛生過程－実施<br>インスツルメンテーション 4 | 臼歯部のスケーリング（透明歯肉を用いて） |
| 22-24 | 歯科衛生過程－実施<br>インスツルメンテーション 5 | 臼歯部のスケーリング（透明歯肉を用いて） |
| 25-27 | 歯科衛生過程－実施<br>インスツルメンテーション 6 | 臼歯部のスケーリング（透明歯肉を用いて） |
| 28-30 | シャープニング                     | スケーラーのシャープニング        |
| 31-33 | 超音波スケーリング 1                 | 超音波スケーラー実習           |
| 34-36 | 超音波スケーリング 2                 | 超音波スケーラー実習           |
| 37-39 | ルートプレーニング 1                 | スケーリングルートプレーニングの方法   |
| 40-42 | ルートプレーニング 2                 | ルートプレーニング実習          |
| 43-45 | 歯面研磨                        | 歯面研磨                 |

## 2 学年後期・必修・45 時間

| 回     | 授業題目     | 授業内容                 |
|-------|----------|----------------------|
| 46-48 | 基礎訓練振り返り | 基本スキルの確認             |
| 49-51 | SRP 1    | スケーリングルートプレーニング、研磨 1 |
| 52-54 | SRP 2    | スケーリングルートプレーニング、研磨 2 |
| 55-57 | 口腔内診査 1  | 相互実習 医療面接と口腔内観察      |
| 58-60 | 口腔内診査 2  | 相互実習 歯の診査・歯周組織検査     |
| 61-63 | 歯科衛生診断   | 診断ステートメント            |
| 64-66 | 相互実習 1   | 手用スケーラーを用いた歯石除去      |
| 67-69 | 相互実習 2   | 〃                    |
| 70-72 | 相互実習 3   | 〃                    |
| 73-75 | 相互実習 4   | 〃                    |
| 76-79 | 相互実習 5   | 超音波スケーラーによる歯石除去      |

|       |          |                       |
|-------|----------|-----------------------|
| 80-83 | 相互実習 6   | 超音波スケーラーによる歯石除去       |
| 84-87 | 記録の整理と確認 | 記録の整理と確認              |
| 88-90 | フッ化物応用   | フッ化物歯面塗布、フッ化物応用の方法と実際 |

### 評価方法

- ・随時の小テストで形成的評価を行う。
- ・実習態度などを評価に加味する。
- ・2 学年後期末に、2 学年履修範囲（2 単位相当）の実技試験および筆記試験による中間試験を実施し、総括的評価を行う。

### 参考図書等

- ・「Fundamentals of Periodontal Instrumentation」 Jill S. Nield-Gehrig, Lippincott Eilliams & Wilkins, 2007.
- ・新歯科衛生士教本「歯科予防処置」全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・e-learning システム上にアップロード、または授業の際に印刷物を配付する。

### 留意事項

事前に資料の配付、e-learning へのアップロードなどがあった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

|             |                      |
|-------------|----------------------|
| 科目名         | 口腔健康統計学・情報処理論        |
| ユニット名       | 口腔健康統計学・情報処理論        |
| 授業形態        | 講義                   |
| 開講時期・単位・時間数 | 2 学年後期・必修 2 単位・30 時間 |
| 科目・ユニット責任者  | 寺岡加代                 |
| 授業担当者       | 佐々木好幸（口腔保健教育研究センター）  |
| 主な授業場所      | 口腔保健学科 第4講義室         |

### 学習目標

集団の口腔保健に関する問題を解決するための疫学的方法論を修得し、情報処理の実際を体験する。

### 到達目標

- ・衛生統計の意義および目標を説明できる。
- ・資料の収集方法について説明できる。
- ・標本の抽出について説明できる。
- ・う蝕の検出と指数を説明できる。
- ・歯周疾患の検出と指数を説明できる。
- ・口腔清掃状態と歯石の指数を説明できる。
- ・検定の意味について概略を説明できる。
- ・基本的なデータ集計、データ分析ができる。
- ・医学論文における基本的な解析結果を説明できる。
- ・情報を法的・倫理的に正しく取り扱うことができる。

### 授業計画 2 学年後期・必修 2 単位・30 時間

| 回 | 授業題目          | 授業内容                    |
|---|---------------|-------------------------|
| 1 | 保健統計の意義と目標    | 保健統計の果たす役割              |
| 2 | 疫学の成果         | 疫学の定義・成果・要因・タイプ         |
| 3 | 疫学の実際         | 疫学研究の方法論                |
| 4 | 資料の作成および指標と尺度 | 調査票の作成における留意点、尺度や数量化の方法 |
| 5 | 調査の実施と資料の真実性  | 調査の実施方法、統計資料の真実性の考察     |
| 6 | マスキング         | 各種マスキングの方法と実例           |

|    |                       |                                |
|----|-----------------------|--------------------------------|
| 7  | 母集団と標本                | 母集団に対する標本の一般化の可能性と代表性          |
| 8  | バイアス                  | 系統誤差の種類とその対策                   |
| 9  | 交絡                    | 因果推論と交絡                        |
| 10 | リスクとリスクファクタ           | リスクとリスクファクタの相違                 |
| 11 | 口腔診査の疫学的意義            | 口腔診査法の変遷とそれぞれの特徴、歯科検診における誤差の考察 |
| 12 | スクリーニングと診断            | スクリーニングの方法と特性の評価法              |
| 13 | 情報の分析                 | 情報分析の方法論                       |
| 14 | 標本抽出法                 | いろいろな標本抽出法                     |
| 15 | 標本抽出演習                | 正規母集団からの標本抽出と集計実習              |
| 16 | 標本抽出のまとめ              | 抽出標本からの母集団の推定                  |
| 17 | う蝕の検出基準と指数            | う蝕の各種検出基準・指数とその意義              |
| 18 | う蝕の指数に関する演習           | う蝕の各種指数の集団における評価の演習            |
| 19 | 歯周疾患の検出基準と指数          | 歯周疾患の各種検出基準・指数とその意義            |
| 20 | 歯周疾患の指数に関する演習         | 歯周疾患の各種指数の集団における評価の演習          |
| 21 | 口腔清掃状態および歯石の検出基準と指数   | 口腔清掃状態・歯石の各種検出基準・指数とその意義       |
| 22 | 口腔清掃状態および歯石の指数に関する演習  | 口腔清掃状態・歯石の各種指数の集団における評価の演習     |
| 23 | 歯のフッ素症・酸蝕症などの検出基準と指数  | 歯のフッ素症・酸蝕症等の各種検出基準・指数とその意義     |
| 24 | 歯のフッ素症・酸蝕症などの指数に関する演習 | 歯のフッ素症・酸蝕症等の各種指数の集団における評価の演習   |
| 25 | グラフ                   | グラフの読解と使い分け                    |
| 26 | 規格化と相関                | 規格化の方法と関連の表現法                  |
| 27 | 推定                    | 統計的推定法                         |
| 28 | 検定                    | 検定の使い分け                        |
| 29 | 個人情報とプライバシー           | 個人情報とプライバシーの相違                 |
| 30 | 情報に関する倫理              | 情報に関する倫理                       |

## 評価方法

期末の客観試験、記述試験で総括的評価を行う。

## 参考図書等

- ・「解説 平成 17 年歯科疾患実態調査」 歯科疾患実態調査報告解析検討委員会編 口腔保健協会
- ・「歯科衛生の動向 2007 年版」 日本口腔衛生学会編 医歯薬出版
- ・「歯科保健関係統計資料」 歯科保健医療研究会編 口腔保健協会
- ・歯科衛生士教本「歯科衛生統計」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版

|             |                      |
|-------------|----------------------|
| 科目名         | 口腔健康教育               |
| ユニット名       | 口腔健康教育               |
| 授業形態        | 講義                   |
| 開講時期・単位・時間数 | 2 学年前期・必修 2 単位・30 時間 |
| 科目・ユニット責任者  | 遠藤圭子                 |
| 授業担当者       | 遠藤圭子、近藤圭子、白田千代子      |
| 主な授業場所      | 口腔保健学科 第4講義室・セミナー室   |

### 学習目標

ライフステージ毎の健康課題に基づいて、口腔健康教育のアセスメントから評価に至る流れを修得する。

### 到達目標

- ・口腔健康教育を説明できる。
- ・ライフステージ毎の健康課題を説明する。
- ・歯科衛生過程を活用した健康教育実践の流れが説明できる。
- ・歯科衛生に関わる理論を説明する。
- ・ニーズの把握について説明できる。
- ・アセスメント、歯科衛生診断、歯科衛生計画、実施、評価の各ステップが説明できる。
- ・健康教育計画立案のモデルを使い、課題に関する健康教育の計画ができる。
- ・家庭、地域、学校、職域における健康教育の実際を知る。

### 授業計画 2 学年前期・必修 2 単位・30 時間

| 回     | 授業題目                         | 授業内容                                   |
|-------|------------------------------|----------------------------------------|
| 1, 2  | 口腔健康教育とは                     | 健康教育・口腔健康教育の定義と考え方                     |
| 3, 4  | ライフステージ毎の健康課題                | 健康のとらえ方、発達課題                           |
| 5, 6  | 口腔健康教育の基盤となる理論、健康教育のための計画づくり | ヒューマンニーズ、行動理論<br>アセスメント、診断、計画、実施、評価の意味 |
| 7, 8  | 健康教育の実践                      | 健康教育実践に必要なスキル                          |
| 9, 10 | 健康教育の評価                      | 評価とは何か、評価の種類                           |

|        |                |                    |
|--------|----------------|--------------------|
| 11, 12 | 評価の具体的な事例      | 保健行政における健康教育評価     |
| 13, 14 | 社会的アプローチ       | 健康権、ソーシャルマーケティング論  |
| 15, 16 | 健康教育の展開－家庭     | 家庭における健康教育の実際      |
| 17, 18 | 健康教育の展開－学校     | 学校における健康教育の実際      |
| 19, 20 | 健康教育の展開－職域     | 職域における健康教育の実際      |
| 21, 22 | 健康教育の展開－地域     | 地域における健康教育の実際      |
| 23, 24 | 課題別健康教育－ライフスキル | ライフスタイル支援のあり方      |
| 25, 26 | 課題別健康教育－運動、歯科  | 運動指針、筋力トレーニング、禁煙支援 |
| 27, 28 | 課題別健康教育－栄養、休養  | 食育、余暇時間            |
| 29, 30 | まとめ            | まとめ                |

## 評価方法

- ・課題レポート、期末の試験で総括的評価を行う。
- ・受講態度、出席状況等を総括的評価に加味する。

## 参考図書等

- ・日本健康教育学会編 「健康教育 ヘルスプロモーションの展開」 保健同人社 2003
- ・全国歯科衛生士教育協議会編 新歯科衛生士教本「歯科保健指導」 医歯薬出版 2004
- ・平成 17 年歯科疾患実態調査報告書 口腔保健協会 2007
- ・授業の際、印刷物を配布する。

## 留意事項

事前配布資料や e-learning へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

|             |                                           |
|-------------|-------------------------------------------|
| 科目名         | 口腔健康教育実習                                  |
| ユニット名       | 口腔健康教育実習                                  |
| 授業形態        | 実習                                        |
| 開講時期・単位・時間数 | 2 学年前期・必修・47 時間<br>2 学年後期・必修・43 時間 } 2 単位 |
| 科目・ユニット責任者  | 遠藤圭子                                      |
| 授業担当者       | 遠藤圭子、近藤圭子、白田千代子、大塚紘未                      |
| 主な授業場所      | 口腔保健学科 第4講義室                              |

### 学習目標

口腔健康教育の実践に必要な知識・技術を修得し、実践力を培う。

### 到達目標

- ・生活と口腔保健行動の関連を説明する。
- ・自分の歯や口の現状を観察、唾液検査を行う。
- ・自分自身の歯や口の現状を把握して、口腔健康教育計画を立てる。
- ・歯科衛生過程によって、健康教育が組み立てられる。
- ・クラスの健康行動調査を行い、集計、分析して、問題点を列挙する。
- ・個人の口腔保健と生活習慣に関するアセスメントができる。
- ・アセスメント内容を活用して、歯科衛生診断、計画立案ができる。
- ・対象者に合わせた健康教育計画が立案できる。
- ・口腔健康教育実践のためのツールを説明できる。
- ・口腔清掃の術式、用具の種類と用途を説明できる。
- ・口腔清掃指導の流れを実施できる。
- ・口腔内写真撮影を行い、評価して、得られる情報を列挙する。
- ・歯科衛生過程に基づいて、小学生対象の健康教育を行う。

### 授業計画

#### 2 学年前期・必修・47 時間

| 回   | 授業題目              | 授業内容                   |
|-----|-------------------|------------------------|
| 1-3 | 口腔健康教育実習の意義と具体的内容 | 口腔健康教育と実習の意義、生活と口腔保健行動 |
| 4-6 | 学生生活の実態と健康行動      | 学生の生活実態、健康行動           |

|        |                                |                                                        |
|--------|--------------------------------|--------------------------------------------------------|
| 7-9    | 歯科衛生過程<br>1 アセスメント<br>2 歯科衛生診断 | 歯科衛生過程に基づいて、各要素を検討する<br>アセスメント<br>歯科衛生診断               |
| 10-12  | 対象者の口腔保健と生活                    | 各自の口腔観察、サリバテスト、PCR 等の実際生活に関する情報の収集、整理                  |
| 13-15  | 口腔環境                           | 検査結果の分析                                                |
| 16-18  | 歯科衛生診断                         | アタックポイントの検討、優先順位の決定                                    |
| 19, 20 | 歯科衛生過程<br>3 計画立案<br>4 実践       | 歯科衛生過程に基づいて、各要素を検討する<br>歯科衛生診断を活用した計画立案<br>実践に必要な基礎的情報 |
| 21-23  | T 小学校健康教育実習                    | T 小学校における健康教育実習の目的<br>1・2 年対象の健康教育の実際、報告書作成            |
| 24, 25 | ブラッシング法                        | ブラッシング法の種類、利点と欠点<br>口腔内の状態によるブラッシング法の選択                |
| 26, 27 | 様々な口腔清掃用具                      | 舌ブラシ、粘膜ブラシ、電動歯ブラシ、口腔洗浄器                                |
| 28, 29 | 口腔清掃関連器材                       | 歯垢染め出し剤の使用意義と使用上の注意                                    |
| 30, 31 | 対象別健康教育事例検討 1                  | 乳幼児期の健康課題                                              |
| 32, 33 | 対象別健康教育事例検討 2                  | 学童期の健康課題                                               |
| 34, 35 | 対象別健康教育事例検討 3                  | 思春期の健康課題                                               |
| 36, 37 | 対象別健康教育事例検討 4                  | 成人期の健康課題                                               |
| 38, 39 | 対象別健康教育事例検討 5                  | 妊娠中の健康課題                                               |
| 40, 41 | 対象別健康教育事例検討 6                  | 高齢者の健康課題                                               |
| 42, 43 | 対象別健康教育事例検討 7                  | 在宅高齢者の健康課題、訪問活動とは、居宅訪問時の留意点、アセスメント、BDR、ADL             |
| 44, 45 | 小学生の生活と保健行動把握                  | 調査項目の設定、調査票の設計                                         |
| 46, 47 | 〃                              | 小学生の保健行動に関する文献検索                                       |

## 2 学年後期・必修・43 時間

| 回     | 授業題目          | 授業内容                 |
|-------|---------------|----------------------|
| 48-50 | 小学生対象の健康教育 1  | 学童対象の健康教育計画          |
| 51    | スウェーデンの歯科保健事情 | 歯科保健の現状、清掃用具         |
| 52-54 | 視聴覚教材の種類と応用法  | 視聴覚教材とは、種類、長所・欠点、応用法 |

|        |                      |                                                 |
|--------|----------------------|-------------------------------------------------|
| 55-57  | 口腔内写真撮影 1<br>写真撮影の基礎 | デジタルカメラの取り扱い、撮影、パソコンへの取り込み・整理、管理法               |
| 58-60  | 小学生対象の健康教育 2         | 歯科衛生診断、計画立案、健康教育目標の設定媒体、シナリオ（絵コンテ）作成            |
| 61-64  | 口腔内写真撮影 2<br>相互実習    | 口角鉤、写真用ミラーの使用上の注意<br>相互実習時の配慮点<br>写真撮影、写真の整理・管理 |
| 65-67  | 小学生対象の健康教育 3         | リハーサル、評価<br>健康教育評価法の選択                          |
| 68-70  | 口腔内写真撮影 3<br>相互実習    | 写真撮影、写真の整理・管理<br>報告書の作成                         |
| 71-73  | 小学生対象の健康教育 4         | 集団対象時の留意点（服装、話し方、発声、視線の向け方、媒体の使用法 等）            |
| 74-76  | 小学校健康教育実習 5          | 実習、事後評価                                         |
| 77-79  | 臨床の場における健康教育<br>症例検討 | 患者に関する情報の収集、健康教育法<br>模型、実物の活用の仕方                |
| 80-82  | 小学生対象の健康教育 6         | 学校、保護者への結果報告書の作成                                |
| 83-88  | 症例検討報告               | 報告書の作成、発表、討議                                    |
| 89, 90 | まとめ                  | 健康教育の意義と場                                       |

## 評価方法

- ・授業態度、グループワークでの役割行動、出席、提出物、期末試験によって、総括的評価を行う。
- ・期末試験受験資格は、東京医科歯科大学歯学部試験規則第 11 条に準ずる。

## 参考図書

- ・「平成 17 年歯科疾患実態調査報告」 厚生労働省医政局歯科保健課編 口腔保健協会
- ・新歯科衛生士教本「保健指導」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・「新歯ブラシ事典」 松田裕子、近藤いさを 学建書院
- ・「プラークコントロールのためのホームケア指導」 荒川浩久編集 クインテッセンス出版
- ・「歯と口の健康百科」 伊藤公一他編 医歯薬出版
- ・「子どもの声を生かした保健室活動 ー大規模校における養護教諭と子どもたちー」 尾花美恵子 不昧堂出版
- ・「お母さんの疑問にこたえる すこやかな口 元気な子ども」 田中英一、佐々木洋他 医歯薬出版

**留意事項**

- ・ 事前に資料の配付、e-learning へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。
- ・ 授業進度や学外実習先の状況によって、関連の授業項目の順序が入れ替わることもある。

|             |                       |
|-------------|-----------------------|
| 科目名         | 食生活教育                 |
| ユニット名       | 食生活論                  |
| 授業形態        | 講義                    |
| 開講時期・単位・時間数 | 2 学年前期・必修 1 単位・15 時間  |
| 科目・ユニット責任者  | 小野寺光江                 |
| 授業担当者       | 小野寺光江、森田育男（分子細胞機能学分野） |
| 主な授業場所      | 口腔保健学科 第4講義室          |

### 学習目標

日本人の食生活の現状を把握し、栄養成分の消化・吸収・代謝と健康の維持・増進、生活活動のために必要な栄養素を理解する。

### 到達目標

- ・栄養素の種類と機能を説明できる。(1 年)
- ・栄養素の体内での消化・吸収・代謝を説明できる。(1 年)
- ・国民健康・栄養調査を説明できる。
- ・日本人の食事摂取基準を説明できる。
- ・ライフステージに適した食生活を説明できる。
- ・保健機能食品を説明できる。

### 授業計画 2 学年前期・必修 1 単位・15 時間

| 回      | 授業題目          | 授業内容                                   |
|--------|---------------|----------------------------------------|
| 1, 2   | 日本人の食生活       | 国民健康・栄養調査と日本人の食事摂取基準ほか                 |
| 3, 4   | ライフステージと食生活 1 | 成長・発達・加齢による食に関する機能の変化と食生活<br>母性の栄養と食生活 |
| 5, 6   | ライフステージと食生活 2 | 乳児期の栄養と食生活<br>幼児期の栄養と食生活               |
| 7, 8   | ライフステージと食生活 3 | 学童期の栄養と食生活<br>青少年期の栄養と食生活              |
| 9, 10  | ライフステージと食生活 4 | 成人期の栄養と食生活<br>高齢期の栄養と食生活               |
| 11, 12 | 保健機能食品 1      | 食品安全学、保健機能食品概論                         |

|        |          |          |
|--------|----------|----------|
| 13, 14 | 保健機能食品 2 | 保健機能食品特論 |
| 15     | まとめ      | まとめ      |

### 評価方法

- ・期末の客観試験、記述試験で総括的評価を行う。
- ・講義態度等を総括的評価に加味する。

### 参考図書等

- ・副読本：「食品成分表 2010」 香川芳子監修 女子栄養大学出版部
- ・「わかりやすい栄養学」 第 3 版 中村美知子・長谷川恭子編集 ニューヴェルヒロカワ

### 留意事項

事前に資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

|             |                      |
|-------------|----------------------|
| 科目名         | 食生活教育                |
| ユニット名       | 栄養指導                 |
| 授業形態        | 講義                   |
| 開講時期・単位・時間数 | 2 学年前期・必修 1 単位・15 時間 |
| 科目・ユニット責任者  | 寺岡加代                 |
| 授業担当者       | 寺岡加代、小野寺光江           |
| 主な授業場所      | 口腔保健学科 第4講義室         |

### 学習目標

栄養学の知識を基に食生活について理解し、栄養指導に必要な知識と技能を修得する。

### 到達目標

- ・ 栄養指導の意義が説明できる。
- ・ 個人の栄養・食生活の分析ができる。
- ・ 食生活と口腔保健の関連が説明できる。
- ・ 疾病と栄養指導との関連が説明できる。
- ・ 食品の形態と食べやすさの関係について説明できる。
- ・ 口腔保健の立場から個人にあった栄養指導ができる。

### 授業計画 第2学年前期・必修1単位・15時間

| 回  | 授業題目         | 授業内容                    |
|----|--------------|-------------------------|
| 1  | 栄養指導の基礎知識 1  | 栄養指導の意義（食育、有病者の栄養管理を含む） |
| 2  | 栄養指導の基礎知識 2  | 栄養・食事バランスの分析 1          |
| 3  | 栄養指導の基礎知識 3  | 栄養・食事バランスの分析 2          |
| 4  | 栄養指導の基礎知識 4  | 栄養・食事バランスの分析 3          |
| 5  | 栄養指導の基礎知識 5  | 食生活と口腔保健の関連 1 咀嚼の全身への影響 |
| 6  | 栄養指導の基礎知識 6  | 食生活と口腔保健の関連 2 食生活と口腔機能  |
| 7  | 栄養指導の基礎知識 7  | 食生活と口腔保健の関連 3 食品のう蝕誘発能  |
| 8  | 栄養指導の基礎知識 8  | 疾病と栄養指導 1               |
| 9  | 栄養指導の基礎知識 9  | 疾病と栄養指導 2               |
| 10 | 栄養指導の基礎知識 10 | 食品の形態と食べやすさの関係          |

|    |          |          |
|----|----------|----------|
| 11 | 栄養指導演習 1 | 栄養指導実例 1 |
| 12 | 栄養指導演習 2 | 栄養指導実例 2 |
| 13 | 栄養指導演習 3 | 栄養指導実例 3 |
| 14 | 栄養指導演習 4 | 栄養指導実例 4 |
| 15 | まとめ      | まとめ      |

### 評価方法

- ・ 期末の客観試験、記述試験で総括的評価を行う。
- ・ 講義、グループ討論、発表の態度等を総括的評価に加味する。

### 参考図書等

- ・ 副読本：「食品成分表 2010」 香川芳子監修 女子栄養大学出版部
- ・ 新歯科衛生士教本「栄養指導・生化学」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・ 「歯科栄養」 小鹿真理、加藤靖正著 学建書院
- ・ 「わかりやすい栄養学」 第 3 版 中村美知子・長谷川恭子編集 ノーヴェルヒロカワ
- ・ 「糖尿病食事療法のための食品交換表」 第 6 版 日本糖尿病学会編 日本糖尿病協会・文光堂

### 留意事項

事前に資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

|             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|-------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 科目名         | 医学一般                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| ユニット名       | 医学一般                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 授業形態        | 講義                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 開講時期・単位・時間数 | 2 学年後期・必修・30 時間<br>単位認定（4 単位）は3 学年前期（30 時間）終了時に行う                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 科目・ユニット責任者  | 吉増秀實                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 授業担当者       | 下門顕太郎(血流制御内科学分野)、稲瀬直彦(総合呼吸器病学分野)、磯部光章・蜂谷 仁(循環制御内科学分野)、高橋龍太郎(東京都老人総合研究所)、岡本隆一(消化器病態学分野)、水澤英洋(脳神経病態学分野)、太田哲人(腎臓内科学分野)、新井文子(血液内科学分野)、溝口史高、(膠原病・リウマチ内科学分野)、大野喜久郎(脳神経機能外科学分野)、西蔭徹郎(血管・応用外科学分野)、石黒めぐみ・佐藤隆宣(腫瘍外科学分野)、有井滋樹(肝胆膵・総合外科学分野)伊藤聡一郎(国際医療福祉大学)、森戸俊行(運動器外科学分野)、高嶺智子・若林晶(生殖機能協同学分野)、西川徹・車地暁生(精神行動医科学分野) |
| 主な授業場所      | 口腔保健学科 第4 講義室                                                                                                                                                                                                                                                                                         |

### 学習目標

口腔保健活動を行うために必要な臨床医学の各分野の知識を身につける。

### 到達目標

- ・ 主な感染症を説明できる。
- ・ 主な循環器疾患を説明できる。
- ・ 主な呼吸器疾患を説明できる。
- ・ 主な消化器疾患を説明できる。
- ・ 主な神経疾患を説明できる。
- ・ 主な血液疾患を説明できる。
- ・ 主な精神疾患を説明できる。
- ・ 主な骨・関節・結合組織疾患を説明できる。
- ・ 主な精神疾患を説明できる。
- ・ 臓器移植を概説できる。
- ・ 主な先天性疾患を説明できる。(3 年)

- ・主な小児科疾患を説明できる。(3年)
- ・主な皮膚疾患を説明できる。(3年)
- ・主な耳鼻咽喉科疾患を説明できる。(3年)
- ・主な眼科疾患を説明できる。(3年)
- ・主な泌尿器科疾患を説明できる。(3年)
- ・老化に伴う主な疾患を説明できる。(3年)
- ・再生医療を概説できる。(3年)
- ・救急医療について概説できる。(3年)
- ・機能障害およびリハビリテーション医療を説明できる。(3年)
- ・有病者の歯科治療・口腔保健活動における対応法を説明できる(3年)。

#### 授業計画 2 学年後期・必修・30 時間

| 回      | 授業題目  | 授業内容                                                              |
|--------|-------|-------------------------------------------------------------------|
| 1-12   | 内科    | 総論、循環器疾患、呼吸器疾患、消化管疾患、肝・胆・膵疾患、代謝性疾患、内分泌疾患、腎臓疾患、神経内科、血液疾患、膠原病・リウマチ等 |
| 13, 14 | 脳神経外科 | 脳血管障害、脳腫瘍等                                                        |
| 15-18  | 外科    | 食道・胃外科、大腸・肛門外科、肝胆膵外科、乳腺外科等                                        |
| 19-22  | 整形外科  | 神経系疾患、関節系疾患等                                                      |
| 23-26  | 産婦人科  | 妊娠、出産 不妊治療 高齢出産、更年期障害 閉経後の病気、子宮筋腫、子宮内膜炎、子宮がん、卵巣がん等                |
| 27-30  | 精神科   | うつ病、心身症 ストレスとこころの病 不眠症、自閉症、ひきこもり、潔癖症、拒食症、アルツハイマー症、パーキンソン病、老年期の痴呆等 |

#### 評価方法

- ・随時小テストを行い、形成的評価を行う。期末に客観試験、記述試験を行い、総括的評価を行う。
- ・講義、グループ討論、発表の態度等を総括的評価に加味する。
- ・2 学年後期末に、2 学年履修範囲（2 単位相当）について中間試験を実施し、総括的評価を行う。
- ・中間試験の受験資格は、東京医科歯科大学歯学部試験規則第 11 条に準ずる。

#### 参考図書等

- ・新版社会福祉士要請講座 13「医学一般」 第2版 社会福祉士養成講座編集委員会 中央法規
- ・社会福祉士養成テキストブック 16「医学一般」 黒田研二、竹内孝仁編著 ミネルヴァ書房

**留意事項**

事前に資料の配布、e-learning 上へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

|             |                         |
|-------------|-------------------------|
| 科目名         | 口腔と全身の健康評価              |
| ユニット名       | 生活習慣と疾患                 |
| 授業形態        | 講義（PBL テュートリアル）         |
| 開講時期・単位・時間数 | 2 学年前期・必修 1 単位・15 時間    |
| 科目・ユニット責任者  | 吉増秀實、小野寺光江（PBL テュートリアル） |
| 授業担当者       | 口腔保健学科教員                |
| 主な授業場所      | 歯学部 演習室                 |

### 学習目標

生活習慣病を理解し、口腔保健衛生活動が生活習慣病予防に果たす役割について理解する。

### 到達目標

- ・生活習慣病について説明ができる。
- ・生活習慣病を引き起こす生活習慣とその予防法について説明することができる。
- ・生活習慣病を引き起こす生活習慣要因以外の要因について説明することができる。
- ・生活習慣病と日本人の死亡原因について説明することができる。
- ・生活習慣病におけるヘルスプロモーションの重要性を説明することができる。
- ・生活習慣病をもつ人びとに対する健康教育の重要性を説明することができる。
- ・生活習慣病と歯周病との関係について説明できる。
- ・生活習慣病に関する問題を自ら発見し、解決するための方法を検討することができる。

### 授業計画 2 学年前期・必修 1 単位・15 時間

| 回      | 授業題目     | 授業内容       |
|--------|----------|------------|
| 1      | セッション 1  | シナリオ 1     |
| 2-4    | セッション 2  | シナリオ 2     |
| 5-8    | セッション 3  | シナリオ 3     |
| 9, 10  | セッション 4  | シナリオ 3 の発表 |
| 11, 12 | PBL 試験 1 | 口頭試問用シナリオ  |
| 13-15  | PBL 試験 2 | 口頭試問       |

### 評価方法

- ・セッション毎に、テューターによる形成的評価を行う。

- ・ PBL 口頭試問および期末の客観試験、論述試験で総括的評価を行う。
- ・ 出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。

#### **留意事項**

- ・ PBL テュートリアルブックをよく読んで、グランドルールを厳守すること。
- ・ 事前に資料の配付、e-learning へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。
- ・ 必要に応じ、科目責任者(演習)、担当テューターによる面談を行うことがある。

|             |                                                                       |
|-------------|-----------------------------------------------------------------------|
| 科目名         | 口腔と全身の健康評価                                                            |
| ユニット名       | 口腔と全身の健康評価・臨床検査                                                       |
| 授業形態        | 講義                                                                    |
| 開講時期・単位・時間数 | 2 学年後期・必修 2 単位・30 時間                                                  |
| 科目・ユニット責任者  | 吉増秀實                                                                  |
| 授業担当者       | 吉増秀實、木下淳博、近藤圭子、鉄村明美（口腔放射線医学分野）、品田佳世子（健康推進歯学分野）、岡田憲彦（中央検査部）、小林裕（非常勤講師） |
| 主な授業場所      | 口腔保健学科 第4講義室・臨床基礎実習室                                                  |

### 学習目標

口腔保健の実践に必要な口腔健康診断についての理論と実際を理解し、個々の対象者に応用できる問題解決能力を身につける。

### 到達目標

- ・ 診断のための医療面接を説明できる。
- ・ 面接および検査の結果を、業務記録に記載できる。
- ・ バイタルサインの意義を説明できる。
- ・ 口腔および頭頸部の臨床評価について説明し、実施できる。
- ・ 口腔疾患と全身疾患の関係を説明できる。
- ・ 口腔領域のエックス線写真を読影できる。
- ・ 口腔内の検査を実施し、その結果を評価できる。
- ・ 主な臨床検査について説明できる。
- ・ 提示された事例についての口腔健康診断を行い、口腔保健活動計画を立案できる。

### 授業計画 2 学年後期・必修 2 単位・30 時間

| 回    | 授業題目        | 授業内容                          |
|------|-------------|-------------------------------|
| 1    | 口腔保健プロセスの概念 | 口腔保健プロセスの構成要素、口腔健康診断プロセスとは。   |
| 2, 3 | 医療面接        | 診断のための医療面接、面接にあたり注意すべき点、問診の方法 |
| 4    | バイタルサイン     | 全身状態の把握のためのバイタルサインのとり方        |

|        |                         |                                                       |
|--------|-------------------------|-------------------------------------------------------|
| 5      | 口腔外アセスメント               | 頭頸部の健康状態の把握、顔面および頸部リンパ節の診<br>査法（視診、触診）                |
| 6-9    | 口腔内アセスメント               | 口腔内の健康状態の把握、口腔粘膜、唾液腺、顎骨等の<br>診査、歯および歯周組織の診査、口腔衛生状態の評価 |
| 10-12  | 口腔疾患と全身疾患の関連            | 口腔領域に症状が現れる全身疾患・全身に影響を及ぼす<br>口腔疾患                     |
| 13, 14 | 口腔保健プロセスの各ステー<br>ジと相互関連 | アセスメント、問題の明確化、計画立案（目標設定と方<br>略）、実施・評価                 |
| 15     | 業務記録                    | 業務記録とは、業務記録の記載内容、記載法                                  |
| 16-18  | 画像診断                    | 歯と歯周組織の X 線診断、デンタル X 線写真、パノラマ<br>X 線写真等の読影法（正常像、異常像）等 |
| 19-21  | 口臭検査・唾液検査               | 口臭検査、唾液検査の講義・実習                                       |
| 22-24  | 臨床検査 1                  | 臨床検査概論、血液検査                                           |
| 25-27  | 臨床検査 2                  | 肝機能検査、腎機能検査、感染症検査                                     |
| 28-30  | 臨床検査 3                  | 病理検査、口腔領域の検査                                          |

## 評価方法

- ・随時小テストを行い、形成的評価を行う。期末に客観試験、記述試験を行い、総括的評価を行う。
- ・講義、グループ討論、発表の態度等を総括的評価に加味する。

## 参考図書等

- ・「Dental Hygiene Process: Diagnosis and care planning」 Mueller-Joseph L, Petersen M., Delmar Publishers
- ・「Clinical Practice of the Dental Hygienist」 Wilkins, Esther M., Lippincott Williams & Wilkins
- ・「内科診断学」 福井次矢、奈良信雄編 医学書院
- ・「診察の技法と考え方」 寺本民生、秋葉隆編著 中外医学社
- ・「口腔診断学」 下里常弘監修 稔、長坂信夫、船越正也著 デンタルダイヤモンド社
- ・「口腔病変と患者の診かた」 富田喜内、河村正昭、福田博著 医歯薬出版
- ・「最新口腔外科学」 第4版(総論) 塩田重利、富田喜内監修 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「口腔衛生学・歯科衛生統計」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「歯科診療補助 歯科器械の知識と取扱い」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版

## 留意事項

事前に資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

|             |                                             |
|-------------|---------------------------------------------|
| 科目名         | 臨床口腔保健衛生基礎学                                 |
| ユニット名       | 臨床口腔保健衛生基礎学                                 |
| 授業形態        | 講義                                          |
| 開講時期・単位・時間数 | 2 学年前期・必修 1 単位・15 時間                        |
| 科目・ユニット責任者  | 下山和弘                                        |
| 授業担当者       | 高木裕三（小児歯科学分野）、石川雅章、下山和弘、遠藤圭子、木下淳博、吉増秀實、寺岡加代 |
| 主な授業場所      | 口腔保健学科 第4講義室                                |

### 学習目標

口腔保健・歯科医療の変遷と現状、歯科医療従事者の種類と役割、歯科診療の概要を理解する。

### 到達目標

- ・口腔保健・歯科医療の変遷と現状を概説できる。
- ・歯科患者の特徴、心理状態を説明できる。
- ・歯科診療従事者の種類をあげ、それぞれの役割が説明できる。
- ・歯科診療の流れと概要を説明できる。

### 授業計画 2 学年前期・必修 1 単位・15 時間

| 回      | 授業題目           | 授業内容                               |
|--------|----------------|------------------------------------|
| 1, 2   | 口腔保健、歯科医療      | 口腔保健、歯科医療の変遷と現状、予測                 |
| 3, 4   | 育成系歯科診療の概要     | う蝕・歯周疾患の予防と抑制、不正咬合とその治療            |
| 5, 6   | 再建系歯科診療の概要     | 歯科補綴治療の意義と歯科補綴装置（冠橋義歯、部分床義歯、全部床義歯） |
| 7, 8   | 歯科診療従事者と歯科受診患者 | 臨床の場における専門職種の協働、患者対応の留意点           |
| 9, 10  | 保存系歯科診療の概要     | 保存修復、歯内治療、歯周治療                     |
| 11, 12 | 外科系歯科診療の概要     | 抜歯、外傷、炎症性疾患、嚢胞性疾患、腫瘍性疾患            |
| 13, 14 | 歯科保健・医療制度の概要   | 歯科保健・医療サービスの提供システム                 |
| 15     | まとめ            | まとめ                                |

### 評価方法

必要に応じてレポートの提出を課すとともに、期末に客観試験、記述試験を行い、総括的評価を行う。

### 参考図書等

- ・新歯科衛生士教本「歯科臨床概論」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版

### 留意事項

事前に資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合には、各自予習して授業に臨むこと。

|             |                      |
|-------------|----------------------|
| 科目名         | 臨床口腔保健衛生基礎学          |
| ユニット名       | 歯科放射線学               |
| 授業形態        | 講義                   |
| 開講時期・単位・時間数 | 2 学年後期・必修 1 単位・15 時間 |
| 科目・ユニット責任者  | 下山和弘                 |
| 授業担当者       | 大林尚人（口腔放射線医学分野）      |
| 主な授業場所      | 口腔保健学科 第4講義室         |

### 学習目標

歯科診療の診断に必要な放射線に関して、チーム医療に必要な知識、基本的手技を習得する。

### 到達目標

- ・放射線物理の基本的な内容を説明できる。
- ・歯科放射線の撮影方法について説明できる。
- ・放射線撮影にあたり、撮影の意味とその被曝の程度や適切な防護について説明できる。
- ・放射線治療の概要について説明できる。
- ・CTやMRIなどの画像診断法について概説できる。

### 授業計画 2 学年後期・必修 1 単位・15 時間

| 回      | 授業題目          | 授業内容                           |
|--------|---------------|--------------------------------|
| 1, 2   | 放射線物理         | 放射線と放射能、X線の性質と物質透過性            |
| 3, 4   | X線撮影法         | X線撮影装置の基本構造と各種歯科用装置、フィルムの現像と管理 |
| 5, 6   | X線撮影の補助 1     | 口内法（二等分法、平行法、咬合法）              |
| 7, 8   | X線撮影の補助 2     | 口外法（パノラマ、顎関節、頭部 X線規格撮影）        |
| 9, 10  | 放射線治療-腫瘍学と生物学 | 放射線による口腔癌の治療、治療中の口腔管理          |
| 11, 12 | 放射線の管理と防護     | 放射線被曝、被曝線量の測定、放射線防護用具          |
| 13, 14 | 画像診断          | CT、MRI、PET/CT、RI 検査            |
| 15     | まとめ           | 必要とされる放射線の知識                   |

### 評価方法

必要に応じてレポートの提出を課すとともに、期末の客観試験、記述試験で総括的評価を行う。

出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。

#### 参考図書等

- ・ 歯科衛生士テキスト わかりやすい歯科放射線学 有地榮一郎ほか監修 学建書院
- ・ 新歯科衛生士教本「歯科放射線学」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・ 「歯科放射線学」 古本啓一、山本昭、岡野友宏著 医歯薬出版
- ・ 「放射線の ABC」 真室哲雄編 丸善
- ・ 「新・放射線の人体への影響」 日本保健物理協会・日本アイソトープ協会編 丸善

#### 留意事項

事前に資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合には、予習して授業に臨むこと。

|             |                      |
|-------------|----------------------|
| 科目名         | 臨床口腔保健衛生基礎学          |
| ユニット名       | 歯科生体材料学              |
| 授業形態        | 講義                   |
| 開講時期・単位・時間数 | 2 学年前期・必修 1 単位・15 時間 |
| 科目・ユニット責任者  | 下山和弘                 |
| 授業担当者       | 高橋英和（先端材料評価学分野）      |
| 主な授業場所      | 口腔保健学科 第4講義室         |

### 学習目標

顎口腔歯科領域の治療に使用される歯科生体材料の種類と使用法について理解する。

### 到達目標

- ・歯科生体材料の一般的性質を説明できる。
- ・石膏の種類と使用方法を説明できる。
- ・印象材の種類と使用方法について説明できる。
- ・セメント（合着用セメント、成形修復用セメント）の種類と使用方法について説明できる。
- ・アクリルレジンおよびコンポジットレジンの種類と使用方法について説明できる。
- ・歯科補綴治療（インプラントを含む）に使用する材料の種類と使用方法を概説できる。
- ・歯科生体材料の安全性について説明できる。

### 授業計画 2 学年前期・必修 1 単位・15 時間

| 回 | 授業題目                   | 授業内容                                          |
|---|------------------------|-----------------------------------------------|
| 1 | 歯科生体材料の特徴、歯科生体材料の生体適合性 | 歯科生体材料の特徴とその素材、歯科材料の所要性質、生体適合性の重要性、生体適合性の評価方法 |
| 2 | 歯科生体材料の物理的性質と化学的性質     | 歯科生体材料の物理的性質、機械的性質、応力-ひずみ線図、硬さ                |
| 3 | 成形修復材 1                | 歯科用アマルガムの性質と取り扱い方法、ガラスイオノマーセメントの性質と取り扱い方法     |
| 4 | 成形修復材 2                | コンポジットレジンの性質と取り扱い方法、接着機序                      |
| 5 | 印象材 1                  | 印象材の所要性質、アルジネート印象材、寒天印象材                      |
| 6 | 印象材 2                  | ゴム質印象材、非弾性印象材、機能印象材                           |
| 7 | 模型材 1                  | 模型材の所要性質、石膏の種類と性質                             |

|    |                                 |                                                              |
|----|---------------------------------|--------------------------------------------------------------|
| 8  | 模型材 2                           | 石膏の取り扱い方法                                                    |
| 9  | 鑄造                              | 歯科精密鑄造の概要とその特徴、鑄造用合金の種類と特徴                                   |
| 10 | 義歯床用材料                          | 義歯床用レジンの特徴、レジンの重合、裏装材、義歯安定剤                                  |
| 11 | 合着材 1                           | 合着材の所要性質と種類、リン酸亜鉛セメントの特徴と練和法                                 |
| 12 | 合着材 2                           | ポリカルボキシレートセメントの特徴と練和法、ガラスアイオノマーセメントの特徴と練和法、接着性レジンセメントの特徴と練和法 |
| 13 | 歯内治療用材料、予防歯科材料<br>矯正治療用材料       | 歯内療法に用いる小器具の特徴、仮封材の特徴、<br>予防填塞材の種類と特徴、歯ブラシの構造矯正用ワイヤの特徴       |
| 14 | 口腔外科用材料と感染予防<br>インプラント材料とその他の材料 | 顎義歯に用いる材料、エピーテーゼに用いる材料<br>インプラント材料の性質、歯科再生材料の性質、歯の物性         |
| 15 | まとめ                             | 歯科生体材料のまとめ                                                   |

## 評価方法

- ・ 期末の筆記試験で総括的評価を行う。
- ・ 必要に応じて小テストによる形成的評価を行う。
- ・ 出席状況、平常学習態度等を総括的評価に加味する。

## 参考図書等

- ・ 宮崎隆ほか編「臨床歯科理工学」 医歯薬出版 2006 年
- ・ 小倉英夫ほか編「コア歯科理工学」 医歯薬出版 2008 年

|             |                                                                      |
|-------------|----------------------------------------------------------------------|
| 科目名         | 臨床口腔保健衛生基礎学実習                                                        |
| ユニット名       | 臨床口腔保健衛生基礎学実習                                                        |
| 授業形態        | 実習                                                                   |
| 開講時期・単位・時間数 | 2 学年後期・必修・45 時間<br>単位認定（2 単位）は 3 年前期（45 時間）終了時に行う                    |
| 科目・ユニット責任者  | 白田千代子                                                                |
| 授業担当者       | 白田千代子、下山和弘、寺岡加代、吉増秀實、遠藤圭子、近藤圭子、小野寺光江、小野卓史（顎顔面矯正学分野）、田澤千鶴・堀江明子（非常勤講師） |
| 主な授業場所      | 口腔保健学科 臨床基礎実習室・第4講義室、歯学科 実習室                                         |

### 学習目標

歯科臨床の場でチーム医療の実践に必要な知識・技術を理解し、基礎的な技術を身につける。

### 到達目標

- ・ 器材の種類・特性・用途がわかる。
- ・ 診療に必要な器械・材料・薬品の適切な準備と取り扱いができる。
- ・ 器材の特性にあわせて、滅菌・消毒をすることができる。
- ・ 患者が安全に受診できるように、診療環境を整えることができる。
- ・ 患者と円滑にコミュニケーションをとれる。
- ・ チーム医療に必要な技能を実践できる。
- ・ 直接対面行為の技能を実践できる。
- ・ 診療に必要な検査を行い結果の意味が判断でき、患者に説明ができる。
- ・ バイタルサイン（意識レベルも含む）の測定ができ、サインの判断ができる。
- ・ 救急蘇生について説明でき、実施できる。

### 授業計画 2 学年後期・必修・45 時間

| 回   | 授業題目               | 授業内容                   |
|-----|--------------------|------------------------|
| 1-3 | 歯科診療におけるチームワークについて | 歯科診療のチームワークの概要         |
| 4-6 | 共同動作 1             | 共同動作の基礎、(位置・姿勢等)       |
| 7-9 | 共同動作 2             | 共同動作の応用（診療補助に関わるテクニック） |

|       |               |                            |
|-------|---------------|----------------------------|
| 10-12 | 歯科診療における器械・材料 | 基本的な器械・材料の取り扱い、衛生材料の種類と作り方 |
| 13-15 | 滅菌・消毒の実際      | 器材別の取り扱いと実践について            |
| 16-18 | 共同動作 3        | 共同動作の応用（診療補助に関わるテクニック）     |
| 19-21 | 小児歯科関連実習 1    | ラバーダム防湿法、予防填塞 1            |
| 22-24 | 小児歯科関連実習 2    | ラバーダム防湿法、予防填塞 2            |
| 25-27 | 研究用模型の作成 1    | 全顎の印象採得実習                  |
| 28-30 | 研究用模型の作成 2    | 全顎の印象採得実習                  |
| 31-33 | 研究用模型の作成 3    | 平行模型の作製                    |
| 34-36 | 研究用模型の作成 4    | 平行模型の作製                    |
| 37-39 | 矯正歯科関連実習 1    | 矯正歯科における診査、検査、診断           |
| 40-42 | 矯正歯科関連実習 2    | 矯正歯科における器材の取扱い（結紮、他）       |
| 43-45 | バイタルサイン       | 歯科診療に必要な計測、検査              |

## 評価方法

- ・期末の筆記試験、実技試験および提出レポートまたは課題により評価する。
- ・授業態度・意欲および授業参加度により評価する。
- ・2 学年後期末に、2 学年履修範囲（1 単位相当）の中間試験を実施し、総括的評価を行う。

## 参考図書等

- ・新歯科衛生士教本「歯科診療補助 歯科材料の知識と取り扱い」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「歯科診療補助 歯科器械の知識と取り扱い」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・臨床科目関連の新歯科衛生士教本 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・最新「歯科医療における院内感染対策 CDC ガイドライン」 歯科における院内感染対策ガイドライン検討委員会 永末書店

|             |                                                       |
|-------------|-------------------------------------------------------|
| 科目名         | 口腔保健衛生基礎科学実習                                          |
| ユニット名       | 口腔保健衛生基礎科学実習                                          |
| 授業形態        | 実習                                                    |
| 開講時期・単位・時間数 | 2 学年前期・必修 1 単位・45 時間                                  |
| 科目・ユニット責任者  | 杉本久美子                                                 |
| 授業担当者       | 杉本久美子、坂本裕次郎、小野寺光江、高橋英和（先端材料評価学分野）、青木和宏・田村幸彦（硬組織薬理学分野） |
| 主な授業場所      | 口腔保健学科 基礎科学実習室・第3講義室                                  |

### 学習目標

解剖・生理学、病理学、薬理学・薬剤学、生体材料学などの講義で学習した内容について、実習を通して理解を深める。

### 到達目標

- ・人体を構成する主要な骨、筋、神経、脈管および臓器の基本構造を観察し、説明できる。
- ・頭頸部の骨、筋、神経、脈管および臓器の構造を観察し、説明できる。
- ・人体を構成する主要な器官の病的状態を観察し、常態との違いを説明できる。
- ・歯の脱灰過程を観察し、酸とう蝕の関係を説明できる。
- ・咀嚼筋筋電図および誘発筋電図を記録し、筋収縮のしくみについて説明できる。
- ・味覚および体性感覚の感覚検査を行い、感覚のしくみについて説明できる。
- ・心筋の電気活動の観察に基づいて、心臓の働きについて説明できる。
- ・歯科で用いられる生体材料の基本的な操作法を説明できる。
- ・歯科で用いられる代表的な薬物の作用を観察し、薬物の特性を説明できる。
- ・蛍光色素等の硬組織内への沈着を観察し、硬組織の成長・発育過程を説明できる。

### 授業計画 2 学年前期・必修 1 単位・45 時間

| 回     | 授業題目    | 授業内容             |
|-------|---------|------------------|
| 1-3   | 解剖実習 1  | 頭頸部の骨、筋、神経、脈管の観察 |
| 4-6   | 解剖実習 2  | 臓器の構造観察          |
| 7-10  | 病理・組織実習 | 病理組織観察、歯の脱灰過程の観察 |
| 11-14 | 薬理実習 1  | 全身麻酔薬の作用         |
| 15-18 | 薬理実習 2  | 硬組織の薬理           |

|       |          |                                      |
|-------|----------|--------------------------------------|
| 19-22 | 薬理実習 3   | 鎮痛薬の薬理、局所麻酔薬の作用                      |
| 23-26 | 歯科材料実習 1 | 石膏の硬化反応                              |
| 27-29 | 歯科材料実習 2 | 印象採得と模型の精度                           |
| 30-33 | 生理実習 1   | 血圧・脈拍数・ヘモグロビン酸素飽和度・体温の測定、肺気量の計測      |
| 34-37 | 生理実習 2   | 心機能、咀嚼筋筋電図                           |
| 38-41 | 生理実習 3   | 感覚機能検査（皮膚感覚の測定、味覚閾値測定、嗅覚検査）          |
| 42-45 | 歯科材料実習 3 | 歯科用セメント、常温重合型レジンとコンポジットレジンの硬化反応と寸法変化 |

### 評価方法

出席状況、実習態度、提出レポートで総括的評価を行う。

### 参考図書等

e-learning システム上にアップロード、または授業の際に印刷物を配付する。

### 留意事項

- ・必ず白衣を着用すること。
- ・事前に、配付される実習書を読み、関連知識を予習しておくこと。
- ・1～10 回および 30～41 回の実習は、2 グループに分けて、解剖系と生理系の実習を行う。

|             |                 |
|-------------|-----------------|
| 科目名         | 現代社会と福祉Ⅰ        |
| ユニット名       | 現代社会と福祉Ⅰ        |
| 授業形態        | 講義              |
| 開講時期・単位・時間数 | 2 学年前期・必修・15 時間 |
| 科目・ユニット責任者  | 坪井真             |
| 授業担当者       | 坪井真             |
| 主な授業場所      | 口腔保健学科 第4講義室    |

### 学習目標

- ・保健・医療・福祉の専門職に共通する人権擁護や社会正義などの価値・倫理を理解する。
- ・現代社会における社会福祉の意義や理念、福祉政策との関係について理解する。

### 到達目標

- ・保健・医療・福祉の専門職に共通する人権擁護や社会正義などの価値・倫理を説明できる。
- ・現代社会における社会福祉の意義を保健・医療・福祉専門職の価値・倫理と関連づけながら説明できる。
- ・現代社会における福祉政策の構成要素や社会資源、関連政策などの概要を説明することができる。
- ・人々の生活と健康に関連する社会福祉の課題について、自らの意見を述べることができる。
- ・社会福祉と口腔保健の関連性に興味関心をもち、自ら調べ、考える態度がとれる。

### 授業計画 2 学年前期・必修・15 時間

| 回 | 授業題目                | 授業内容                  |
|---|---------------------|-----------------------|
| 1 | オリエンテーション           | 授業内容の理解、学習関心や学習方法の確認  |
| 2 | 社会福祉の概念と理念          | 人びとの生活に関わる日本の社会福祉制度   |
| 3 | 社会福祉の歴史的展開過程 1      | 前近代社会における社会福祉の歴史      |
| 4 | 社会福祉の歴史的展開過程 2      | 近代社会における社会福祉の歴史       |
| 5 | 社会福祉の歴史的展開過程 3      | 現代社会における社会福祉（実践と制度）   |
| 6 | グループ討議 1            | 人びとの健康と生活に関連する社会福祉の課題 |
| 7 | 現代社会における福祉政策と関連事項 1 | 現代社会の特徴と福祉政策の概念・理念    |
| 8 | 現代社会における福祉政策と関連事項 2 | 日本と諸外国における社会福祉と関連分野   |

|    |                     |                       |
|----|---------------------|-----------------------|
| 9  | 現代社会における福祉政策と関連事項 3 | 人びとの健康に関連する日本の政策と国際動向 |
| 10 | グループ討議 2            | 人びとの健康に関連する政策と社会福祉    |
| 11 | 保健・医療・福祉専門職の価値・倫理 1 | 福祉の哲学・原理・価値・人間観       |
| 12 | 保健・医療・福祉専門職の価値・倫理 2 | 保健・医療・福祉専門職の特徴と共通点    |
| 13 | 保健・医療・福祉専門職の価値・倫理 1 | 健康にかかわる保健・医療・福祉専門職の役割 |
| 14 | グループ討議 3            | 人々の健康と生活を支援するために必要なこと |
| 15 | まとめ                 | 授業の振り返りと学習成果の確認       |

### 評価方法

- ・授業内レポートで重要な単元の学習成果を評価する。
- ・グループディスカッション（事例検討など）の参加状況を評価に加味する。
- ・定期試験を実施し、総合的に評価する。

### 参考図書等

- ・教科書：「現代社会と福祉 第2版（新・社会福祉士養成講座 第4巻）」社会福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版
- ・その他、随時授業中に紹介する。

### 留意事項

事前に資料の配付、e-learning システム上へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。また、講義における質疑応答などには主体的に参加し、学ぶ意欲を持って授業に参加することを望む。

|             |                 |
|-------------|-----------------|
| 科目名         | 現代社会と福祉Ⅱ        |
| ユニット名       | 現代社会と福祉Ⅱ        |
| 授業形態        | 講義              |
| 開講時期・単位・時間数 | 2 学年前期・選択・15 時間 |
| 科目・ユニット責任者  | 坪井真             |
| 授業担当者       | 坪井真             |
| 主な授業場所      | 口腔保健学科 第4講義室    |

### 学習目標

- ・保健・医療・福祉の専門職に共通する人権擁護や社会正義などの価値・倫理を理解する。
- ・現代社会における社会福祉の意義や理念、福祉政策との関係について理解する。

### 到達目標

- ・保健・医療・福祉の専門職に共通する人権擁護や社会正義などの価値・倫理を具体的に説明できる。
- ・現代社会における社会福祉の意義を保健・医療・福祉専門職の価値・倫理と関連づけながら具体的に説明できる。
- ・福祉政策におけるニーズと社会資源について説明できる
- ・福祉政策の課題や福祉政策の構成要素（福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割を含む）について説明できる
- ・福祉政策と関連政策（教育政策、住宅政策、労働政策を含む）の関係について説明できる。
- ・相談援助活動と福祉政策との関係について説明できる。
- ・人々の生活と健康に関連する社会福祉の課題について、自らの意見を具体的に述べるができる。
- ・社会福祉と口腔保健の関連性に興味関心をもち、自ら調べ、考える態度をもつ。

### 授業計画 2 学年前期・選択・15 時間

| 回 | 授業題目             | 授業内容                  |
|---|------------------|-----------------------|
| 1 | オリエンテーション        | 授業内容の理解、学習関心や学習方法の確認  |
| 2 | 福祉政策におけるニーズと社会資源 | ニーズと社会資源の定義、グループ演習①   |
| 3 | 福祉政策の課題 1        | 現代の社会問題（貧困・失業・社会的排除等） |

|    |             |                        |
|----|-------------|------------------------|
| 4  | 福祉政策の課題 2   | 社会的包摂とセーフティネット、グループ討議② |
| 5  | 福祉政策の課題 3   | 福祉国家の類型と福祉政策の国際比較      |
| 6  | 福祉政策の課題 4   | 日本と諸外国の福祉政策、グループ討議③    |
| 7  | 福祉政策の構成要素 1 | 福祉政策の視座と福祉供給部門の概要      |
| 8  | 福祉政策の構成要素 2 | 福祉政策と日常生活、グループ討議④      |
| 9  | 福祉政策の構成要素 3 | 福祉政策の手法・政策決定過程・政策評価    |
| 10 | 福祉政策の構成要素 4 | 福祉供給部門の特徴、グループ討議⑤      |
| 11 | 福祉政策の構成要素 5 | 福祉供給・福祉利用に内在する課題       |
| 12 | 福祉政策の構成要素 6 | 福祉政策と相談援助の関係、グループ討議⑥   |
| 13 | 福祉政策と関連政策 1 | 保健・医療・福祉分野の政策と生活関連政策   |
| 14 | 福祉政策と関連政策 2 | 福祉政策と生活課題、グループ討議⑦      |
| 15 | まとめ         | 授業の振り返りと学習成果の確認        |

## 評価方法

- ・授業内レポートで重要な単元の学習成果を評価する。
- ・グループディスカッション（事例検討など）の参加状況を評価に加味する。
- ・定期試験を実施し、総合的に評価する。

## 参考図書等

- ・教科書：「現代社会と福祉 第2版（新・社会福祉士養成講座 第4巻）」社会福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版
- ・他随時授業中に紹介する。

## 留意事項

事前に資料の配付、e-learning システム上へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。また、講義における質疑応答などには主体的に参加し、学ぶ意欲を持って授業に参加することを望む。

|             |                            |
|-------------|----------------------------|
| 科目名         | 低所得者に対する支援と生活保護制度          |
| ユニット名       | 低所得者に対する支援と生活保護制度          |
| 授業形態        | 講義                         |
| 開講時期・単位・時間数 | 2 学年前期（夏季集中）・選択 2 単位・30 時間 |
| 科目・ユニット責任者  | 坪井真                        |
| 授業担当者       | 弓削俊雄                       |
| 主な授業場所      | 口腔保健学科 第4講義室               |

### 学習目標

- ・低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要とその実際について理解する。
- ・生活保護制度や関連制度、自立支援プログラムの意義とその実際について理解する。

### 到達目標

- ・低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要とその実際について説明できる。
- ・相談援助活動において必要となる生活保護制度や関連制度について説明できる。
- ・自立支援プログラムの意義とその実際について説明できる。
- ・憲法 25 条の生存権保障の精神に基づく公的扶助の意義と役割を説明できる。

### 授業計画 2 学年前期（夏季集中）・選択 2 単位・30 時間

| 回     | 授業題目                       | 授業内容                                                     |
|-------|----------------------------|----------------------------------------------------------|
| 1-3   | 公的扶助の歴史とその役割、外国の公的扶助の歴史と概要 | 日本の公的扶助（広い意味での社会福祉）の歴史から、制度の社会的役割を学ぶ、外国の公的扶助の歴史・概要から比較する |
| 4-6   | 貧困と低所得階層の生活実態              | 低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要と実際                           |
| 7-9   | 生活保護制度の概要、生活保護法の基本原理       | 生活保護制度の社会保障制度における位置づけと制度の概要                              |
| 10-12 | 生活保護法の運用と福祉事務所の役割          | 生活保護の実施要領（保護手帳）について、生活保護の実施機関としての福祉事務所                   |
| 13-15 | 生活保護法の4原則                  | 生活保護法第2章・第7条～第10条について                                    |
| 16-18 | 被保護者の権利と義務、福祉              | 被保護者の権利と義務、福祉事務所の機能と実施体制、                                |

|       |                       |                                            |
|-------|-----------------------|--------------------------------------------|
|       | 事務所の実施体制              | 生活保護制度における組織及び団体の役割と実際                     |
| 19-21 | 生活保護制度における専門職の役割と実際   | 社会福祉主事（CW）の役割、生活保護の CW 論争（ケースワークとはなにか）     |
| 22-24 | 生活保護基準、生活保護制度の財政・予算   | 実際の生活保護基準の計算、生活保護予算の特殊性等（予備費優先）            |
| 25-27 | 生活保護制度と保健・医療・福祉専門職の連携 | 生活保護制度における多職種連携、ネットワーキングと実際                |
| 28-30 | 現在の生活保護制度の現状と今後の課題    | 自立支援プログラムの意義と実際、低所得者へ住宅政策、ホームレス対策など（現状と課題） |

### 評価方法

- ・随時のリアクション・ペーパーで授業の参加状況を評価に加味する。
- ・定期試験を実施し、総合的に評価する。

### 参考図書等

- ・教科書：「低所得者に対する支援と生活保護制度 第2版（新・社会福祉士養成講座 第16巻）」社会福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版
- ・参考書：「社会福祉小六法」2010年度版 ミネルヴァ書房編集部編 ミネルヴァ書房

|             |                       |
|-------------|-----------------------|
| 科目名         | 障害者に対する支援と障害者自立支援制度 I |
| ユニット名       | 障害者に対する支援と障害者自立支援制度 I |
| 授業形態        | 講義                    |
| 開講時期・単位・時間数 | 2 学年後期・必修 1 単位・15 時間  |
| 科目・ユニット責任者  | 坪井真                   |
| 授業担当者       | 雨宮由紀枝（日本女子体育大学）       |
| 主な授業場所      | 口腔保健学科 第4講義室          |

### 学習目標

- ・障害者の生活実態と社会情勢、福祉・介護需要（地域移行や就労の実態を含む）、国際的動向について理解する。
- ・障害者自立支援法や障害者の福祉・介護に係る他の法制度について理解する。
- ・障害者の自立生活と社会参加に向けた支援のあり方を理解する

### 到達目標

- ・障害者の生活実態と社会情勢、国際的動向、障害の概念について概括的に説明できる。
- ・障害者にかかわる法律と、障害者の自立支援の制度の概要について説明できる。
- ・障害児の療育と教育の現状と課題について説明できる。
- ・障害児者のための地域および生活環境の整備について説明できる。
- ・障害児者とその家族へのライフステージに応じた支援のあり方を説明できる。
- ・障害者の雇用・就労の現状と課題について説明できる。
- ・現代社会における障害者福祉の課題を説明できる。

### 授業計画 2 学年後期・必修 1 単位・15 時間

| 回     | 授業題目          | 授業内容                                           |
|-------|---------------|------------------------------------------------|
| 1-3   | 現代社会と障害者福祉    | 障害者を取り巻く国内・国際的動向、障害者にかかわる法律、生活実態、国際生活機能分類（ICF） |
| 4-6   | 障害児への支援       | 療育システム、母子保健施策、子育て支援、特別支援教育、発達障害者支援法            |
| 7-9   | 地域生活をサポートする 1 | 自立の概念、障害者自立支援法、成年後見制度、福祉のまちづくり、所得保障、情報保障       |
| 10-12 | 地域生活をサポートする 2 | 障害当事者組織の活動、専門職の役割、ソーシャルワーカー                    |

|       |             |                                          |
|-------|-------------|------------------------------------------|
|       |             | ク、障害児者の家族への支援                            |
| 13-15 | 障害者の雇用・就労支援 | 雇用・就労施策の歴史と現状、障害のある人の就労の現状、援助付き雇用、ジョブコーチ |

## 評価方法

リアクションペーパー、課題レポート、定期試験により総合的に評価する。

## 参考図書等

- ・教科書：「障害者に対する支援と障害者自立支援制度 第2版（新・社会福祉士養成講座 第14巻）」  
社会福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版
- ・他随時授業中に紹介する。

## 留意事項

事前に資料の配付、e-learning へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

|             |                      |
|-------------|----------------------|
| 科目名         | 障害者に対する支援と障害者自立支援制度Ⅱ |
| ユニット名       | 障害者に対する支援と障害者自立支援制度Ⅱ |
| 授業形態        | 講義                   |
| 開講時期・単位・時間数 | 2 学年後期・選択 1 単位・15 時間 |
| 科目・ユニット責任者  | 坪井真                  |
| 授業担当者       | 雨宮由紀枝（日本女子体育大学）、坪井真  |
| 主な授業場所      | 口腔保健学科 第4講義室         |

### 学習目標

- ・障害者の生活実態と社会情勢、福祉・介護需要（地域移行や就労の実態を含む）、国際的動向について理解する。
- ・障害者福祉制度の発展過程について理解する。
- ・相談援助活動において必要となる障害者自立支援法や障害者の福祉・介護に係る他の法制度について理解する。
- ・障害者の自立生活と社会参加に向けた支援のあり方を理解する
- ・障害者施策における国際的動向を理解し、自らの障害を捉える視点のあり方について考える。

### 到達目標

- ・障害者の生活実態と社会情勢、国際的動向、障害の概念について概括的に説明できる。
- ・障害者にかかわる法律と、障害者の自立支援の制度の概要について説明できる。
- ・障害児の療育と教育の現状と課題について説明できる。
- ・障害児者のための地域および生活環境の整備について説明できる。
- ・障害児者とその家族へのライフステージに応じた支援のあり方を説明できる。
- ・障害者の雇用・就労の現状と課題について説明できる。
- ・現代社会における障害者福祉の課題を説明できる。
- ・障害者の自立生活と社会参加に向けた支援のあり方を説明できる
- ・障害者施策における国際的動向を理解し、自らの障害を捉える視点のあり方を説明できる。

### 授業計画 2 学年後期・選択 1 単位・15 時間

| 回   | 授業題目                           | 授業内容                                         |
|-----|--------------------------------|----------------------------------------------|
| 1-3 | オリエンテーション、障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢 | 障害者に対する支援と障害者自立支援制度Ⅰの振り返り、障害者の生活実態と福祉・介護需要など |

|        |                  |                                                     |
|--------|------------------|-----------------------------------------------------|
| 4-6    | 障害者福祉の歴史的展開過程 1  | 障害者福祉の歴史－前近代から近代社会を中心に                              |
| 7-9    | 障害者福祉の歴史的展開過程 2  | 障害者福祉の歴史－第二次世界大戦後以降の過程                              |
| 10-12  | 障害のある人たちの健康と生活 1 | I C F（国際生活機能分類）に基づく障害のある人たちの健康                      |
| 13-15  | 障害のある人たちの健康と生活 2 | 障害のある人たちの健康と生活を支える医療・保健・福祉機関・施設と専門職                 |
| 16-18  | 発達障害児者の理解と支援     | 発達障害者支援法<br>L D、A D H D、高機能自閉症                      |
| 19-21  | 障害者運動とセルフヘルプグループ | 障害当事者による社会行動<br>障害当事者の会、家族会、親の会                     |
| 22-24  | 障害と生命倫理          | 優生思想、出生前診断<br>生殖補助医療                                |
| 25-27  | 障害者の地域生活支援の実践    | 自立生活支援、地域生活移行<br>事例検討                               |
| 28-30  | 相談支援活動の実践        | ソーシャルワーク、多職種連携<br>事例検討                              |
| 31-33  | 現代の障害者福祉制度 1     | 障害者自立支援法における組織及び団体の役割、専門職の役割、多職種連携、ネットワーキング         |
| 34-36  | 現代の障害者福祉制度 2     | 相談支援事業所の役割と実際、障害者自立支援法と相談援助活動                       |
| 37-39  | 現代の障害者福祉制度 3     | 身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、精神保健福祉法、発達障害者支援法、障害者基本法など         |
| 40, 41 | 現代の障害者福祉制度 4     | 高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律、障害者の雇用の促進等に関する法など         |
| 42, 43 | 福祉用具とリハビリテーション   | リハビリテーションの概要、WHO国際分類ファミリー（I C FやI S O 9 9 9 9）と福祉用具 |
| 44, 45 | まとめ              | 授業の振り返りと学習成果の確認                                     |

## 評価方法

リアクションペーパー、課題レポート、定期試験により総合的に評価する。

### 参考図書等

- ・教科書：「障害者に対する支援と障害者自立支援制度 第2版（新・社会福祉士養成講座 第14巻）」  
社会福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版
- ・他随時授業中に紹介する。

### 留意事項

事前に資料の配付、e-learning へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

|             |                        |
|-------------|------------------------|
| 科目名         | 児童・家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度Ⅰ |
| ユニット名       | 児童・家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度Ⅰ |
| 授業形態        | 講義                     |
| 開講時期・単位・時間数 | 2 学年前期・必修 1 単位・15 時間   |
| 科目・ユニット責任者  | 坪井真                    |
| 授業担当者       | 雨宮由紀枝（日本女子体育大学）        |
| 主な授業場所      | 口腔保健学科 第4講義室           |

### 学習目標

- ・児童・家庭の生活実態と社会情勢、福祉需要および児童の権利について理解する。
- ・相談援助活動において必要となる児童・家庭福祉制度や児童・家庭福祉に係る他の法制度について理解する。

### 到達目標

- ・児童・家庭の生活実態と社会情勢、福祉需要（子育て、一人親家庭、児童虐待、家庭内暴力[D.V.]の実態を含む）について説明できる。
- ・児童・家庭福祉制度の歴史的展開過程について説明できる。
- ・児童の権利について説明できる。
- ・相談援助活動において必要となる児童・家庭福祉制度や児童・家庭福祉に係る他の法制度について説明できる。

### 授業計画 2 学年前期・必修 1 単位・15 時間

| 回 | 授業題目            | 授業内容                    |
|---|-----------------|-------------------------|
| 1 | オリエンテーション       | 本授業で学ぶ内容、授業の進め方などの説明    |
| 2 | 児童の定義と権利        | 児童の定義、児童の権利に関する条約の概要    |
| 3 | 児童・家庭福祉の歴史的展開過程 | 児童・家庭福祉の歴史的展開過程（国内外）    |
| 4 | 現代社会における児童と家庭   | 少子高齢社会における児童と家庭の福祉需要    |
| 5 | 児童・家庭福祉制度 1     | 児童福祉法、児童虐待防止法、DV法、売春防止法 |
| 6 | 児童・家庭福祉制度 2     | ひとり親家庭と母子及び寡婦福祉法、母子保健法  |
| 7 | 児童・家庭福祉制度 3     | 児童手当法、児童扶養手当法などの諸制度     |
| 8 | 児童・家庭福祉制度 4     | 次世代育成支援対策推進法、少子化社会対策基本法 |

|        |                |                        |
|--------|----------------|------------------------|
| 9      | 児童・家庭福祉制度と支援 1 | 支援組織および団体の役割と実際        |
| 10     | 児童・家庭福祉制度と支援 2 | 児童・家庭福祉制度における専門職の役割と実際 |
| 11, 12 | 児童・家庭福祉制度と支援 3 | 児童相談所の役割と実際（事例の紹介）     |
| 13, 14 | 児童・家庭福祉制度と支援 4 | 多職種連携、ネットワーキングと実際      |
| 15     | まとめ            | 授業の振り返りと学習成果の確認        |

## 評価方法

- ・授業内レポートで重要な単元の学習成果を評価する。
- ・グループディスカッション（事例検討など）の参加状況を評価に加味する。
- ・定期試験を実施し、総合的に評価する。

## 参考図書等

- ・教科書：「児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度 第2版（新・社会福祉士養成講座 第15巻）」社会福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版
- ・その他、随時授業中に紹介する。

## 留意事項

事前に資料の配付、e-learning へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

|             |                        |
|-------------|------------------------|
| 科目名         | 児童・家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度Ⅱ |
| ユニット名       | 児童・家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度Ⅱ |
| 授業形態        | 講義                     |
| 開講時期・単位・時間数 | 2 学年前期・選択 1 単位・15 時間   |
| 科目・ユニット責任者  | 坪井真                    |
| 授業担当者       | 雨宮由紀枝（日本女子体育大学）        |
| 主な授業場所      | 口腔保健学科 第4講義室           |

### 学習目標

- ・児童・家庭の生活実態と社会情勢、福祉需要および児童の権利について理解する。
- ・相談援助活動において必要となる児童・家庭福祉制度や児童・家庭福祉に係る他の法制度について理解する。

### 到達目標

- ・児童・家庭の生活実態と社会情勢、福祉需要（子育て、一人親家庭、児童虐待、家庭内暴力[D. V.]の実態を含む）について具体的に説明できる。
- ・児童・家庭福祉制度の歴史的展開過程について具体的に説明できる。
- ・児童の権利について説明できると同時に自分の意見を述べることができる。
- ・相談援助活動において必要となる児童・家庭福祉制度や児童・家庭福祉に係る他の法制度について具体的に説明できる。

### 授業計画 2 学年前期・選択 1 単位・15 時間

| 回 | 授業題目             | 授業内容                    |
|---|------------------|-------------------------|
| 1 | オリエンテーション        | 本授業で学ぶ内容、授業の進め方などの説明    |
| 2 | 相談援助と児童・家庭福祉制度 1 | 児童福祉法と相談援助活動            |
| 3 | 相談援助と児童・家庭福祉制度 2 | 児童虐待防止法と相談援助活動          |
| 4 | 相談援助と児童・家庭福祉制度 3 | 家庭内暴力や女性福祉問題と相談援助活動     |
| 5 | 相談援助と児童・家庭福祉制度 4 | ひとり親家庭の支援と相談援助活動        |
| 6 | 相談援助と児童・家庭福祉制度 5 | 子育て支援と相談援助活動            |
| 7 | 児童・家庭福祉の政策 1     | 児童・家庭福祉の政策と次世代育成支援対策推進法 |
| 8 | 児童・家庭福祉の政策 2     | 児童・家庭福祉の政策と少子化社会対策基本法   |

|        |                  |                        |
|--------|------------------|------------------------|
| 9      | 児童・家庭福祉の支援者 1    | 児童・家庭福祉のインフォーマルな支援者・組織 |
| 10     | 児童・家庭福祉の支援者 2    | 児童・家庭福祉のフォーマルな支援者・組織   |
| 11, 12 | 児童・家庭福祉の相談援助事例 1 | 児童福祉の相談援助事例（グループ討議）    |
| 13, 14 | 児童・家庭福祉の相談援助事例 2 | 家庭福祉の相談援助事例（グループ討議）    |
| 15     | まとめ              | 授業の振り返りと学習成果の確認        |

## 評価方法

- ・授業内レポートで重要な単元の学習成果を評価する。
- ・グループディスカッション（事例検討など）の参加状況を評価に加味する。
- ・定期試験を実施し、総合的に評価する。

## 参考図書等

- ・教科書：「児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度 第 2 版（新・社会福祉士養成講座 第 15 巻）」社会福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版
- ・その他、随時授業中に紹介する。

## 留意事項

事前に資料の配付、e-learning へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

|             |                      |
|-------------|----------------------|
| 科目名         | 高齢者に対する支援と制度Ⅰ        |
| ユニット名       | 高齢者に対する支援と制度Ⅰ        |
| 授業の形態       | 講義                   |
| 開講時期・単位・時間数 | 2 学年後期・必修 2 単位・30 時間 |
| 科目・ユニット責任者  | 坪井真                  |
| 授業担当者       | 小野寺光江、口腔保健学科教員       |
| 主な授業場所      | 口腔保健学科 第4講義室、歯学部 演習室 |

### 学習目標

高齢期を迎えた人々の特徴を理解し、高齢者の福祉・介護の必要性および基本的な介護の実践を理解する。

### 到達目標

- ・ 高齢者の生活実態および高齢者を取り巻く社会情勢、福祉・介護需要について説明できる。
- ・ 高齢期を迎えた人々の特徴を説明できる。
- ・ 介護とは何かを説明できる。
- ・ 介護保険制度について概説できる。
- ・ 介護保険制度における組織・団体について概説できる。
- ・ 介護の対象となる人びとの特徴を説明できる。
- ・ 介護活動の展開法を説明できる。
- ・ 基本的な介護ケアを概説できる。
- ・ 介護予防の必要性を説明できる。
- ・ 福祉・介護分野における口腔保健活動の必要性を説明できる。
- ・ 高齢者をとりまく問題を自ら発見し、解決するための方法を検討することができる。
- ・ 高齢者施設訪問をとおし、施設の機能および職員や利用者の特徴の実際を学ぶ。

### 授業計画 2 学年後期・必修 2 単位・30 時間

| 回    | 授業題目        | 授業内容                              |
|------|-------------|-----------------------------------|
| 1, 2 | 高齢社会と福祉     | 高齢者社会における福祉とは<br>高齢社会と福祉および介護の重要性 |
| 3-5  | PBL テュートリアル | セッション 1                           |
| 6-8  | PBL テュートリアル | セッション 2                           |

|        |                |                                                  |
|--------|----------------|--------------------------------------------------|
| 9, 10  | 高齢者の特徴         | 高齢期を迎えた人々の心身の特徴と社会的役割                            |
| 11, 12 | 高齢者の生活を支える介護 1 | 介護の概念、介護の対象、介護過程、ほか                              |
| 13-16  | 高齢者施設訪問 1      | 高齢者施設訪問のための計画立案                                  |
| 17-20  | 高齢者施設訪問 2      | 高齢者施設訪問                                          |
| 21-24  | 高齢者施設訪問 3      | 施設訪問で学んだ内容を発表                                    |
| 25, 26 | 高齢者の生活を支える介護 2 | 介護保険制度の概要、介護保険法における組織・団体の役割、介護と住環境 ほか            |
| 27, 28 | 高齢者の生活を支える介護 3 | 認知症ケアの概要と実際、終末期ケアの概要と実際、日常生活援助のための基本的介護の概要と実際 ほか |
| 29     | 高齢者の健康と介護予防    | 介護予防の必要性、介護予防活動の概要                               |
| 30     | まとめ            | 福祉・介護分野における口腔保健活動<br>まとめ                         |

## 評価方法

- ・期末の筆記試験、実技試験および提出レポートまたは課題により評価する。
- ・授業態度・意欲および授業参加度により評価する。

## 参考図書等

新・社会福祉士養成講座 13「高齢者に対する支援と介護保険制度」中央法規

|             |                                                 |
|-------------|-------------------------------------------------|
| 科目名         | 相談援助の基盤と専門職                                     |
| ユニット名       | 相談援助の基盤と専門職                                     |
| 授業形態        | 講義                                              |
| 開講時期・単位・時間数 | 2 学年後期・選択・44 時間<br>2 学年後期（春季集中）・選択・16 時間 } 4 単位 |
| 科目責任者       | 坪井真                                             |
| 授業担当者       | 坪井真、草水美代子（西片医療福祉研究会）                            |
| 主な授業場所      | 口腔保健学科 第4講義室                                    |

### 学習目標

- ・相談援助に係る専門職（社会福祉士・精神保健福祉士）の概念や役割などについて理解する。
- ・相談援助の概念と範囲、相談援助における総合的・包括的な援助について理解する。

### 到達目標

- ・社会福祉士の役割（総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発含む）と意義について説明できる。
- ・精神保健福祉士の役割と意義について説明できる。
- ・相談援助の概念と範囲について説明できる。
- ・相談援助の理念について説明できる。
- ・相談援助における権利擁護の意義と範囲について説明できる。
- ・相談援助に係る専門職の概念と範囲及び専門職倫理について説明できる。
- ・総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容について説明できる。

### 授業計画

#### 2 学年後期・選択・44 時間

| 回     | 授業題目            | 授業内容                      |
|-------|-----------------|---------------------------|
| 1, 2  | オリエンテーション       | 授業の説明、学習内容の確認、相談援助の概要     |
| 3, 4  | 社会福祉士の役割と意義 1   | 社会福祉士及び介護福祉士法の概要、社会福祉士の定義 |
| 5, 6  | 社会福祉士の役割と意義 2   | 社会福祉士の専門性、専門性を構成する要素      |
| 7, 8  | 精神保健福祉士の役割と意義 1 | 精神保健福祉士の定義、精神保健福祉士の業務     |
| 9, 10 | 精神保健福祉士の役割と意義 2 | 精神障害のある人たちの理解（精神障害の概要、精神  |

|        |                 |                            |
|--------|-----------------|----------------------------|
|        |                 | 障害のある人たちがおかれている状況と支援上の課題)  |
| 11, 12 | 相談援助の概念と範囲 1    | ソーシャルワークの国際的定義、各国の相談援助活動   |
| 13, 14 | 相談援助の概念と範囲 2    | ソーシャルワーク理論における定義の比較        |
| 15, 16 | 相談援助の概念と範囲 3    | ソーシャルワークの形成過程 (諸外国の歴史)     |
| 17, 18 | 相談援助の概念と範囲 4    | ソーシャルワークの形成過程 (日本の歴史)      |
| 19, 20 | 相談援助の理念 1       | 人権尊重、社会正義、具体例の検討 (グループ討議)  |
| 21, 22 | 相談援助の理念 2       | 利用者本位について、グループ討議           |
| 23, 24 | 相談援助の理念 3       | 尊厳の保持について、グループ討議           |
| 25, 26 | 事例検討 1          | 相談援助の概念と範囲、グループ討議          |
| 27, 28 | 事例検討 2          | 相談援助の理念を考える (グループ討議)       |
| 29, 30 | 相談援助の理念 4       | 自立支援について考える (グループ討議)       |
| 31, 32 | 相談援助の理念 5       | ノーマライゼーションについて考える (グループ討議) |
| 33, 34 | 相談援助の理念 6       | 社会的包摂について考える (グループ討議)      |
| 35, 36 | 相談援助の理念 7       | 権利擁護について、グループ討議            |
| 37, 38 | 相談援助における権利擁護の意義 | 権利擁護の事例検討 (グループ討議)         |
| 39, 40 | 相談援助専門職の倫理 1    | 相談援助専門職の倫理、諸外国の日本の比較       |
| 41, 42 | 相談援助専門職の倫理 2    | 倫理的ジレンマ、グループ討議             |
| 43, 44 | 前半のまとめ          | 社会福祉士の役割と意義 (授業内レポート作成)    |

## 2 学年後期 (春季集中) ・選択 ・16 時間

| 回      | 授業題目            | 授業内容                        |
|--------|-----------------|-----------------------------|
| 45, 46 | オリエンテーション       | 前半の振り返り、後半の授業についての説明        |
| 47, 48 | 相談援助専門職の概念と範囲 1 | 相談援助専門職が備える要件、グループ討議        |
| 49, 50 | 相談援助専門職の概念と範囲 2 | 行政機関で働く相談援助専門職<br>グループ討議    |
| 51, 52 | 相談援助専門職の概念と範囲 3 | 民間施設・機関で働く相談援助専門職<br>グループ討議 |
| 53, 54 | 相談援助の連携 1       | 専門職を主体とした総合的かつ包括的な援助と多職種連   |

|        |           |                                                    |
|--------|-----------|----------------------------------------------------|
|        |           | 携（チームアプローチ含む）の意義と内容                                |
| 55, 56 | 相談援助の連携 2 | インフォーマル・フォーマル両面からの総合的かつ包括的な援助と連携（チームアプローチ含む）の意義と内容 |
| 57, 58 | 相談援助と感情管理 | 相談援助専門職の倫理と感情管理、グループ討議                             |
| 59, 60 | まとめ       | 授業の振り返りと学習成果の確認                                    |

## 評価方法

- ・授業内レポートで重要な単元の学習成果を評価する。
- ・グループディスカッション（事例検討など）の参加状況を評価に加味する。
- ・定期試験を実施し、総合的に評価する。

## 参考図書等

- ・教科書：「相談援助の基盤と専門職 第2版（新・社会福祉士養成講座 第6巻）」社会福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版
- ・その他、随時授業中に紹介する。

## 留意事項

事前に資料の配付、e-learning システム上へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。また、講義における質疑応答などには主体的に参加し、学ぶ意欲を持って授業に参加することを望む

## 第3学年 履修ユニット

|             |                                                                     |
|-------------|---------------------------------------------------------------------|
| 科目名         | 臨床歯科医学                                                              |
| ユニット名       | 再建系歯科医学                                                             |
| 授業形態        | 講義                                                                  |
| 開講時期・単位・時間数 | 3 学年前期・必修 2 単位・30 時間                                                |
| 科目・ユニット責任者  | 石川雅章・下山和弘                                                           |
| 授業担当者       | 下山和弘、塩田真（インプラント・口腔再生医学分野）、濱野英也（非常勤講師）、谷口尚（顎顔面補綴学分野）、上野俊明（スポーツ医歯学分野） |
| 主な授業場所      | 口腔保健学科 第3講義室                                                        |

### 学習目標

歯科補綴治療と補綴装置の特徴を理解するとともに、補綴装置使用における口腔の健康管理の知識を修得する。

### 到達目標

- ・ 歯科補綴治療（インプラントを含む）の種類・特徴を説明でき、製作過程を概説できる。
- ・ 補綴装置使用における口腔の健康管理法を説明できる。

### 授業計画 3 学年前期・必修 2 単位・30 時間

| 回  | 授業題目          | 授業内容           |
|----|---------------|----------------|
| 1  | 歯科補綴治療の基礎 1   | 歯科補綴治療の意義と目的   |
| 2  | 歯科補綴治療の基礎 2   | 歯科補綴装置の種類      |
| 3  | 歯科補綴治療の基礎 3   | 顎口腔系の形態・機能、咬合器 |
| 4  | 歯科補綴治療の基礎 4   | 歯の喪失に伴う変化      |
| 5  | 床義歯の構成と特徴 1   | 全部床義歯の特徴、構成要素  |
| 6  | 床義歯の構成と特徴 2   | 部分床義歯の特徴、構成要素  |
| 7  | 冠橋義歯の種類と特徴 1  | 冠橋義歯の特徴、構成要素   |
| 8  | 冠橋義歯の種類と特徴 2  | 冠橋義歯の構成要素の特徴   |
| 9  | 歯科補綴装置の製作過程 1 | 印象採得           |
| 10 | 歯科補綴装置の製作過程 2 | 咬合採得           |
| 11 | 歯科補綴装置の取扱い 1  | 床義歯の取扱い        |

|    |                  |                        |
|----|------------------|------------------------|
| 12 | 歯科補綴装置の取扱い 2     | 冠橋義歯の取扱い               |
| 13 | 歯科補綴装置の管理と補修     | 床義歯の管理、冠橋義歯の管理、補綴装置の修理 |
| 14 | 歯科補綴治療の特徴        | 歯科補綴診療の基本方針            |
| 15 | インプラントの基礎と臨床 1   | インプラントの歴史、インプラントの種類    |
| 16 | インプラントの基礎と臨床 2   | インプラントの手技、インプラントの管理    |
| 17 | インプラントの臨床と製作過程 1 | インプラントの埋入法             |
| 18 | インプラントの臨床と製作過程 2 | インプラントの補綴法             |
| 19 | 金属アレルギー1         | 歯科における金属アレルギーの現状       |
| 20 | 金属アレルギー2         | 金属アレルギーの臨床的対応と予防       |
| 21 | 顎顔面補綴学           | 顎顔面補綴学が対応する症例          |
| 22 | 顎顔面補綴治療の実際 1     | 補綴症例、顎顔面補綴治療における口腔衛生指導 |
| 23 | 顎顔面補綴治療の実際 2     | 顎顔面補綴治療に求められる心理ケア      |
| 24 | 顎顔面補綴治療の実際 3     | 顎顔面補綴治療におけるチーム医療       |
| 25 | スポーツ歯学の基礎と臨床 1   | スポーツ選手の歯の健康管理          |
| 26 | スポーツ歯学の基礎と臨床 2   | スポーツ外傷と安全対策            |
| 27 | 歯科補綴臨床の実際 1      | 歯科補綴臨床の実際（見学を含む）       |
| 28 | 歯科補綴臨床の実際 2      | 歯科補綴臨床の実際（見学を含む）       |
| 29 | 健康を考える歯科補綴臨床 1   | 歯科補綴臨床から健康を考える         |
| 30 | 健康を考える歯科補綴臨床 2   | 歯科補綴臨床から健康を考える         |

## 評価方法

随時の小テストで形成的評価を行う。提出レポート、期末の客観試験、論述試験テストで総括的評価を行う。出席状況および授業態度を総括的評価に加味する。

## 参考図書等

- ・「第2版 歯科補綴学専門用語集」 日本補綴歯科学会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「歯科補綴学」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・「全部床義歯補綴学」 林都志夫編 医歯薬出版
- ・「小部分床義歯学」 藍 稔著 学建書院
- ・「スタンダード部分床義歯補綴学」 藍 稔編 学建書院
- ・「クランブリッジ補綴学」 石橋寛二、川添堯彬ほか編 医歯薬出版
- ・「よくわかる口腔インプラント学」 赤川安正、松浦正朗ほか編 医歯薬出版

- ・「G Pのための金属アレルギー臨床」 中山秀夫・松村光明編 デンタルダイヤモンド社
- ・「声と言葉のしくみ」 亀田和夫 口腔保健協会
- ・「口唇裂口蓋裂の補綴治療」 大山喬史編 医歯薬出版
- ・「顎顔面補綴の臨床」 大山喬史・谷口 尚編 医学情報社
- ・「言語聴覚士に必要な歯科の知識」 谷口 尚・片倉伸郎・大野友久・隅田由香著 インテルナ出版
- ・「スポーツマウスガードハンドブック」 大山喬史・上野俊明編 医学情報社
- ・「スポーツ歯学の臨床」 大山喬史編 医学情報社
- ・「スポーツ歯科臨床マニュアル」 日本スポーツ歯科医学会編 医学情報社
- ・「口と歯の事典」 高戸 毅・天笠光雄ほか編 朝倉書店

## 留意事項

事前の資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

|             |                                    |
|-------------|------------------------------------|
| 科目名         | 臨床歯科医学                             |
| ユニット名       | 外科系歯科医学                            |
| 授業形態        | 講義                                 |
| 開講時期・単位・時間数 | 3 学年前期・必修 2 単位・30 時間               |
| 科目・ユニット責任者  | 吉増秀實                               |
| 授業担当者       | 吉増秀實、木野孔司（顎関節治療部）、神野成治（麻酔・生体管理学分野） |
| 主な授業場所      | 口腔保健学科 第3講義室                       |

### 学習目標

口腔外科臨床のチーム医療を行うにあたって必要な基礎的知識を修得する。

### 到達目標

- ・ 顎顔面口腔に症状を現す先天異常と発育異常を列挙し、治療法を説明できる。
- ・ 顎口腔領域の炎症の診断および治療法を説明できる。
- ・ 顎口腔領域の損傷の診断および治療法を説明できる。
- ・ 顎口腔領域の嚢胞の診断および治療法を説明できる。
- ・ 口腔粘膜疾患の診断および治療法を説明できる。
- ・ 唾液腺疾患の病因と病態について説明できる。
- ・ 顎口腔領域の腫瘍の診断および治療法を説明できる。
- ・ 顎口腔領域の神経疾患の診断および治療法を説明できる。
- ・ 顎口腔領域の血液疾患、出血性素因について説明できる。
- ・ 顎関節疾患の病因、病態、診断および治療法を説明できる。
- ・ 抜歯・小手術について説明できる。
- ・ 麻酔法を説明できる。
- ・ 口腔外科のチーム医療について説明できる。
- ・ 口腔の健康維持のために、治療後のセルフケアについて説明ができる。

### 授業計画 3 学年前期・必修 2 単位・30 時間

| 回 | 授業題目    | 授業内容                     |
|---|---------|--------------------------|
| 1 | 口腔外科の概要 | 口腔外科とは、口腔外科疾患の種類、口腔外科診断法 |
| 2 | 先天異常    | 口唇口蓋裂の診断、治療<br>その他の顔面奇形  |
| 3 | 顎発育異常   | 顎変形症の診断と治療               |
| 4 | 外傷      | 軟組織損傷、顎骨骨折、歯の外傷          |

|        |                    |                                                              |
|--------|--------------------|--------------------------------------------------------------|
| 5      | 炎症                 | 菌性炎症、炎症の波及、炎症の診断と治療                                          |
| 6      | 嚢胞                 | 菌原性嚢胞、非菌原性嚢胞、軟組織嚢胞                                           |
| 7      | 良性腫瘍・腫瘍類似疾患        | 菌原性腫瘍、非菌原性腫瘍、良性腫瘍の診断・治療                                      |
| 8      | 悪性腫瘍               | 悪性腫瘍の診断・治療                                                   |
| 9      | 口腔粘膜疾患             | 口腔粘膜疾患の診断と治療                                                 |
| 10     | 口腔顎顔面領域の神経疾患、唾液腺疾患 | 神経疾患の診断と治療                                                   |
| 11     | 血液疾患、出血性素因         | 血液疾患の診断と治療                                                   |
| 12     | 代謝性疾患の口腔症状、症候群     | 代謝性疾患の口腔症状、口腔顎顔面領域に関連した症候群および疾患                              |
| 13     | 顎関節疾患（顎関節症）        | 顎関節症の診断と治療                                                   |
| 14     | 顎関節疾患（顎関節症以外）      | 顎関節症以外の顎関節疾患の種類、診断と治療                                        |
| 15     | 口腔外科診療総論           | 診察法、手術の適否、消毒滅菌（器械材料の消毒、手術室の消毒、手指の消毒、手術野の消毒）                  |
| 16     | 口腔外科診療各論（抜歯）       | 抜歯の適応、必要器材、術前の注意事項、抜歯法、抜歯の実際と介助、診療補助の要点、抜歯創の治癒過程、術後処置偶発症と処置等 |
| 17     | 口腔外科小手術            | 種類、適応、方法、必要器材、術前の注意事項、術後管理、術後の説明、診療補助の要点等                    |
| 18     | 口腔外科手術患者の口腔ケア      | 口腔癌・口唇口蓋裂・顎変形症・顎骨骨折患者の治療法、処置の流れ、治療後のセルフケア                    |
| 19     | 歯科麻酔学概論            | 歯科麻酔学概論                                                      |
| 20     | 全身状態評価・バイタルサイン     | 全身状態評価・バイタルサイン                                               |
| 21, 22 | 全身麻酔法              | 全身麻酔法                                                        |
| 23, 24 | 局所麻酔法              | 局所麻酔法、局所麻酔薬の種類                                               |
| 25, 26 | 精神鎮静法ほか            | 精神鎮静法ほか                                                      |
| 27, 28 | ペインクリニック           | ペインクリニックとは、顎顔面口腔領域の疼痛性疾患の種類、診断と治療                            |
| 29, 30 | 総括                 | まとめ                                                          |

## 評価方法

- ・随時の小テストで形成的評価を行う。
- ・期末の客観試験、記述試験で総括的評価を行う。
- ・講義、グループ討論、発表の態度等を総括的評価に加味する。

### 参考図書等

- ・「医療従事者のための口腔外科学」 古森孝秀 編著 永末書店
- ・「臨床病態学 3」 北村 聖 総編集 ヌーヴェルヒロカワ
- ・「医療従事者のためのカラーアトラス：口腔外科疾患」 道健一編 永末書店
- ・「最新口腔外科学 第4版(総論, 各論)」 塩田重利、富田喜内監修 医歯薬出版

### 留意事項

事前に資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

|             |                                                                                   |
|-------------|-----------------------------------------------------------------------------------|
| 科目名         | 臨床歯科医学                                                                            |
| ユニット名       | 発達育成系・障害者歯科医学                                                                     |
| 授業形態        | 講義                                                                                |
| 開講時期・単位・時間数 | 3 学年前期・必修・15 時間<br>単位認定（2 単位）は2 学年後期（15 時間）と合わせて行う                                |
| 科目・ユニット責任者  | 石川雅章                                                                              |
| 授業担当者       | 石川雅章、篠塚修（障害者歯科学分野）、大沼由季（歯科衛生保健部）、<br>田中光郎（岩手医科大学）、五十川伸崇（亀田クリニック）、<br>小川仲子（小川歯科医院） |
| 主な授業場所      | 口腔保健学科 第3 講義室                                                                     |

### 学習目標

小児の心身の成長・発達をふまえ、発達期口腔疾患の特徴、予防・治療法を理解する。障害児・者に対して、口腔保健の立場から支援する際に必要な知識、技術を修得する。

### 到達目標

- ・ 障害とは何かを理解し、種々の障害の定義を説明できる。
- ・ 障害児・者口腔内の特徴と歯科疾患罹患状況を説明できる。
- ・ 発達期口腔保健の最近の考え方を説明できる。
- ・ 障害児・者の歯科治療時における行動への対応法を概説できる。
- ・ 障害児・者の歯科治療におけるチーム医療を説明できる。
- ・ 障害児・者の一次、二次、三次歯科医療体制を説明できる。
- ・ 広汎性発達障害児の療育と歯科的対応が概説できる。
- ・ 障害児・者の摂食指導が概説できる。
- ・ 発達期摂食障害児の摂食指導が概説できる。

### 授業計画 3 学年前期・必修・15 時間

| 回    | 授業題目                      | 授業内容                                                                 |
|------|---------------------------|----------------------------------------------------------------------|
| 1, 2 | 障害と歯科医療 1                 | 障害児・者（精神（発達）遅滞、脳性麻痺、広汎性発達障害、てんかん、ダウン症、感覚障害）の分類およびその特徴、口腔内所見、歯科疾患罹患状況 |
| 3, 4 | 障害と歯科医療 2                 | 行動調整法の種類、一般的対応法（TLC）、心理学的手段（行動変容法）、物理的手段（抑制法）薬理学的手段（精神鎮静法、全身麻酔法）     |
| 5, 6 | 障害と歯科医療 3、障害児・者の歯科医療体制の展開 | 診療計画の立案、予後の管理、障害児・者の一次、二次、三次歯科医療体制                                   |

|        |                                    |                                                              |
|--------|------------------------------------|--------------------------------------------------------------|
| 7, 8   | 障害児・者に対する口腔保健指導の実際                 | 障害の程度の把握、理解力、運動機能、コミュニケーション能力の評価、障害に対応したセルフケア、ホームケアの指導       |
| 9, 10  | う蝕予防の最新理論                          | プラークフルイド、臨界 PH、母子感染に対する考え方、フッ化物の作用機序、フッ化物以外による歯質の成熟と再石灰化     |
| 11, 12 | 広汎性発達障害児・者に対する行動調整法と口腔保健指導、歯科治療の実際 | 広汎性発達障害児療育の概要、TEACHH 法、PECS 法、歯科診療の構造化、自閉症児歯科治療と口腔衛生指導時の視覚支援 |
| 13, 14 | 発達障害児の食べる機能、発達と障害とその対応             | 摂食の 5 期、発達療法とは、摂食・嚥下機能の発達を阻害する要因、摂食機能障害の検査方法、評価の流れ、対応法       |
| 15     | まとめ                                | まとめ                                                          |

### 評価方法

- ・随時の小テストで形成的評価を行う。
- ・期末の客観試験、論述試験で総括的評価を行う
- ・単位認定（2 単位）は 2 学年後期（15 時間）とあわせて行う。

### 参考図書等

- ・新歯科衛生士教本「障害者歯科学」 全国歯科衛生士教育協議会 医歯薬出版
- ・スペシャルニーズデンティストリー障害者歯科 日本障害者歯科学会編 医歯薬出版
- ・小児の口腔科学 前田隆秀、朝田芳信、田中光郎他著 学建書院
- ・食べる機能の障害 金子芳洋編 医歯薬出版
- ・子どもの摂食・嚥下障害 北住映二、尾本和彦、藤島一郎編著 永井書店

### 留意事項

事前に資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合には、予習して授業に臨むこと。

|             |                                                                                  |
|-------------|----------------------------------------------------------------------------------|
| 科目名         | 先端歯周病予防学                                                                         |
| ユニット名       | 先端歯周病予防学                                                                         |
| 授業形態        | 講義                                                                               |
| 開講時期・単位・時間数 | 3 学年前期・選択 1 単位・15 時間                                                             |
| 科目・ユニット責任者  | 木下淳博（教育メディア開発学分野）                                                                |
| 授業担当者       | 木下淳博（教育メディア開発学分野）、和泉雄一・小田 茂・梅田誠・竹内康雄・菊池重成（歯周病学分野）、片桐さやか・須田智也（歯周病外来）、塩山秀裕（口腔ケア外来） |
| 主な授業場所      | 口腔保健学科 第3講義室                                                                     |

### 学習目標

歯周病予防に必要な最新の臨床知識を理解し、実践に役立つ臨床判断能力を培う。

### 到達目標

- ・ 歯周病専門医による歯周治療の実際を概説できる。
- ・ 歯周組織再生治療の実際を概説できる。
- ・ 歯周病予防と全身の関連を概説できる。
- ・ 歯周病における免疫反応を概説できる。
- ・ 最新の歯周病検査を概説できる。

### 授業計画 3 学年前期・選択 1 単位・15 時間

| 回      | 授業題目               | 授業内容                         |
|--------|--------------------|------------------------------|
| 1, 2   | 歯周組織の健康と全身の健康との関わり | 歯周病がリスクファクターとなると全身疾患に関する最新情報 |
| 3      | 歯周治療の実際            | 結合組織移植術を用いた根面被覆              |
| 4      | 歯周組織再生治療           | 歯周組織再生治療の実際                  |
| 5, 6   | 歯周治療の実際            | 歯周病専門医による歯周治療の実際             |
| 7      | 最新の歯周病検査           | 酵素反応、遺伝子工学的手法を用いた最新の細菌検査     |
| 8-10   | 歯周治療の実際            | 歯周病専門医による歯周治療の実際             |
| 11     | 歯周病と糖尿病            | 歯周病と糖尿病                      |
| 12     | 歯周外科前の確認事項         | 歯周外科前の確認事項                   |
| 13, 14 | 歯周治療の実際            | 歯周病専門医による歯周治療の実際             |
| 15     | まとめ                | まとめ                          |

### 評価方法

出席状況、e-learning による履修状況（編入生）、小テスト等により総括的評価を行う。

#### **参考図書等**

「ザ・ペリオドントロジー」和泉雄一、沼部幸博、山本松男、木下淳博 編 永末書店

#### **留意事項**

事前に資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合には、各自予習して授業に臨むこと。

|             |                                                                                                         |
|-------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 科目名         | 口腔疾患予防学実習                                                                                               |
| ユニット名       | 口腔疾患予防学実習                                                                                               |
| 授業形態        | 実習                                                                                                      |
| 開講時期・単位・時間数 | 2 学年前期・必修・45 時間<br>2 学年後期・必修・45 時間<br>3 学年前期・必修・45 時間                                                   |
|             | } 3 単位<br>単位認定（3 単位）は 3 学年前期終了時に行う                                                                      |
| 科目責任者       | 近藤圭子                                                                                                    |
| 授業担当者       | 石川雅章、寺岡加代、吉増秀實、木下淳博、近藤圭子、白田千代子、遠藤圭子、小原由紀、大塚紘未、須永昌代、佐々木好幸（口腔保健教育研究センター）、吉田直美、岡田昌子、田澤千鶴、山梨楠奈子、堀江明子（非常勤講師） |
| 主な授業場所      | 口腔保健学科 相互実習室・臨床基礎実習室                                                                                    |

### 学習目標

歯・口腔の状態把握および歯科予防処置の基本的技術を修得する。

### 到達目標

- ・う蝕予防と歯周歯科疾患予防の基礎を説明できる。
- ・歯、口腔（歯、歯肉、歯の付着物・沈着物）の状態を把握し、説明できる。
- ・生体への配慮（器具の消毒・滅菌、感染予防、手指の消毒法、偶発事故の予防）を行いながら、歯科予防処置が実施できる。
- ・歯科予防処置のうち、歯石除去、歯面清掃、SRP、う蝕予防処置、フッ化物歯面塗布、フッ化物洗口を実施できる。
- ・歯科衛生過程にそって、口腔ケアを実施できる。

### 授業計画 3 学年前期・必修・45 時間

| 回     | 授業題目              | 授業内容                     |
|-------|-------------------|--------------------------|
| 1-3   | 試験ケースの説明、SRP・研磨復習 | 実習の進め方、SRP 復習            |
| 4-6   | シャープニング、SRP・研磨復習  | シャープニング、SRP・研磨復習         |
| 7-9   | ケース・シミュレーション実習 1  | 相互実習 シミュレーションⅠ（1 診査，検査等） |
| 10-12 | ケース・シミュレーション実習 2  | 相互実習 シミュレーションⅡ（1 診査，検査等） |

|       |                                 |                          |
|-------|---------------------------------|--------------------------|
| 13-15 | POS・業務記録 実習準備                   | 診断ステートメント 相互実習準備         |
| 16-18 | ケース・シミュレーション実習 3                | 相互実習 シミュレーションⅢ           |
| 19-21 | ケース・シミュレーション実習 4<br>*口腔ケア臨床見学実習 | 相互実習 シミュレーションⅣ<br>臨床実習見学 |
| 22-24 | ケース・シミュレーション実習 5<br>*口腔ケア臨床見学実習 | 相互実習 シミュレーションⅤ           |
| 25-27 | ケース・シミュレーション実習 6<br>*口腔ケア臨床見学実習 | 相互実習 シミュレーションⅥ           |
| 28-30 | ケース・シミュレーション実習 7<br>*口腔ケア臨床見学実習 | 相互実習 シミュレーションⅦ（評価）       |
| 31-33 | ケース・シミュレーション実習 8                | 相互実習シミュレーションⅧ（評価）・記録整理   |
| 34-36 | 資料作成など                          | 資料のまとめ、発表の準備             |
| 37-39 | 校外実習                            | フッ化物塗布実習                 |
| 40-42 | ケース・シミュレーション実習 9                | グループ発表                   |
| 43-45 | まとめ                             | 発表後のフィードバック              |

\*口腔ケア臨床見学実習にケース・シミュレーション実習 4～7 のうちの 1 回をあてる。

## 評価方法

- ・随時の小テストで形成的評価を行う。
- ・出欠状況、実習態度などを総括的評価に加味する
- ・期末の客観試験、論述試験で総括的評価を行う。

## 参考図書等

- ・Jill S. Nield-Gehrig: Fundamentals of Periodontal Instrumentation, Lippincott Williams & Wilkins, 2007.
- ・新歯科衛生士教本「歯科予防処置」全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・e-learning システム上にアップロード、または授業の際に印刷物を配付する。

## 留意事項

事前に資料の配付、e-learning システム上へのアップロードなどがあった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

|             |                                                                                                                                                 |
|-------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 科目名         | 医学一般                                                                                                                                            |
| ユニット名       | 医学一般                                                                                                                                            |
| 授業形態        | 講義                                                                                                                                              |
| 開講時期・単位・時間数 | 2 学年前期・必修・30 時間<br>3 学年前期・必修・30 時間<br>単位認定（4 単位）は3 学年前期終了時に行う                                                                                   |
| 科目・ユニット責任者  | 吉増秀實                                                                                                                                            |
| 授業担当者       | 長澤正之・荒木 聡（発生発達病態学分野）、高山かおる（皮膚科学分野）、角田篤信、有泉陽介（耳鼻咽喉科学分野）、大野京子・杉田 直（眼科学分野）、矢野晶大（泌尿器科学分野）、黒田真司（インプラント・口腔再生医学分野）、森田定雄（リハビリテーション部）村田希吉（救急災害医学分野）、吉増秀實 |
| 主な授業場所      | 口腔保健学科 第3 講義室                                                                                                                                   |

### 学習目標

口腔保健活動を行うために必要な臨床医学の各分野の知識を身につける。

### 到達目標

- ・主な感染症を説明できる。(2 年)
- ・主な循環器疾患を説明できる。(2 年)
- ・主な呼吸器疾患を説明できる。(2 年)
- ・主な消化器疾患を説明できる。(2 年)
- ・主な精神疾患を説明できる。(2 年)
- ・主な骨関節・結合組織疾患を説明できる。(2 年)
- ・主な精神疾患を説明できる。(2 年)
- ・臓器移植を概説できる。(2 年)
- ・主な先天性疾患を説明できる。
- ・主な小児科疾患を説明できる。
- ・主な皮膚疾患を説明できる。
- ・主な耳鼻咽喉科疾患を説明できる。
- ・主な眼科疾患を説明できる。
- ・主な泌尿器科疾患を説明できる。
- ・老化に伴う主な疾患を説明できる。
- ・再生医療を概説できる。
- ・救急医療について概説できる。
- ・機能障害およびリハビリテーション医療を説明できる。
- ・有病者の歯科医療・口腔保健活動の対応法について説明できる。

**授業計画 3 学年前期・必修・30 時間**

| 回      | 授業題目      | 授業内容                           |
|--------|-----------|--------------------------------|
| 1-4    | 小児科       | 小児が罹患しやすい感染症、先天性疾患等            |
| 5-8    | 皮膚科       | アトピー性皮膚炎、皮膚がん、疥癬、老化性変化等        |
| 9-12   | 耳鼻咽喉科     | 主な耳・鼻・のどの疾患、老化に伴う変化等           |
| 13-16  | 眼科        | 主な目の疾患、老化と目等                   |
| 17-20  | 泌尿器科      | 主な泌尿器科疾患、老化に伴う変化、排尿のトラブル、悪性腫瘍等 |
| 21, 22 | リハビリテーション | リハビリテーション                      |
| 23, 24 | 再生医療      | 再生医療とは、再生医療の口腔領域への応用           |
| 25, 26 | 救急災害医学    | 救急災害医療                         |
| 27, 28 | 有病者に対する対応 | 有病者の歯科医療                       |
| 29     | 有病者に対する対応 | 有病者に対する口腔保健活動                  |
| 30     | 総括        | まとめ                            |

**評価方法**

- ・ 随時小テストを行い、形成的評価を行う。
- ・ 期末に客観試験、記述試験を行い、総括的評価を行う。
- ・ 講義、グループ討論、発表の態度等を総括的評価に加味する。

**参考図書等**

- ・ 新版社会福祉士要請講座 13「医学一般」第2版 社会福祉士養成講座編集委員会編 中央法規
- ・ 社会福祉士養成テキストブック 16「医学一般」 黒田研二、竹内孝仁編著 ミネルヴァ書房

**留意事項**

事前に資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

|             |                                                 |
|-------------|-------------------------------------------------|
| 科目名         | 保健行動科学                                          |
| ユニット名       | コミュニケーション論Ⅱ                                     |
| 授業形態        | 講義                                              |
| 開講時期・単位・時間数 | 3 学年前期・必修 1 単位・15 時間                            |
| 科目・ユニット責任者  | 杉本久美子                                           |
| 授業担当者       | 中村千賀子（教養部）、坪井真、杉本久美子、遠藤圭子、近藤圭子、吉田直美（千葉県立保健医療大学） |
| 主な授業場所      | 学外施設                                            |

### 学習目標

行動科学に基づき、歯科衛生士が活動するための基盤となるコミュニケーションおよびカウンセリングの基本的知識と姿勢を学ぶ。

### 到達目標

- ・人を大切にすることとは何かを考察できる。
- ・人間観とは何かを概説できる。
- ・対人関係のあり方を考察できる。
- ・人の話を受容的に傾聴できる。
- ・人が理解できるように自分の意見を伝えることができる。

### 授業計画 3 学年前期・必修 1 単位・15 時間

| 回      | 授業題目      | 授業内容        |
|--------|-----------|-------------|
| 1      | オリエンテーション | オリエンテーション   |
| 2, 3   | 演習 1      | 自分を伝え、相手を知る |
| 4, 5   | 演習 2      | 気持ちの理解      |
| 6, 7   | 演習 3      | 知・情・意       |
| 8, 9   | 演習 4      | 聴くということ     |
| 10, 11 | 演習 5      | 相手をわかるということ |
| 12, 13 | 演習 6      | 人間観         |
| 14, 15 | まとめ       | まとめ         |

### 評価方法

出席・参加状況ならびに、提出物などにより評価する。

### 留意事項

1 泊 2 日の合宿形式で、1 年生と交流を持ちながら、演習を中心に行う。

|             |                              |
|-------------|------------------------------|
| 科目名         | 保健行動科学                       |
| ユニット名       | ヘルスカウンセリング論                  |
| 授業形態        | 講義                           |
| 開講時期・単位・時間数 | 3 学年前期・必修 1 単位・15 時間         |
| 科目・ユニット責任者  | 杉本久美子                        |
| 授業担当者       | 吉田直美（千葉県立保健医療大学）、渡邊麻理（非常勤講師） |
| 主な授業場所      | 口腔保健学科 第3講義室                 |

### 学習目標

ヘルスカウンセリングにおける基本姿勢や、クライアントの心情を理解する方法を修得し、援助的に働きかける知識・技能・態度を身につける。

### 到達目標

- ・ヒューマンニーズと歯科衛生ケアとの関連を説明できる。
- ・保健医療におけるカウンセリングの重要性を説明できる。
- ・クライアントが好ましいライフスタイルを獲得することをめざすための援助方法について概説できる。
- ・カウンセラーの基本的態度について概説できる。
- ・健康維持増進のための行動変容について説明することができる。

### 授業計画 3 学年前期・必修 1 単位・15 時間

| 回      | 授業題目                   | 授業内容                              |
|--------|------------------------|-----------------------------------|
| 1-3    | オリエンテーション、カウンセリング心理学概説 | オリエンテーション、カウンセリング心理学概説            |
| 4, 5   | 基本理論と演習 1              | ヘルスカウンセリングアプローチ<br>ヘルスカウンセリング演習 1 |
| 6, 7   | 基本理論と演習 2              | ヘルスカウンセリング演習 2                    |
| 8, 9   | 基本理論と演習 3              | ヘルスカウンセリング演習 3                    |
| 10, 11 | 基本理論と演習 4              | ヘルスカウンセリング演習 4                    |
| 12, 13 | 基本理論と演習 5              | ヘルスカウンセリング演習 5                    |
| 14, 15 | まとめ、試験                 | まとめ、試験                            |

### 評価方法

- ・提出レポート、期末の客観試験、論述試験で総括的評価を行う。
- ・出席および授業態度を総括的評価に加味する。

### 参考図書等

e-learning システム上にアップロード、または授業の際に印刷物を配布する。

#### **留意事項**

事前に資料の配付、e-learning システム上へのアップロードなどがあった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

|             |                                                                                                       |
|-------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 科目名         | 臨床口腔保健衛生基礎学実習                                                                                         |
| ユニット名       | 臨床口腔保健衛生基礎学実習                                                                                         |
| 授業形態        | 実習                                                                                                    |
| 開講時期・単位・時間数 | 2 学年後期・必修・45 時間<br>3 学年前期・必修・45 時間<br>単位認定（2 単位）は3 年前期終了時に行う                                          |
| 科目・ユニット責任者  | 白田千代子                                                                                                 |
| 授業担当者       | 石川雅章、下山和弘、寺岡加代、吉増秀實、白田千代子、近藤圭子、小野寺光江、大林尚人（口腔放射線医学分野）、神野成治（麻酔・生体管理学分野）、島田康史（う蝕制御学分野）、堀江明子、田澤千鶴子（非常勤講師） |
| 主な授業場所      | 口腔保健学科 臨床基礎実習室・相互実習室、歯学科 実習室                                                                          |

### 学習目標

歯科臨床の場でチーム医療の実践に必要な知識・技術を理解し、基礎的な技術を身につける。

### 到達目標

- ・ 器材の種類・特性・用途がわかる。
- ・ 診療に必要な器械・材料・薬品の適切な準備と取り扱いができる。
- ・ 器材の特性にあわせて、滅菌・消毒をすることができる。
- ・ 患者が安全に受診できるように、診療環境を整えることができる。
- ・ 患者と円滑にコミュニケーションをとれる。
- ・ チーム医療に必要な技能を実践できる。
- ・ 直接対面行為の技能を実践できる。
- ・ 診療に必要な検査を行い結果の意味が判断でき、患者に説明ができる。
- ・ バイタルサイン（意識レベルも含む）の測定ができ、サインの判断ができる。
- ・ 救急蘇生について説明でき、実施できる。

### 授業計画 3 学年前期・必修・45 時間

| 回     | 授業題目          | 授業内容                 |
|-------|---------------|----------------------|
| 1-3   | *エックス線撮影      | 歯科エックス線撮影の実際（撮影補助実習） |
| 4-6   | *臨床実習見学       | 口腔ケア実習見学             |
| 7-9   | *歯科診療の補助（各論）1 | 歯科診療の流れにそった補助の実際（演習） |
| 10-12 | *歯科診療の補助（各論）2 | 歯科診療の流れにそった補助の実際（演習） |

|       |               |                      |
|-------|---------------|----------------------|
| 13-15 | 暫間被覆冠の作製 1    | 暫間被覆冠の作製と実際          |
| 16-18 | 暫間被覆冠の作製 2    | 暫間被覆冠の作製と実際          |
| 19-21 | 保存処置関連実習 1    | 器材の取扱いの実際            |
| 22-24 | 保存処置関連実習 2    | 器材の取扱いの実際            |
| 25-27 | 精密印象採得の実際     | 相互実習                 |
| 28-30 | 小児歯科関連実習      | 相互実習                 |
| 31-33 | 歯科診療の補助（各論）3  | 歯科診療の流れにそった補助の実際（演習） |
| 34-36 | 歯科診療の補助（各論）4  | 歯科保険の実際 1            |
| 37-39 | 歯科診療の補助（各論）5  | 歯科保険の実際 2            |
| 40-42 | 口腔外科・歯科麻酔関連実習 | 浸潤麻酔・静脈確保            |
| 43-45 | 救急蘇生法実習       | 救急蘇生の実際              |

＊4 週間のローテーションで実施する。

## 評価方法

- ・ 中間（2 年次）と期末の筆記試験、実技試験および提出レポート・課題により評価する。
- ・ 授業態度・意欲および授業参加度を総括的評価に加味する。

## 参考図書等

- ・ 臨床科目関連の新歯科衛生士教本 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・ 臨床関連科目 講義資料等

|             |                                                                         |
|-------------|-------------------------------------------------------------------------|
| 科目名         | 顎口腔機能訓練法                                                                |
| ユニット名       | 顎口腔機能訓練法                                                                |
| 授業形態        | 講義                                                                      |
| 開講時期・単位・時間数 | 3 学年前期・選択 1 単位・15 時間                                                    |
| 科目・ユニット責任者  | 石川雅章                                                                    |
| 講義担当者       | 石川雅章、佐々木洋 (UTAKA DENTAL OFFICE)、壬生美智子 (言語治療室)、大塚義頭 (千葉東病院)、落合聡 (聖マリア病院) |
| 主な授業場所      | 口腔保健学科 第3講義室                                                            |

### 学習目標

顎・口腔・顔面領域の運動および感覚の健全な発達を支援する必要性、および様々な顎口腔機能訓練の役割とその実際を理解する。

### 到達目標

- ・顎口腔機能発達の遅滞に対する支援を説明できる。
- ・顎口腔機能の発達に影響を及ぼす習癖などを説明できる。
- ・顎口腔機能の発達における哺乳・離乳、摂食の重要性を説明できる。
- ・口腔筋機能療法を概説できる。
- ・発音機能の発達とその異常を概説できる。
- ・構音障害とその診査法・訓練法を概説できる。
- ・摂食・嚥下機能の発達障害を概説できる。
- ・重症障害児の摂食訓練を概説できる。
- ・顎口腔の先天異常における摂食機能への影響を説明できる。
- ・唇顎口蓋裂児における Hotz 床の役割を概説できる。

### 授業計画 第3学年前期・選択1単位・15時間

| 回    | 授業題目                     | 授業内容                                                                        |
|------|--------------------------|-----------------------------------------------------------------------------|
| 1, 2 | 摂食・嚥下機能の発達、非栄養的吸啜行動と口腔習癖 | 発育の原則、機能の発達と習熟、哺乳の発達、相互作用の意義、成人の摂食・嚥下過程、非栄養的吸啜行動の背景と発育への影響、歯科からのアプローチ       |
| 3, 4 | 口腔筋機能療法の基本理論と流れ          | 口腔筋機能療法の概説、促通法、筋機能訓練、行動変容療法、理論と訓練法の組立、包括的歯科における口腔筋機能療法の応用                   |
| 5, 6 | 口腔筋機能の評価法と口腔筋機能療法の手技     | 摂食・嚥下過程での顎舌協調運動の評価、口腔機能の障害とパラファンクション、筋触診、摂食・嚥下課程の簡易評価、低位舌と口唇閉鎖、姿勢、評価法と手技の演習 |

|        |                                 |                                                                                                           |
|--------|---------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 7, 8   | 発音機能の発達と遅滞、言語治療の概要              | 言語聴覚士について、正常な構音発達、発達中の音の誤りの特徴、機能性構音障害と治療法、症例供覧                                                            |
| 9, 10  | 構音障害とその訓練                       | 器質性構音障害と治療法、舌小帯強直症と言語治療、口蓋裂に伴う構音障害と言語治療、鼻咽腔閉鎖機能の診査と評価、スピーチエイドとパラタルリフト、症例供覧                                |
| 11, 12 | 先天異常と顎口腔機能、唇顎口蓋裂児における Hotz 床の役割 | 顎口腔の先天異常と摂食機能の発達、唇顎口蓋裂児の哺乳と離乳、Hotz 床の目的・構造および治療効果、術前鼻歯槽形成法（PNAM）、家族・本人への精神的支援                             |
| 13-15  | 摂食・嚥下機能の遅滞、重症障害児の摂食訓練           | 摂食嚥下機能の発達遅滞、遅滞を助長する外部環境因子、異常パターンの定着、重症心身障害児の摂食訓練（食事環境の整備、脱感作療法、介助の姿勢、顎・頭部の固定とコントロール、食物の調理形態、嚥下促通法、バンゲード法） |

### 評価方法

- ・必要に応じてレポートの提出を課すとともに、期末の客観試験、記述試験で総括的評価を行う。
- ・出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。

### 参考図書等

- ・口腔筋機能療法（MFT）の臨床 佐々木洋他編 医歯薬出版
- ・口腔筋機能療法の実際 高橋未哉子 クインテッセンス出版
- ・口唇口蓋裂の理解のために―すこやかな成長を願って― 夏目長門、鈴木俊夫 医歯薬出版
- ・言語聴覚療法シリーズ8・器質性構音障害 斉藤裕恵編 建帛社
- ・口蓋裂の言語治療 岡崎恵子他 医学書院
- ・小児の摂食・嚥下リハビリテーション 田角 勝、向井美恵編著、医歯薬出版

### 留意事項

事前に資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合には、予習して授業に臨むこと。

|             |                                                                               |
|-------------|-------------------------------------------------------------------------------|
| 科目名         | 口腔保健衛生臨床実習                                                                    |
| ユニット名       | 発達育成系口腔保健衛生臨床実習                                                               |
| 授業形態        | 実習                                                                            |
| 開講時期・単位・時間数 | 3 学年後期・必修・140 時間<br>4 学年前期・必修・40 時間 } 4 単位<br>単位認定（4 単位）は 4 学年前期（40 時間）終了時に行う |
| 科目・ユニット責任者  | 近藤圭子                                                                          |
| 授業担当者       | 寺岡加代、石川雅章、下山和弘、吉増秀實、遠藤圭子、近藤圭子、<br>大学院医歯学総合研究科臨床系教員、歯学部附属病院臨床系教職員              |
| 主な授業場所      | 歯学部附属病院内                                                                      |

### 学習目標

歯科診療施設において、発達期にある乳幼児から青少年およびその保護者に対し、チーム医療の一員として、歯科予防処置・歯科保健指導・歯科診療補助を実践するために必要な態度・知識・技能を修得する。

### 到達目標

- ・ 患児の身体的・精神的・社会的苦痛に配慮し、問題点を抽出・整理できる。
- ・ 患児および保護者の不安・不満に適切に対応できる。
- ・ 歯科診療時に示す患児の行動とその変容に適切に対応できる。
- ・ 歯科ユニット各部の名称と機能を説明できる。
- ・ 発達期の歯科診療に必要な器材を説明できる。
- ・ 診療室への患児および保護者の誘導を適切にできる。
- ・ 患児および保護者に挨拶して自己紹介できる。
- ・ 患児および保護者との信頼関係を築くことができる。
- ・ 個人的、社会的背景等が異なる患児および保護者に、わけへだてなく対応できる。
- ・ 患児および保護者の価値観が多様であることを認識し、柔軟に対応できる。
- ・ 必要な情報を整理し、わかりやすい口頭説明と文書を準備できる。
- ・ 説明を行うために適切な時期・場所・機会に配慮できる。
- ・ 患児および保護者からの質問に適切に応え、その様々な反応に柔軟に対応できる。
- ・ 医療事故や潜在的医療事故（ニアミス）に関する情報を共有し、再発防止に役立てることができる。
- ・ インフォームドコンセントを行うことができる。
- ・ 乳幼児から青少年に対し、歯科予防処置を実施できる。
- ・ 乳幼児から青少年およびその保護者に対し、歯科保健指導を実施できる。
- ・ 乳幼児から青少年の歯科診療に際し、診療補助を実施できる。

**授業計画 3 学年後期・必修・140 時間**

| 回       | 授業題目             | 授業内容                                           |
|---------|------------------|------------------------------------------------|
| 1-24    | 臨床実習ガイダンスおよび予備実習 | 臨床実習ガイダンス、小児歯科外来、歯科放射線外来、中央器材室実習等に関するオリエンテーション |
| 25-75   | 小児歯科外来実習         | 小児歯科外来における歯科診療の補助、歯科保健指導                       |
| 76-100  | 歯科放射線外来実習        | 歯科放射線外来における歯科診療の補助                             |
| 101-120 | 中央器材室実習          | 中央器材室における歯科診療室管理業務実習                           |

**評価方法**

- ・実習記録等により総括的評価を行う。
- ・実習態度を総括的評価に加味する。

**参考図書等**

- ・新歯科衛生士教本「歯科臨床概論」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「歯科保健指導」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「小児歯科学」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「歯科放射線」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「歯科診療補助 歯科器械の知識と取り扱い」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「歯科診療補助 歯科材料の知識と取り扱い」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版

**留意事項**

附属病院等では服装、態度等に留意すること。不適切な場合は実習停止とする場合がある。

|             |                                                                                                                             |
|-------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 科目名         | 口腔保健衛生臨床実習                                                                                                                  |
| ユニット名       | 成人口腔保健衛生臨床実習 I                                                                                                              |
| 授業形態        | 実習                                                                                                                          |
| 開講時期・単位・時間数 | 3 学年後期・必修 6 単位・270 時間                                                                                                       |
| 科目・ユニット責任者  | 近藤圭子                                                                                                                        |
| 授業担当者       | 寺岡加代、石川雅章、下山和弘、吉増秀實、遠藤圭子、近藤圭子、坂本裕次郎、小原由紀、佐々木好幸（口腔保健教育研究センター）、山崎美幸・岡田昌子・田澤千鶴・河野章江・藤田直子（非常勤講師）、大学院医歯学総合研究科臨床系教員、歯学部附属病院臨床系教職員 |
| 主な授業場所      | 歯学部附属病院内                                                                                                                    |

### 学習目標

主に成人に対し、対象者本位の歯科予防処置・歯科保健指導・歯科診療補助を実践するために必要な態度・知識・技能を修得する。

### 到達目標

- ・対象者の身体的・精神的・社会的苦痛に配慮し、問題点を抽出・整理できる。
- ・対象者の不安・不満や表情・行動の変化に適切に対応できる。
- ・歯科ユニット各部の名称と機能を説明できる。
- ・診療に必要な器材を説明できる。
- ・診療室への患者の誘導を適切にできる。
- ・対象者に挨拶して自己紹介できる。
- ・対象者との信頼関係を築くことができる。
- ・個人的、社会的背景等が異なる対象者に、わけへだてなく対応できる。
- ・対象者の価値観が多様であることを認識し、柔軟に対応できる。
- ・必要な情報を整理し、わかりやすい口頭説明と文書を準備できる。
- ・説明を行うために適切な時期・場所・機会に配慮できる。
- ・対象者からの質問に適切に応え、その様々な反応に柔軟に対応できる。
- ・医療事故や潜在的医療事故（ニアミス）に関する情報を共有し、再発防止に役立てることができる。
- ・インフォームドコンセントを行うことができる。
- ・主に成人に対し、歯科予防処置を実施できる。
- ・主に成人に対し、歯科保健指導を実施できる。
- ・主に成人に対し、歯科診療補助を実施できる。

### 授業計画 3 学年後期・必修 6 単位・270 時間

| 回    | 授業題目             | 授業内容                                                   |
|------|------------------|--------------------------------------------------------|
| 1-45 | 臨床実習ガイダンスおよび予備実習 | 臨床実習ガイダンス、口腔ケア外来、むし歯外来、歯周病外来、義歯外来、口腔外科外来等におけるオリエンテーション |

|         |          |                        |
|---------|----------|------------------------|
| 46-135  | 口腔ケア実習   | 患者さんを担当した歯科予防処置、歯科保健指導 |
| 136-180 | むし歯外来実習  | むし歯外来における歯科診療補助        |
| 181-225 | 歯周病外来実習  | 歯周病外来における歯科診療補助        |
| 226-248 | 義歯外来実習   | 義歯外来における歯科診療補助         |
| 249-270 | 口腔外科外来実習 | 口腔外科外来における歯科診療補助       |

## 評価方法

実習記録、患者さんへのリーフレット等により総括的評価を行う。

実習態度を総括的評価に加味する。

## 参考図書等

- ・ 最新歯科衛生士教本「口腔保健管理」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・ 最新歯科衛生士教本「歯周疾患」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・ 新歯科衛生士教本「歯科臨床概論」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・ 新歯科衛生士教本「歯科保健指導」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・ 新歯科衛生士教本「保存修復学・歯内療法学」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・ 新歯科衛生士教本「歯科補綴学」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・ 新歯科衛生士教本「口腔外科学・歯科麻酔学」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・ 新歯科衛生士教本「歯科診療補助 歯科器械の知識と取り扱い」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版  
全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・ 新歯科衛生士教本「歯科診療補助 歯科材料の知識と取り扱い」 医歯薬出版

## 留意事項

附属病院等では服装、態度等に留意すること。不適切な場合は実習停止とする場合がある。

|             |                                                                        |
|-------------|------------------------------------------------------------------------|
| 科目名         | 地域口腔保健衛生臨地実習                                                           |
| ユニット名       | 地域口腔保健衛生臨地実習                                                           |
| 授業の形態       | 実習                                                                     |
| 開講時期・単位・時間数 | 3 学年前期・必修・20 時間<br>3 学年後期・必修・10 時間<br>単位認定（2 単位）は 4 学年前後期（60 時間）終了時に行う |
| 科目・ユニット責任者  | 遠藤圭子                                                                   |
| 授業担当者       | 遠藤圭子、近藤圭子、白田千代子、寺岡加代、石川雅章                                              |
| 主な授業場所      | 口腔保健学科 第3 講義室、小学校、幼稚園、保育園、病院 等                                         |

**学習目標**

地域保健活動を展開するために必要な知識、技術、態度を習得して、実践力を養う。

**到達目標**

- ・地域における口腔保健活動が説明できる。
- ・学童、園児のニーズに即した活動を理解する。
- ・集団対象の健康教育を立案できる。
- ・健康教育を実施し、プログラム、対象者の反応、変化を評価できる。
- ・病院における歯科衛生活動の内容を説明する。

**授業計画****3 学年前期・必修・20 時間**

| 回     | 授業題目                            | 授業内容                                                 |
|-------|---------------------------------|------------------------------------------------------|
| 1-3   | 学外実習の意義<br>集団対象の健康教育 1<br>・事前調査 | 学外実習について<br>質問紙調査（調査時の注意、質問文作成、<br>レイアウト、データ水準、分析 等） |
| 4-6   | 集団対象の健康教育 2<br>・プログラム計画         | 集計、報告書作成<br>情報収集、健康指導計画立案                            |
| 7-9   | 集団対象の健康教育 3<br>・テーマの決定          | 健康教育目標、テーマ等の決定、内容検討                                  |
| 10-12 | 集団対象の健康教育 4<br>・シナリオ作成、教材作成     | 指導の流れ、シナリオ作成、教材作成                                    |
| 13-15 | 学外実習 T 小学校における集団指導              | 実習、事後評価、実習報告書の作成                                     |
| 16-20 | 集団対象の健康教育 5<br>・H 市内保育園における集団指導 | 実習、事後評価、実習報告書の作成                                     |

**3 学年後期・必修・10 時間**

|       |               |                |
|-------|---------------|----------------|
| 21-24 | 総合病院における活動の実際 | 総合病院の現状と職種間の連携 |
|-------|---------------|----------------|

|        |               |             |
|--------|---------------|-------------|
| 25-28  | 総合病院における活動の実際 | 入院患者の現状の把握  |
| 29, 30 | 〃             | 患者誘導、患者への配慮 |

### 評価方法

- ・ 報告書、出席状況を基に総括的評価を行う。
- ・ 実習態度、受け入れ施設からの評価を総括的評価に加味する。

### 留意事項

- ・ 事前配付資料は、繰り返し読んで、確認して実習に臨む。
- ・ 服装、態度、言葉遣いに留意する。
- ・ 実習への取り組み、出席状況、報告書の提出状況などが不適切の場合には、実習停止とすることがある。

|             |                                                   |
|-------------|---------------------------------------------------|
| 科目名         | 特論（卒業研究）                                          |
| ユニット名       | 特論（卒業研究）                                          |
| 授業の形態       | 演習                                                |
| 開講時期・単位・時間数 | 3 学年後期・必修・60 時間<br>単位認定（6 単位）は 4 学年（120 時間）終了時に行う |
| 科目・ユニット責任者  | 石川 雅章                                             |
| 授業担当者       | 口腔保健学科・口腔保健教育研究センター・歯学科教員                         |
| 主な授業場所      | 口腔保健学科第 3 講義室                                     |

### 学習目標

各学生の知的興味、将来の方向性に沿ってテーマを選択し、計画・立案に基づいて研究を実施する。さらに結果を論文にまとめて十分考察することにより、研究への理解と意欲を培う。

### 到達目標

- ・自分の知的興味、将来の方向性に沿って研究テーマが設定できる。
- ・研究テーマに対応した論文の検索と科学的吟味を行い、これまでの知見が整理できる。
- ・EBM・EBHC の概念を説明できる。
- ・知見や問題点に基づいた研究の計画・立案ができる。
- ・実験・調査などの研究を実施できる。
- ・実験・調査などの結果を分析整理し、統計学的な解析ができる。
- ・結果に基づき、新たな問題点と課題を抽出、提起できる。
- ・一連の研究成果を論文にまとめ、発表できる。

### 授業計画 3 学年後期・必修・60 時間

| 回    | 授業題目          | 授業内容                                                                                        |
|------|---------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1, 2 | 卒業研究オリエンテーション | 卒業研究の概要、これまでの卒業研究の紹介、口腔保健学科指導教員の研究テーマ紹介、卒業研究テーマの考え方                                         |
| 3-4  | 研究のデザイン       | Evidence-based Medicine (EBM), Evidence-based Health Care (EBHC) とは、論文の構成、文献の検索と引用、文献の科学的吟味 |
| 5-6  | 研究方法の立案、結果の整理 | 実験ノートにつけ方、調査アンケート作成上の注意、倫理上の問題、個人情報の管理、結果の入力方法とエクセルの使い方                                     |
| 7, 8 | 研究結果の分析処理     | 研究結果の分析方法、有意性の検定、統計ソフトの使い方の実際                                                               |
| 9-10 | 研究計画の仮決定、論文書式 | 研究テーマの仮決定、研究分野・指導教官の決定、研究計画書の作成方法、CD 掲載概要版と本論文の書式に                                          |

|       |               |                                                           |
|-------|---------------|-----------------------------------------------------------|
|       |               | ついて                                                       |
| 11-22 | 研究分野とテーマの検討 1 | 指導教官との討論による研究計画・方法の検討、研究テーマに関連する文献検索と知見の整理、課題の設定、研究計画書の作成 |
| 23-29 | 4 年生特論研究成果報告会 | 4 年生特論研究成果報告会への参加                                         |
| 30-48 | 研究分野とテーマの検討 2 | 指導教官との討論による研究計画・方法の検討、研究テーマに関連する文献検索と知見の整理、課題の設定、研究計画書の作成 |
| 49-53 | 研究計画発表会 1     | 選択した研究テーマの知見、問題点に基づいた研究計画の発表と討論                           |
| 52-55 | 研究テーマにおける文献検索 | 研究テーマにおける文献検索と知見の整理、文献検索結果報告書の作成                          |
| 56-60 | 研究計画発表会 2     | 選択した研究テーマの知見、問題点に基づいた研究計画の発表と討論                           |

### 評価方法

研究計画発表会での発表、および研究計画書により総括的中間評価を行う。

### 参考図書等

- ・「保健・医療のための研究法入門」、朝倉隆司監訳、協同医書出版社
- ・「医薬研究者の視点からみた道具としての統計学」、奥田千恵子、金芳堂
- ・「SPSS による医学・歯学・薬学のための統計解析」第 2 版、石村貞夫他著、東京図書

### 留意事項

- ・常に指導教員と密接な連絡をとり、助言を得ながら研究を進めること。
- ・平成 23 年 7 月上旬に研究中間報告会を行う。
- ・平成 23 年 12 月中旬に研究結果概要を e-learning 上で提出し、研究成果報告会を行う。
- ・平成 24 年 1 月中旬までに卒業研究論文を e-learning 上で提出すること。

|             |                          |
|-------------|--------------------------|
| 科目名         | 障害者福祉論Ⅰ                  |
| ユニット名       | 障害者福祉論Ⅰ                  |
| 授業形態        | 講義                       |
| 開講時期・単位・時間数 | 3 学年前期・必修1単位・15時間        |
| 科目・ユニット責任者  | 坪井真                      |
| 授業担当者       | 雨宮由紀枝（日本女子体育大学）、口腔保健学科教員 |
| 主な授業場所      | 口腔保健学科 第3講義室、歯学部 演習室     |

### 学習目標

- ・わが国の障害者福祉の現状と課題を理解する。
- ・障害者の自立生活と社会参加に向けた支援のあり方を理解する
- ・障害者施策における国際的動向を理解し、自らの障害を捉える視点のあり方について考える。

### 到達目標

- ・障害者を取り巻く社会情勢と生活実態、障害の概念について概括的に説明できる。
- ・障害者にかかわる法律と、障害者の自立支援の制度の概要について説明できる。
- ・障害児の療育と教育の現状と課題について説明できる。
- ・障害児者のための地域および生活環境の整備について説明できる。
- ・障害児者とその家族へのライフステージに応じた支援のあり方を説明できる。
- ・障害者の雇用・就労の現状と課題について説明できる。
- ・現代社会における障害者福祉の課題を理解できる。

### 授業計画 3 学年前期・必修1単位・15時間

| 回     | 授業題目                          | 授業内容                                           |
|-------|-------------------------------|------------------------------------------------|
| 1-4   | 現代社会と障害者福祉                    | 障害者を取り巻く国内・国際的動向、障害者にかかわる法律、生活実態、国際生活機能分類（ICF） |
| 5-7   | 地域生活をサポートする1<br>(PBL テュートリアル) | 自立の概念、障害者自立支援法、成年後見制度、福祉のまちづくり、所得・情報保障         |
| 8-10  | 地域生活をサポートする2<br>(PBL テュートリアル) | 障害当事者組織の活動、専門職の役割、ソーシャルワーク、障害児者の家族への支援         |
| 11-12 | 障害児への支援                       | 療育システム、母子保健施策、子育て支援、特別支援教育、発達障害者支援法            |

|       |             |                                          |
|-------|-------------|------------------------------------------|
| 13-15 | 障害者の雇用・就労支援 | 雇用・就労施策の歴史と現状、障害のある人の就労の現状、援助付き雇用、ジョブコーチ |
|-------|-------------|------------------------------------------|

### 評価方法

期末試験、毎回のリアクションペーパー、出席状況、授業態度、課題レポートにより総合的に評価する。

### 参考図書等

- ・「新・社会福祉士養成講座 14 障害者に対する支援と障害者自立支援制度―障害者福祉論」 社会福祉士養成講座編集委員会編 中央法規
- ・他、随時授業中に紹介する。

### 留意事項

事前に資料の配付、e-learning へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

|             |                                                                |
|-------------|----------------------------------------------------------------|
| 科目名         | 障害者福祉論Ⅱ                                                        |
| ユニット名       | 障害者福祉論Ⅱ                                                        |
| 授業形態        | 講義                                                             |
| 開講時期・単位・時間数 | 3 学年後期・選択 1 単位・15 時間<br>2 年次の選択履修関連科目（30 時間）と合わせて単位認定（3 単位）を行う |
| 科目・ユニット責任者  | 坪井真                                                            |
| 授業担当者       | 雨宮由紀枝（日本女子体育大学）                                                |
| 主な授業場所      | 口腔保健学科 第3講義室                                                   |

### 学習目標

- ・わが国の障害者福祉の現状と課題を理解する。
- ・障害者の自立生活と社会参加に向けた支援のあり方を理解する
- ・障害者施策における国際的動向を理解し、自らの障害を捉える視点のあり方について考える。

### 到達目標

- ・発達障害児者へのライフステージに応じた支援のあり方を説明できる。
- ・障害者運動、セルフヘルプグループなど、障害当事者の活動の意義について説明できる。
- ・障害をめぐる出生前診断や生殖補助医療などの現代的課題について説明できる。
- ・障害児者の生活を的確に把握し、自立生活と社会参加に向けた具体的な支援の方策を提示できる。
- ・現代社会における障害者福祉の課題を理解できる。

### 授業計画 3 学年後期・選択 1 単位・15 時間

| 回     | 授業題目             | 授業内容                            |
|-------|------------------|---------------------------------|
| 1-3   | 発達障害児者の理解と支援     | 発達障害者支援法<br>LD、ADHD、高機能自閉症      |
| 4-6   | 障害者運動とセルフヘルプグループ | 障害当事者による社会行動<br>障害当事者の会、家族会、親の会 |
| 7-9   | 障害と生命倫理          | 優生思想、出生前診断<br>生殖補助医療            |
| 10-12 | 障害者の地域生活支援の実践    | 自立生活支援、地域生活移行<br>事例検討           |

|       |           |                        |
|-------|-----------|------------------------|
| 13-15 | 相談支援活動の実際 | ソーシャルワーク、多職種連携<br>事例検討 |
|-------|-----------|------------------------|

### 評価方法

期末試験、毎回のリアクションペーパー、出席状況、授業態度、課題レポートにより総合的に評価する。

### 参考図書等

- ・「新・社会福祉士養成講座 14 障害者に対する支援と障害者自立支援制度―障害者福祉論」社会福祉士養成講座編集委員会編 中央法規
- ・その他、随時授業中に紹介する。

### 留意事項

事前に資料の配付、e-learning へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

|             |                      |
|-------------|----------------------|
| 科目名         | 地域福祉論Ⅰ               |
| ユニット名       | 地域福祉論Ⅰ               |
| 授業形態        | 講義                   |
| 開講時期・単位・時間数 | 3 学年前期・必修 1 単位・15 時間 |
| 科目・ユニット責任者  | 坪井真                  |
| 授業担当者       | 柳沢志津子（東洋学園大学）        |
| 主な授業場所      | 口腔保健学科 第3講義室         |

### 学習目標

在宅介護サービス、地域を基盤にした子育て支援、障がい者の地域移行など、近年、社会福祉サービスの展開基盤が、施設から地域へ、国家から地域へと移行されつつある。果たして、地域とは何か、地域における社会福祉の推進主体とは誰なのだろうか。本講義では、地域福祉の基本的な概念を学び、なぜ社会福祉において地域福祉の推進が強調されるのか、理解を深める。

### 到達目標

- ・地域福祉の基本的考え方について説明できる。
- ・地域福祉の推進主体と対象について説明できる。
- ・地域福祉を推進する組織、団体及び専門職、住民の役割と実際について説明できる。

### 授業計画 3 学年前期・必修 1 単位・15 時間

| 回  | 授業題目           | 授業内容                      |
|----|----------------|---------------------------|
| 1  | 地域福祉の理念        | 自立支援、地域生活支援、地域移行          |
| 2  | 地域福祉の基本概念      | 地域コミュニティと住民、社会福祉法         |
| 3  | 地域福祉の基本概念      | 人権尊重、権利擁護、社会的包摂、          |
| 4  | 地域福祉の歴史的展開 1   | 地域福祉の源流 C O S 活動とセツルメント活動 |
| 5  | 地域福祉の歴史的展開 2   | 戦後日本の地域福祉                 |
| 6  | 地域福祉の歴史的展開 3   | 地域コミュニティ視点の登場             |
| 7  | 地域福祉の主体と対象 4   | 地方分権、住民自治                 |
| 8  | 地域福祉の主体と対象 5   | 福祉の多元化、市場化                |
| 9  | 地域福祉の問題とは何か    | ビデオ「孤立する都市の高齢者」           |
| 10 | 地域福祉を支える組織と人々1 | 行政組織の役割と実際、地方自治体          |

|    |                |                                   |
|----|----------------|-----------------------------------|
| 11 | 地域福祉を支え組織と人々2  | 民間組織の役割と実際、社会福祉協議会、共同募金           |
| 12 | 地域福祉を支える組織と人々3 | 民間組織の役割と実際、社会福祉法人、NPO・NGO、自治会     |
| 13 | 地域福祉を支える組織と人々4 | 社会福祉専門職の役割と実際、社会福祉士、地域活動専門員、介護相談員 |
| 14 | 地域福祉を支える組織と人々5 | 地域住民の役割と実際、民生委員、児童委員、ボランティア、自治会   |
| 15 | まとめ            | ミニテスト                             |

## 評価方法

出席状況と授業態度（20%）、授業時に作成するレポート（20%）、ミニテスト（60%）で、総合的に評価する。

## 参考図書等

- ・「地域福祉論」 田端光美編著 建帛社
- ・「地域福祉論 社会福祉士養成テキストブック」 市川一宏・牧里毎治編著 ミネルヴァ書房
- ・「地域福祉の理論と方法―地域福祉論」 市川一宏・上野谷加代子・大橋謙策編著 中央法規
- ・「厚生指標 国民の福祉の動向 各年度版」 厚生統計協会
- ・「社会福祉小六法 2009年度版」 ミネルヴァ書房
- ・その他、必要に応じて講義の中で提示する。

## 留意事項

学習する内容について各自で参考文献を読み、理解を深めること。

|             |                                             |
|-------------|---------------------------------------------|
| 科目名         | 地域福祉論 II                                    |
| ユニット名       | 地域福祉論 II                                    |
| 授業形態        | 講義                                          |
| 開講時期・単位・時間数 | 3 学年前期・選択・15 時間<br>単位認定（3 単位）は 4 学年前期終了時に行う |
| 責任者         | 坪井真                                         |
| 授業担当者       | 柳沢志津子（東洋学園大学）                               |
| 主な授業場所      | 口腔保健学科 第3 講義室                               |

### 学習目標

在宅介護サービス、地域を基盤にした子育て支援、障がい者の地域移行など、近年、社会福祉サービスの展開基盤が、施設から地域へ、国家から地域へと移行されつつある。果たして、地域とは何か、地域における社会福祉の推進主体とは誰なのだろうか。本講義では、地域福祉Ⅰの学び（地域福祉の基本的考え方、推進主体と対象）を踏まえ、地域福祉の推進方法について具体的な事例を通して理解を深める。

### 到達目標

- ・地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について説明できる。
- ・地域福祉におけるネットワークの意義と方法及びその実際について説明できる。
- ・地域福祉における推進方法について事例を通して具体的な内容を説明できる。

### 授業計画 3 学年前期・選択・15 時間

| 回 | 授業題目      | 授業内容                 |
|---|-----------|----------------------|
| 1 | 地域福祉の推進方法 | 社会福祉法                |
| 2 | 地域福祉の推進方法 | コミュニティワーク技法          |
| 3 | 地域福祉の推進方法 | ネットワーク、社会資源の活用・調整・開発 |
| 4 | 地域福祉の財源   | 地方自治体の地域福祉財源、民間財源    |
| 5 | 地域福祉の実際   | 社会福祉施設の地域拠点          |
| 6 | 地域福祉の実際   | 福祉教育とボランティア活動        |
| 7 | 地域福祉計画策定  | 地域福祉計画策定の流れ          |
| 8 | 地域福祉計画策定  | 実践「住民参加による福祉のまちづくり」  |

|    |          |                     |
|----|----------|---------------------|
| 9  | 地域福祉計画策定 | 実践「住民参加による福祉のまちづくり」 |
| 10 | 地域福祉計画策定 | 実践「住民参加による福祉のまちづくり」 |
| 11 | 地域福祉計画策定 | 実践「住民参加による福祉のまちづくり」 |
| 12 | 地域福祉の実際  | 地域福祉計画における住民主体形成    |
| 13 | 地域福祉の実際  | 福祉サービスの評価方法、第三者評価事業 |
| 14 | 地域福祉の実際  | 福祉の情報提供と苦情解決システム    |
| 15 | まとめ      | ミニテスト               |

## 評価方法

出席状況と授業態度（20%）、授業時に作成するレポート（20%）、ミニテスト（60%）で、総合的に評価する。

## 参考図書等

- ・「地域福祉論」 田端光美編著 建帛社 2002年
- ・「地域福祉論 社会福祉士養成テキストブック」 市川一宏・牧里毎治編著 ミネルヴァ書房
- ・「地域福祉の理論と方法―地域福祉論」 市川一宏・上野谷加代子・大橋謙策編著 中央法規
- ・「厚生指標 国民の福祉の動向 各年度版」 厚生統計協会
- ・「社会福祉小六法 各年度版」 ミネルヴァ書房
- ・そのほか、必要に応じて講義の中で提示する。

## 留意事項

学習する内容について各自で参考文献を読み、理解を深めること。

|             |                                                                                                                            |
|-------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 科目名         | 社会福祉援助技術論                                                                                                                  |
| ユニット名       | 社会福祉援助技術論                                                                                                                  |
| 授業形態        | 講義                                                                                                                         |
| 開講時期・単位・時間数 | 2 学年前期（夏季集中）・選択・15 時間<br>2 学年後期・選択・55 時間<br>3 学年前期・選択・25 時間<br>3 学年前期（夏季集中）・選択・25 時間<br>} 8 単位<br>単位認定（8 単位）は 3 学年前期終了時に行う |
| 科目責任者       | 坪井真                                                                                                                        |
| 授業担当者       | 坪井真、南野奈津子（東京福祉専門学校）、長谷川洋昭（田園調布学園大学）                                                                                        |
| 主な授業場所      | 口腔保健学科 第3 講義室                                                                                                              |

### 学習目標

社会福祉援助技術の歴史や特徴を理解し、現代における社会福祉の果たす役割やと実践上の課題を考察するとともに、社会福祉援助技術の内容・方法とプロセスを理解し、相手の心情と行動を理解して人と接する能力を身につける。

### 到達目標

- ・社会福祉援助技術の歴史や特徴を説明できる。
- ・社会福祉援助技術の内容・方法とプロセスを説明できる。
- ・社会福祉援助技術に関する実践上の課題について、自らの意見を述べることができる。
- ・社会福祉援助と口腔保健における実践の関連性に興味関心をもち、自ら調べ、考える態度をもつ。

### 授業計画

#### 3 学年前期・選択・25 時間

| 回     | 授業題目          | 授業内容                     |
|-------|---------------|--------------------------|
| 1-3   | オリエンテーション     | 社会福祉援助技術の概要（定義・倫理、歴史、理論） |
| 4-6   | 社会福祉援助の展開過程 1 | 展開過程の概要、各過程の特徴、事例検討      |
| 7-9   | 社会福祉援助の展開過程 2 | 個人・家族を支援する社会福祉援助の展開過程    |
| 10-12 | 社会福祉援助の展開過程 3 | 集団・地域を支援する社会福祉援助の展開過程    |
| 13-15 | 個別援助技術 1      | 個別援助技術（ケースワーク）の内容、事例検討   |

|       |          |                          |
|-------|----------|--------------------------|
| 16-18 | 個別援助技術 2 | 個別援助技術（ケースワーク）の展開過程      |
| 19-21 | 集団援助技術 1 | 集団援助技術（グループワーク）の内容、事例検討  |
| 22-24 | 集団援助技術 2 | 集団援助技術（グループワーク）の展開過程     |
| 25    | 授業の振り返り  | 社会福祉援助技術の概要、個別・集団援助技術の活用 |

### 3 学年前期（夏季集中）・選択・25 時間

| 回     | 授業題目           | 授業内容                      |
|-------|----------------|---------------------------|
| 26-28 | 地域援助技術 1       | 地域援助技術（コミュニティワーク）の内容、事例検討 |
| 29-31 | 地域援助技術 2       | 地域援助技術（コミュニティワーク）の展開過程    |
| 32-33 | その他の社会福祉援助技術 1 | アウトリーチ、事例検討               |
| 34-35 | その他の社会福祉援助技術 2 | スーパービジョンの内容、事例検討          |
| 36-38 | 地域を基盤とした実践 1   | コミュニティソーシャルワークの内容と展開過程    |
| 39-41 | 地域を基盤とした実践 2   | ミクロ実践とマクロ実践の連結による社会福祉援助   |
| 42-44 | 地域を基盤とした実践 3   | ファシリテーションの内容と社会福祉援助の関係    |
| 45-47 | 社会福祉援助と関連領域    | 社会福祉援助と関連領域の関係、事例検討       |
| 48-50 | 授業の振り返りとまとめ    | 生活課題を解決する社会福祉援助技術、授業内レポート |

### 評価方法

- ・授業内レポートで重要な単元の学習成果を評価する。
- ・グループディスカッション（事例検討など）の参加状況を評価に加味する。
- ・定期試験を実施し、総合的に評価する。

### 参考図書等

- ・教科書：「相談援助の理論と方法Ⅰ 第2版（新・社会福祉士養成講座 第7巻）」社会福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版
- ・参考書：「相談援助の理論と方法Ⅱ 第2版（新・社会福祉士養成講座 第8巻）」社会福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版
- ・他随時授業中に紹介する。

### 留意事項

事前に資料の配付、e-learning システム上へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。また、講義における質疑応答などには主体的に参加し、学ぶ意欲を持って授業に参加することを望む。

|             |                                                          |
|-------------|----------------------------------------------------------|
| 科目名         | 社会福祉援助技術演習                                               |
| ユニット名       | 社会福祉援助技術演習                                               |
| 授業形態        | 演習                                                       |
| 開講時期・単位・時間数 | 3 学年前期・選択・48 時間<br>3 学年前期（夏季集中）・35 時間<br>3 学年後期・選択・37 時間 |
| 科目・ユニット責任者  | 坪井真                                                      |
| 授業担当者       | 坪井真、堀千鶴子（城西国際大学）                                         |
| 主な授業場所      | 口腔保健学科 第3講義室                                             |

### 学習目標

- ・演習をととして社会福祉援助技術の歴史や特徴を理解し、現代における社会福祉の果たす役割やと実践上の課題を考える。
- ・演習をととして社会福祉援助技術の内容・方法とプロセスを理解し、相手の心情と行動を理解して人と接する能力を身につける。

### 到達目標

- ・社会福祉援助の特徴を説明することができる。
- ・社会福祉援助の内容・方法とプロセスを説明することができる。
- ・社会福祉援助に関する実践上の課題について、自らの意見を述べるすることができる。
- ・社会福祉援助と口腔保健における実践の関連性に興味関心をもち、自ら調べ、考える態度をもつ。
- ・社会福祉援助技術現場実習に向けた自らの興味関心と学習課題を説明することができる。

### 授業計画

#### 3 学年前期・選択・48 時間

| 回     | 授業題目          | 授業内容                                          |
|-------|---------------|-----------------------------------------------|
| 1-3   | 社会福祉援助技術演習の理解 | ①社会福祉実践と社会福祉援助技術技術<br>②社会援助技術演習とは何か～演習の目的・意義～ |
| 4-6   | 社会福祉援助技術基礎 1  | 「自己理解」について～「自分」と「他者」～                         |
| 7-9   | 社会福祉援助技術基礎 2  | 「自己理解」について～自分との出会い～                           |
| 10-12 | 社会福祉援助技術基礎 3  | 「援助」と「指導」～援助・支援とは何かを考える～                      |
| 13-15 | 社会福祉援助技術基礎 4  | コミュニケーションの理解～「言語的コミュニケーション                    |

|       |                |                      |
|-------|----------------|----------------------|
|       |                | ョン」と「非言語的コミュニケーション」  |
| 16-18 | 社会福祉援助技術基礎 5   | コミュニケーション技法①         |
| 19-21 | 社会福祉援助技術基礎 6   | コミュニケーション技法②         |
| 22-24 | 社会福祉援助技術基礎 7   | 社会福祉実践における「価値」と「倫理」① |
| 25-27 | 社会福祉援助技術基礎 8   | 社会福祉実践における「価値」と「倫理」② |
| 28-30 | 社会福祉現場実習理解 1   | 社会福祉現場実習とは何か         |
| 31-33 | 社会福祉現場実習理解 2   | 実習先の種類と実習の可能性        |
| 34-36 | 社会福祉現場実習理解 3   | 実習分野別グループ討議          |
| 37-39 | 社会福祉援助実践事例演習 1 | 実践事例の理解と研究方法         |
| 40-42 | 社会福祉援助実践事例演習 2 | 事例研究の理解と実際           |
| 43-45 | 社会福祉援助実践事例演習 3 | 事例分析の実際①             |
| 46-48 | 社会福祉援助実践事例演習 4 | 事例分析の実際②             |

### 3 学年前期（夏季集中）・選択・35 時間

| 回      | 授業題目               | 授業内容                          |
|--------|--------------------|-------------------------------|
| 49-51  | 個別援助技術における面接技法     | インテーク技法                       |
| 52-54  | 個別援助技術におけるアセスメント方法 | アセスメントの理解と実際及びニーズ把握と支援目標の把握   |
| 55-57  | 個別援助技術における支援計画作成法  | 支援計画作成の理論と実際及び支援体制形成とその展開     |
| 58-60  | 個別援助技術における記録・評価技法  | 記録のまとめ方・記録方法の理論と実際及び支援展開の評価方法 |
| 61-63  | 集団援助技術の展開 1        | グループとは何か、力動・相互作用を理解する         |
| 64-66  | 集団援助技術の展開 2        | グループの作り方と展開方法                 |
| 67-69  | 集団援助技術の展開 3        | プログラム活動の実際                    |
| 70-72  | 集団援助技術の展開 4        | 会合の持ち方・進め方                    |
| 73-75  | 集団援助技術の展開 5        | グループの成長・発展への支援のあり方            |
| 76-78  | ケアマネジメント 1         | ケアマネジメントの理論と実際                |
| 79-81  | 事例検討 1             | 家族を支援する事例の検討                  |
| 82, 83 | 事例検討 2             | 女性を支援する事例の検討                  |

### 3 学年後期・選択・37 時間

| 回       | 授業題目          | 授業内容                      |
|---------|---------------|---------------------------|
| 84-86   | 地域援助技術の展開 6   | 地域援助技術の理解と実際～「地域」とは何か～    |
| 87-89   | 地域援助技術の展開 7   | 地域ニーズの把握と地域診断方法①          |
| 90-92   | 地域援助技術の展開 8   | 地域ニーズの把握と地域診断方法②          |
| 93-95   | 地域援助技術の展開 9   | 地域支援計画の策定～社会資源の把握と支援計画～   |
| 96-98   | 地域援助技術の展開 10  | ソーシャルアクションの理論と実際          |
| 99-101  | 医療・福祉・保健の連携 1 | 医療・福祉・保健の連携による支援の実際、事例分析  |
| 102-104 | 医療・福祉・保健の連携 2 | 医療・福祉・保健の連携による支援の事例分析     |
| 105-107 | 事例検討とロールプレイ 1 | セルフケアの支援と個別援助技術の活用        |
| 108-110 | 事例検討とロールプレイ 2 | コミュニティケアと集団援助技術・地域援助技術    |
| 111-113 | 事例検討とロールプレイ 3 | ソーシャルケアサービスと相談援助実践        |
| 114-116 | 事例検討とロールプレイ 4 | 人びとの健康と生活を支えるフォーマル・サービス   |
| 117-119 | 事例検討とロールプレイ 5 | 人びとの健康と生活を支えるインフォーマル・サービス |
| 120     | 演習総括（まとめ）     | 相談援助実践の展望と動向              |

#### 評価方法

- ・授業内レポートで重要な単元の学習成果を評価する。
- ・グループディスカッション（事例検討など）やロールプレイの参加状況や取り組む姿勢、発表内容などを評価に加味する。
- ・定期試験を実施し、総合的に評価する。

#### 参考図書等

- ・「ソーシャルワーク演習ワークブック」 相澤譲治・植戸貴子編 みらい
- ・他随時授業中に紹介する。

#### 留意事項

事前に資料の配付、e-learning システム上へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。また、グループディスカッションやロールプレイなどには主体的に参加し、学ぶ意欲を持って授業に参加することを望む。

|             |                                                                   |
|-------------|-------------------------------------------------------------------|
| 科目名         | 社会福祉援助技術現場実習                                                      |
| ユニット名       | 社会福祉援助技術現場実習                                                      |
| 授業の形態       | 実習                                                                |
| 開講時期・単位・時間数 | 3 学年後期（春季集中）・選択・12 日間（90 時間）以上<br>単位認定（4 単位）は4 学年の実習（12 日間）終了時に行う |
| 科目・ユニット責任者  | 坪井真                                                               |
| 授業担当者       | 実習先の実習指導者                                                         |
| 主な授業場所      | 社会福祉施設・機関                                                         |

### 学習目標

現場での実習体験を通して、社会福祉専門職としての仕事をする上で必要な専門知識、専門援助技術および関連知識について理解を深める。

### 到達目標

- ・福祉ニーズを抱えている個人、家族、小集団、地域などに対する総合的援助過程の中で、現場の実習指導者の指導を得ながら、社会福祉援助技術を活用できる。
- ・スーパービジョンを通して、自己の社会福祉援助者としての実践力を高め、補正することができる。
- ・社会福祉援助技術を活用するにあたっての課題、その解決方法を学び、将来の実践におけるその活用の展望について整理できる。
- ・社会福祉援助技術の実践に必要な知識、技術を高め、援助者として適切な態度と行動がとれる。
- ・各人の実習計画に基づき実習を遂行できる。

### 授業計画 3 学年後期（春季集中）・選択・12 日間（90 時間）以上

実習日程等については、実習受け入れ先と相談の上、決定する。

### 評価方法

実習計画、実習記録ノート、実習報告書および実習指導者評価表により、総括的評価を行う。

|             |                                                                              |
|-------------|------------------------------------------------------------------------------|
| 科目名         | 社会福祉援助技術現場実習指導（スーパービジョン）                                                     |
| ユニット名       | 社会福祉援助技術現場実習指導（スーパービジョン）                                                     |
| 授業の形態       | 実習                                                                           |
| 開講時期・単位・時間数 | 3 学年前期・選択・23 時間<br>3 学年後期（春季集中）・選択・14 時間<br>単位認定（2 単位）は 4 学年前後期（53 時間）終了時に行う |
| 科目・ユニット責任者  | 坪井真                                                                          |
| 授業担当者       | 坪井真、社会福祉施設・機関の実習指導者                                                          |
| 主な授業場所      | 口腔保健学科 第3講義室                                                                 |

### 学習目標

社会福祉施設・機関での現場実習を行う意義を理解し、実習の前から終了後にわたって指導を受け、現場実習を実効性のあるものとする。

### 到達目標

- ・各社会福祉施設における実習の流れを説明できる。
- ・各施設における実習目標を立てられる。
- ・現場実習における心構え、留意点を説明できる。
- ・実習現場における行動の取り方を身につける。
- ・実習ノートを作成できる。
- ・スーパービジョン・リンケージを説明できる。
- ・実習先の特徴、利用者の特徴について説明できる。
- ・実習内容について発表ができる。
- ・実習終了後の振り返りができ、改善点を見いだせる。

### 授業計画

#### 3 学年後期・選択・23 時間

| 回    | 授業題目               | 授業内容                                       |
|------|--------------------|--------------------------------------------|
| 1, 2 | 社会福祉現場実習のオリエンテーション | 社会福祉実習施設の説明、社会福祉実習の意義・目的、実習先の決定、個人票作成要領の説明 |
| 3-5  | 実習による体験学習の理解       | 4 年生による社会福祉援助技術現場実習の学習発表会参加                |
| 6-8  | 社会福祉施設・機関の把握 1     | 社会福祉施設の現状と実習内容①                            |

|       |                |                          |
|-------|----------------|--------------------------|
| 9-11  | 社会福祉施設・機関の把握 2 | 社会福祉施設の現状と実習内容②          |
| 12-14 | 社会福祉施設・機関の把握 3 | 社会福祉・医療機関の現状と実習内容        |
| 15-17 | 実習前指導 1        | 実習生としての態度や取り組み、事前学習の内容など |
| 18-20 | 実習前指導 2        | 実習計画書および個人票の作成指導①        |
| 21-23 | 実習前指導 3        | 実習計画書および個人票の作成指導②        |

### 3 学年後期（春季集中）・選択・14 時間

| 回     | 授業題目    | 授業内容                              |
|-------|---------|-----------------------------------|
| 24-30 | 実習前指導 4 | 個別面接による実習前指導                      |
| 31-37 | 実習後指導   | 実習の振り返り（プレゼンテーション）<br>実習報告書の作成指導等 |

### 評価方法

発表内容、出席状況および授業態度による総合的評価を行う。

### 参考図書等

随時、社会福祉援助技術現場実習の関連資料を配付する。

## 第4学年 履修ユニット

|             |                                                     |
|-------------|-----------------------------------------------------|
| 科目名         | 社会保障論Ⅱ                                              |
| ユニット名       | 社会保障論Ⅱ                                              |
| 授業形態        | 講義                                                  |
| 開講時期・単位・時間数 | 4 学年前期・選択・15 時間<br>3 年次の選択履修関連科目と合わせて、単位認定（3 単位）を行う |
| 科目・ユニット責任者  | 坪井真                                                 |
| 授業担当者       | 弓削俊雄                                                |
| 主な授業場所      | 口腔保健学科 第2 講義室                                       |

### 学習目標

社会保障の全体、各論を理解し、具体的な質問に答えることができる。

### 到達目標

- ・ 年金制度を説明できる。
- ・ 医療保険制度を説明できる。
- ・ 介護保険制度を説明できる。
- ・ 雇用保険、労働災害補償保険制度を説明できる。
- ・ 民間保険制度の内容を説明できる。
- ・ 諸外国の社会保障を説明できる。

### 授業計画 4 学年前期・選択・15 時間

| 回      | 授業題目               | 授業内容                                 |
|--------|--------------------|--------------------------------------|
| 1-3    | 社会保障制度の歴史と社会保障制度とは | 社会保障制度の歴史                            |
| 4, 5   | 医療保険制度 1           | 「皆医療保険」制度と各医療保険の制度比較                 |
| 6, 7   | 医療保険制度 2           | 具体的な「給付事例」をもとづく医療制度の比較と考察            |
| 8, 9   | 年金制度 1             | 「皆年金制度」成立背景と現在までの流れ、年金制度の統一問題について    |
| 10, 11 | 年金制度 2             | 具体的な給付事例と簡単な「年金計算」、本当に「年金制度」は崩壊するのか等 |
| 12, 13 | 労働災害制度、雇用保険制度      | 我が国の雇用保険制度の復習                        |

|        |      |                                       |
|--------|------|---------------------------------------|
| 14, 15 | 介護保険 | 平成12年度から新しく制度化された「介護保険制度」の現状－具体的事例から－ |
|--------|------|---------------------------------------|

#### 評価方法

期末の客観試験、論述試験および出席状況で総括的に評価する。

#### 参考図書等

授業時に随時提示する。

|             |                                                          |
|-------------|----------------------------------------------------------|
| 科目名         | 保健行動科学                                                   |
| ユニット名       | ヘルスカウンセリング特論                                             |
| 授業形態        | 講義                                                       |
| 開講時期・単位・時間数 | 4 学年前期・選択 1 単位・15 時間                                     |
| 科目・ユニット責任者  | 杉本久美子                                                    |
| 授業担当者       | 吉田直美（千葉県立保健医療大学）・渡邊麻理（非常勤講師）<br>杉本久美子、遠藤圭子、坪井真、小原由紀、近藤圭子 |
| 主な授業場所      | 口腔保健学科 第3講義室                                             |

### 学習目標

歯科保健医療職としてのコミュニケーションスキルとヘルスカウンセリングスキルを身につける。

### 到達目標

- ・クライアント(役)に対して、カウンセラーの基本的態度をとることができる。
- ・健康維持増進のための行動変容について説明することができる。
- ・クライアントの話を受容的に傾聴できる。
- ・問題解決のため意欲的に判断し行動できる。

### 授業計画 4 学年前期・1 単位・15 時間

| 回      | 授業題目   | 授業内容                      |
|--------|--------|---------------------------|
| 1      | セッション1 | オリエンテーション                 |
| 2, 3   | セッション2 | ヘルスカウンセリング論復習・演習Ⅰ         |
| 4-7    | セッション3 | カウンセリング演習Ⅱ                |
| 8-10   | セッション4 | キャリア・ガイダンス/カウンセリング        |
| 11-13  | セッション5 | 歯科医療現場でのコミュニケーション、カウンセリング |
| 14, 15 | まとめ    | まとめ                       |

### 評価方法

出席・参加状況、ならびに、提出物などにより評価する。

### 留意事項

キャリアに関するテーマを取り上げながら演習を行うとともに、歯科保健医療現場に即した状況を設定して行う。

|             |                                           |
|-------------|-------------------------------------------|
| 科目名         | 介護概論                                      |
| ユニット名       | 介護概論                                      |
| 授業形態        | 講義                                        |
| 開講時期・単位・時間数 | 4 学年前期・必修・15 時間 } 2 単位<br>4 学年後期・必修・15 時間 |
| 科目・ユニット責任者  | 小野寺光江                                     |
| 授業担当者       | 小野寺光江、白田千代子、助友裕子（国立がんセンター）、<br>新井武志（目白大学） |
| 主な授業場所      | 口腔保健学科 第2 講義室                             |

### 学習目標

社会を構成する基本的単位の家族について学び、その機能の変遷より、現代の日本社会が抱える介護の問題を理解するとともに、基本的な介護技法を習得する。

### 到達目標

- ・ 家族とは何かを説明できる。
- ・ 家族の機能およびその変遷を説明できる。
- ・ 介護とは何かを説明できる。
- ・ 家族機能の視点から介護の必要性を説明できる。
- ・ 介護活動の展開法を説明できる。
- ・ 介護予防の必要性を説明できる。
- ・ 介護予防活動の概要を説明できる。
- ・ 老年症候群について説明できる。
- ・ 介護に必要な基本的介護技術を説明できる。
- ・ 要支援者・要介護者の心身の特徴を説明できる。
- ・ 福祉用具について説明できる。
- ・ 介護にかかわる保健・医療・福祉等の関連職種との連携を説明できる。

### 授業計画

#### 4 学年前期・必修・15 時間

| 回 | 授業題目      | 授業内容            |
|---|-----------|-----------------|
| 1 | 家族とは何か    | 家族の概念、家族の機能     |
| 2 | 現代家族の動向 I | 家族形成の原理、現代社会と家族 |

|       |             |                             |
|-------|-------------|-----------------------------|
| 3     | 現代家族の動向Ⅱ    | 現代社会の家族構造および機能の変化           |
| 4     | 介護とは何か      | 介護の概念他                      |
| 5, 6  | 介護の対象       | 介護の対象は誰か、要支援者・要介護者および介護者の特徴 |
| 7, 8  | 介護技術Ⅰ       | 介護活動の展開                     |
| 9     | 介護と関連機関との連携 | 介護に関わる専門職の役割、専門職による連携       |
| 10-13 | 介護技術Ⅱ       | 日常生活援助のための基本的な介護・福祉用具他      |
| 14    | 介護を取り巻く諸問題  | 高齢者を取り巻く諸問題                 |
| 15    | まとめ         | まとめ                         |

#### 4 学年後期・必修・15 時間

| 回      | 授業題目     | 授業内容              |
|--------|----------|-------------------|
| 16, 17 | 介護予防とは何か | 介護予防の必要性ほか        |
| 18, 19 | 介護予防の対象  | 介護予防の対象は誰か        |
| 20, 21 | 介護予防活動Ⅰ  | 介護予防活動の展開         |
| 22, 23 | 介護予防活動Ⅱ  | 介護予防活動時のリスク管理     |
| 24, 25 | 介護予防活動Ⅲ  | 転倒予防プログラムの概要      |
| 26, 27 | 介護予防活動Ⅳ  | 運動器の機能向上プログラムの概要  |
| 28, 29 | 介護予防活動Ⅴ  | 自己管理型筋力増強プログラムの概要 |
| 30     | まとめ      | まとめ               |

#### 評価方法

- ・期末の客観的試験、記述試験で総括的な評価を行う。
- ・出席・授業態度を総括的に加味する。

#### 参考図書等

- ・「新しい家族社会学」森岡清美、望月嵩著 培風館
- ・新版 社会福祉士養成講座 14「介護概論」
- ・新・社会福祉士養成講座 13「高齢者に対する支援と介護保険制度」

#### 留意事項

事前に資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

|             |                                                                |
|-------------|----------------------------------------------------------------|
| 科目名         | 歯科口腔介護                                                         |
| ユニット名       | 歯科口腔介護                                                         |
| 授業形態        | 講義                                                             |
| 開講時期・単位・時間数 | 4 学年前期・必修 1 単位・15 時間<br>4 学年前期・選択 1 単位・15 時間                   |
| 科目・ユニット責任者  | 下山和弘                                                           |
| 授業担当者       | 下山和弘、渡邊裕（東京歯科大学）、菅武雄（鶴見大学）、<br>本村一朗・中根綾子（高齢者歯科学分野）、武井典子（非常勤講師） |
| 主な授業場所      | 口腔保健学科 第2講義室                                                   |

### 学習目標

高齢者・要介護者と関わるために、口腔保健の立場から、療養の管理、機能訓練ならびに日常生活の支援を行うための基本的な知識、技術を理解する。

### 到達目標

- ・高齢者の心身の特徴を説明できる。
- ・高齢者の心身の特徴を捉えた対応方法を説明できる。
- ・要介護者の口腔保健の意義を説明できる。
- ・病院歯科における口腔保健を説明できる。
- ・居宅要介護者の口腔の問題と対応方法を説明できる。
- ・施設利用者の口腔の問題と対応方法を説明できる。
- ・脳卒中、痴呆等の疾患を有する要介護者への対応法を説明できる。

### 授業計画

#### 4 学年前期・必修 1 単位・15 時間

| 回 | 授業題目             | 授業内容                |
|---|------------------|---------------------|
| 1 | 歯科口腔介護の意義        | 歯科口腔介護の定義・意義・目的     |
| 2 | 高齢者における口腔の健康     | 口腔の健康の重要性と現状        |
| 3 | 病院歯科・病棟における口腔保健1 | 病院歯科・病棟における口腔保健の現状  |
| 4 | 病院歯科・病棟における口腔保健2 | 病院歯科・病棟における口腔保健の問題点 |
| 5 | 病院歯科・病棟における口腔保健3 | 評価と対応               |
| 6 | 病院歯科・病棟における口腔保健4 | 課題                  |

|    |                        |               |
|----|------------------------|---------------|
| 7  | 居宅の要介護者・施設利用者における口腔保健1 | 歯科訪問診療の位置づけ   |
| 8  | 居宅の要介護者・施設利用者における口腔保健2 | 歯科訪問診療の実際と問題点 |
| 9  | 居宅の要介護者・施設利用者における口腔保健3 | 介助による口腔ケア     |
| 10 | 居宅の要介護者・施設利用者における口腔保健4 | 介入レベル別口腔ケア    |
| 11 | 高齢者の日常生活1              | 高齢者疑似体験       |
| 12 | 高齢者の日常生活2              | 高齢者疑似体験       |
| 13 | 高齢者の日常生活3              | 高齢者疑似体験       |
| 14 | 高齢者の日常生活4              | 高齢者疑似体験       |
| 15 | 口腔の健康を考える              | 現状と展望         |

#### 4 学年前期・選択1単位・15時間

| 回  | 授業題目              | 授業内容                 |
|----|-------------------|----------------------|
| 1  | 高齢者の心理的特徴を捉えた対応   | 心理的問題と臨床における対応       |
| 2  | 高齢者の身体的特徴を捉えた対応 1 | 身体的問題と臨床における対応       |
| 3  | 高齢者の身体的特徴を捉えた対応 2 | 身体的問題と臨床における対応       |
| 4  | 要介護者の口腔清掃への対応 1   | 口腔清掃の基本的な方法の実際       |
| 5  | 要介護者の口腔清掃への対応 2   | 口腔清掃の基本的な方法の実際       |
| 6  | 要介護者の口腔清掃への対応 3   | 口腔清掃の基本的な方法の実際       |
| 7  | 介護保険における口腔保健 1    | 特定疾患と口腔の問題           |
| 8  | 介護保険における口腔保健2     | 特定疾患と口腔の問題           |
| 9  | 介護保険における口腔保健3     | 特定疾患と口腔の問題           |
| 10 | 顎口腔系の機能と形態の観察1    | 機能と形態の理解（嚥下内視鏡検査の実際） |
| 11 | 顎口腔系の機能と形態の観察2    | 機能と形態の理解（嚥下内視鏡検査の実際） |
| 12 | 顎口腔系の機能と形態の観察 3   | 機能と形態の理解（嚥下内視鏡検査の実際） |
| 13 | 「口腔ケア」を考える 1      | 要介護者の口腔ケアの発展を考える     |
| 14 | 「口腔ケア」を考える 2      | 要介護者の口腔ケアの発展を考える     |
| 15 | 要介護者に対する対応        | 要介護者の問題のまとめ          |

## 評価方法

随時の小テストで形成的評価を行う。期末の客観試験、論述試験、提出レポートで総括的評価を行う。講義、グループ討論、発表の態度等を総括的評価に加味する。

## 参考図書等

- ・「日本老年歯科医学会監修口腔ケアガイドブック」 日本老年歯科医学会監修 口腔保健協会
- ・「老年歯科医学用語辞典」 日本老年歯科医学会編 医歯薬出版
- ・「はじめて学ぶ歯科口腔介護」 新井俊二、小椋秀亮監修 医歯薬出版
- ・「高齢者歯科ガイドブック」 植松 宏、稲葉 繁、渡辺 誠編集、医歯薬出版
- ・「実践訪問口腔ケア」 上巻、下巻 高江洲義矩監修 クインテッセンス出版
- ・「歯科衛生士のための高齢者歯科学」 渡邊誠、岩久正明監修、永末出版
- ・「脳卒中患者の口腔ケア」 植田耕一郎 医歯薬出版
- ・「WHO：ICF（国際生活機能分類）」 中央法規
- ・「口腔ケアハンドブック」 菅武雄 日本医療企画
- ・「基礎から学ぶ口腔ケア」 菊谷 武監修 学研

## 留意事項

事前の資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

|             |                            |
|-------------|----------------------------|
| 科目名         | 歯科口腔介護                     |
| ユニット名       | 顎口腔機能リハビリテーション             |
| 授業形態        | 講義                         |
| 開講時期・単位・時間数 | 4 学年後期・必修 1 単位・15 時間       |
| 科目・ユニット責任者  | 下山和弘                       |
| 授業担当者       | 下山和弘、戸原玄（日本大学）、大平章子（非常勤講師） |
| 主な授業場所      | 口腔保健学科 第2講義室               |

### 学習目標

顎口腔機能および顎口腔機能障害、機能障害に対する対応方法を理解する。

### 到達目標

- ・摂食・嚥下障害および言語障害の病因・病態・障害を説明できる。
- ・摂食・嚥下障害および言語障害の治療・管理の必要性和流れを説明できる。
- ・摂食・嚥下障害を有する患者の口腔清掃及び保健指導を説明できる。
- ・摂食・嚥下障害および言語障害に対する訓練法を説明できる。
- ・摂食・嚥下障害への食事の対応を説明できる。
- ・摂食・嚥下障害および言語障害に対するチーム医療を説明できる。

### 授業計画 4 学年後期・必修 1 単位・15 時間

| 回  | 授業題目      | 授業内容                  |
|----|-----------|-----------------------|
| 1  | 顎口腔機能     | 顎口腔機能の種類と重要性          |
| 2  | 言語障害 1    | 言語障害の特徴               |
| 3  | 言語障害 2    | 言語障害の問題点              |
| 4  | 摂食・嚥下障害 1 | 摂食・嚥下障害の特徴と問題点        |
| 5  | 言語障害 3    | 言語障害の評価と診断            |
| 6  | 言語障害 4    | 言語障害に対する治療・指導         |
| 7  | 摂食・嚥下障害 2 | 摂食・嚥下障害の診察（スクリーニング含む） |
| 8  | 摂食・嚥下障害 3 | 検査・評価法（VF）            |
| 9  | 摂食・嚥下障害 4 | 検査・評価法（VE）            |
| 10 | 摂食・嚥下障害 5 | 間接訓練                  |

|    |           |                        |
|----|-----------|------------------------|
| 11 | 摂食・嚥下障害 6 | 直接訓練・段階的摂食訓練           |
| 12 | 摂食・嚥下障害 7 | 摂食・嚥下障害への対応（1 脳血管障害など） |
| 13 | 摂食・嚥下障害 8 | 摂食・嚥下障害への対応（2 口腔咽頭腫瘍）  |
| 14 | 摂食・嚥下障害 9 | 摂食・嚥下障害への対応（3 訪問歯科診療）  |
| 15 | 顎口腔機能と障害  | 顎口腔機能とその障害の考え方         |

## 評価方法

随時の小テストで形成的評価を行う。期末の客観試験、論述試験、提出レポートで総括的評価を行う。講義、グループ討論、発表の態度等を総括的評価に加味する。

## 参考図書等

- ・「わかる摂食・嚥下リハビリテーションⅠ 評価法と対処法」 医歯薬出版
- ・「摂食・嚥下障害の VF 実践ガイドー歩進んだ診断・評価のポイントー」 南江堂
- ・「訪問歯科診療ではじめる摂食・嚥下障害のアプローチ」 医歯薬出版
- ・「歯学生のための摂食・嚥下リハビリテーション学」 医歯薬出版
- ・「成人のコミュニケーション障害 入門講座コミュニケーション障害とその回復 2」 大修館書店
- ・「言語障害第 2 版 リハビリテーション医学全書 11」 医歯薬出版

## 留意事項

事前の資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

|             |                                                                  |
|-------------|------------------------------------------------------------------|
| 科目名         | 口腔保健衛生臨床実習                                                       |
| ユニット名       | 発達育成系口腔保健衛生臨床実習                                                  |
| 授業形態        | 実習                                                               |
| 開講時期・単位・時間数 | 3年後期・必修・140時間<br>4年前期・必修・40時間<br>単位認定（4単位）は4学年前期（40時間）終了時に行う     |
| 科目・ユニット責任者  | 近藤圭子                                                             |
| 授業担当者       | 寺岡加代、石川雅章、下山和弘、吉増秀實、遠藤圭子、近藤圭子、<br>大学院医歯学総合研究科臨床系教員、歯学部附属病院臨床系教職員 |
| 主な授業場所      | 歯学部附属病院内                                                         |

### 学習目標

歯科診療施設において、発達期にある乳幼児から青少年およびその保護者に対し、チーム医療の一員として、歯科予防処置・歯科保健指導・歯科診療補助を実践するために必要な態度・知識・技能を修得する。

### 到達目標

- ・ 患児の身体的・精神的・社会的苦痛に配慮し、問題点を抽出・整理できる。
- ・ 患児および保護者の不安・不満に適切に対応できる。
- ・ 歯科診療時に示す患児の行動とその変容に適切に対応できる。
- ・ 歯科ユニット各部の名称と機能を説明できる。
- ・ 発達期の歯科診療に必要な器材を説明できる。
- ・ 診療室への患児および保護者の誘導を適切にできる。
- ・ 患児および保護者に挨拶して自己紹介できる。
- ・ 患児および保護者との信頼関係を築くことができる。
- ・ 個人的、社会的背景等が異なる患児および保護者に、わけへだてなく対応できる。
- ・ 患児および保護者の価値観が多様であることを認識し、柔軟に対応できる。
- ・ 必要な情報を整理し、わかりやすい口頭説明と文書を準備できる。
- ・ 説明を行うために適切な時期・場所・機会に配慮できる。
- ・ 患児および保護者からの質問に適切に応え、その様々な反応に柔軟に対応できる。
- ・ 医療事故や潜在的医療事故（ニアミス）に関する情報を共有し、再発防止に役立てることができる。
- ・ インフォームドコンセントを行うことができる。
- ・ 乳幼児から青少年に対し、歯科予防処置を実施できる。
- ・ 乳幼児から青少年およびその保護者に対し、歯科保健指導を実施できる。

- ・乳幼児から青少年の歯科診療に際し、診療補助を実施できる。

#### 授業計画 4 学年前期・必修・40 時間

| 回     | 授業題目      | 授業内容                       |
|-------|-----------|----------------------------|
| 1-5   | 臨床実習ガイダンス | 臨床実習ガイダンス、実習等に関するオリエンテーション |
| 6-30  | 矯正歯科外来実習  | 矯正歯科外来における歯科診療の補助、歯科保健指導   |
| 31-40 | 小児歯科外来実習  | 小児歯科外来における歯科診療の補助、歯科保健指導   |

#### 評価方法

- 実習記録等により総括的評価を行う。
- 実習態度を総括的評価に加味する。

#### 参考図書等

- ・新歯科衛生士教本「歯科臨床概論」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「歯科保健指導」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「歯科矯正学」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「歯科放射線」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「歯科診療補助 歯科器械の知識と取り扱い」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「歯科診療補助 歯科材料の知識と取り扱い」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版

#### 留意事項

- 附属病院等では服装、態度等に留意すること。不適切な場合は実習停止とする場合がある。

|             |                                                                                                                             |
|-------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 科目名         | 口腔保健衛生臨床実習                                                                                                                  |
| ユニット名       | 成人口腔保健衛生臨床実習Ⅱ                                                                                                               |
| 授業形態        | 実習                                                                                                                          |
| 開講時期・単位・時間数 | 4 学年通年・必修 3 単位・135 時間                                                                                                       |
| 科目・ユニット責任者  | 近藤圭子                                                                                                                        |
| 授業担当者       | 寺岡加代、石川雅章、下山和弘、吉増秀實、遠藤圭子、近藤圭子、坂本裕次郎、小原由紀、佐々木好幸（口腔保健教育研究センター）、山崎美幸・岡田昌子・田澤千鶴・河野章江・藤田直子（非常勤講師）、大学院医歯学総合研究科臨床系教員、歯学部附属病院臨床系教職員 |
| 主な授業場所      | 歯学部附属病院内、歯学部 演習室                                                                                                            |

### 学習目標

主に成人に対し、対象者本位の歯科予防処置・歯科保健指導・歯科診療補助を実践するために必要な態度・知識・技能を修得する。

### 到達目標

- ・対象者の身体的・精神的・社会的苦痛に配慮し、問題点を抽出・整理できる。
- ・対象者の不安・不満や表情・行動の変化に適切に対応できる。
- ・歯科ユニット各部の名称と機能を説明できる。
- ・診療に必要な器材を説明できる。
- ・診療室への患者の誘導を適切にできる。
- ・対象者に挨拶して自己紹介できる。
- ・対象者との信頼関係を築くことができる。
- ・個人的、社会的背景等が異なる対象者に、わけへだてなく対応できる。
- ・対象者の価値観が多様であることを認識し、柔軟に対応できる。
- ・必要な情報を整理し、わかりやすい口頭説明と文書を準備できる。
- ・説明を行うために適切な時期・場所・機会に配慮できる。
- ・対象者からの質問に適切に応え、その様々な反応に柔軟に対応できる。
- ・医療事故や潜在的医療事故(ニアミス)に関する情報を共有し、再発防止に役立てることができる。
- ・インフォームドコンセントを行うことができる。
- ・主に成人に対し、歯科予防処置を実施できる。
- ・主に成人に対し、歯科保健指導を実施できる。
- ・主に成人に対し、歯科診療補助を実施できる。

#### 授業計画 4 学年通年・必修 3 単位・135 時間

| 回       | 授業題目                 | 授業内容                                           |
|---------|----------------------|------------------------------------------------|
| 1-5     | 臨床実習ガイダンス            | 臨床実習ガイダンス、外来におけるオリエンテーション                      |
| 6-61    | 口腔ケア実習               | 患者さんを担当した歯科予防処置、歯科保健指導                         |
| 62-66   | 合同クリニカル検討*           | 歯学科と合同の症例検討授業                                  |
| 67-93   | 歯周病外来実習              | 歯周病外来における歯科診療の補助、歯科保健指導                        |
| 94-121  | インプラント外来・<br>顎義歯外来実習 | インプラント外来における歯科診療の補助<br>顎義歯外来における歯科診療の補助、歯科保健指導 |
| 122-135 | 歯科麻酔外来実習             | 歯科麻酔外来における歯科診療補助                               |

\*6月4日から7月2日までの5週にかけて、金曜日に行う。

#### 評価方法

- ・実習記録、患者さんへのリーフレット等により総括的評価を行う。
- ・実習態度を総括的評価に加味する。

#### 参考図書等

- ・最新歯科衛生士教本「口腔保健管理」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「歯周疾患」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「歯科保健指導」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「歯科補綴学」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「口腔外科学・歯科麻酔学」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「歯科診療補助 歯科器械の知識と取り扱い」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「歯科診療補助 歯科材料の知識と取り扱い」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版

#### 留意事項

附属病院等では服装、態度等に留意すること。不適切な場合は実習停止とする場合がある。

|             |                                                 |
|-------------|-------------------------------------------------|
| 科目名         | 口腔保健衛生臨床実習                                      |
| ユニット名       | 高齢者口腔保健衛生臨床実習                                   |
| 授業の形態       | 実習                                              |
| 開講時期・単位・時間数 | 4 学年前期・必修 1 単位・45 時間                            |
| 科目・ユニット責任者  | 近藤圭子                                            |
| 授業担当者       | 大渡凡人（高齢者歯科学分野）、大学院医歯学研究科臨床系教員、<br>歯学部附属病院臨床系教職員 |
| 主な授業場所      | 歯学部附属病院スペシャルケア外来診療室 1                           |

### 学習目標

歯科診療施設において主に高齢者に対し、対象者本位の口腔保健活動を実践するために必要な態度・知識・技能を修得する。

### 到達目標

- ・対象者の身体的・精神的・社会的苦痛に配慮し、問題点を抽出・整理できる。
- ・対象者の不安・不満や表情・行動の変化に適切に対応できる。
- ・歯科ユニット各部の名称や機能を説明できる。
- ・診療に必要な器材を説明できる。
- ・対象者に挨拶して自己紹介できる。
- ・対象者との信頼関係を築くことができる。
- ・個人的、社会的背景が異なる対象者に、わけへだてなく対応できる。
- ・対象者の価値観が多様であることを認識し、柔軟に対応できる。
- ・必要な情報を整理し、わかりやすい口頭説明と文書を準備できる。
- ・説明を行うために適切な時期・場所・機会に配慮できる。
- ・対象者からの質問に適切に答え、その様々な反応に柔軟に対応できる。
- ・医療事故や潜在的医療事故（ニアミス）に関する情報を共有し、再発防止に役立てることができる。
- ・インフォームドコンセントを行うことができる。
- ・主に高齢者に対し、歯科予防処置を実施できる。
- ・主に高齢者に対し、歯科保健指導を実施できる。
- ・主に高齢者に対し、歯科診療補助を実施できる。

授業計画 4 学年前期・必修 1 単位・45 時間

| 回     | 授業題目                  | 授業内容                              |
|-------|-----------------------|-----------------------------------|
| 1     | 臨床実習ガイダンス             | 臨床実習ガイダンス                         |
| 2-25  | 高齢者歯科外来(スペシャルケア外来) 実習 | スペシャルケア外来における歯科診療補助、歯科予防処置、歯科保健指導 |
| 26-45 | 歯科病棟実習                | 歯科病棟における見学、診療補助                   |

## 評価方法

実習記録、患者へのリーフレット等により総括的評価を行う。実習態度を総括的評価に加味する。

## 参考図書等

- ・新歯科衛生士教本「歯科臨床概論」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「歯科保健指導」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「保存修復学・歯内療法学」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「歯周療法学」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「歯科補綴学」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「口腔外科学・歯科麻酔学」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「歯科診療補助 歯科器機の知識と取り扱い」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「高齢者歯科」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
- ・疾患別内科エマージェンシー対応 高齢者臨床ナビゲーション 大渡凡人著 医歯薬出版
- ・歯科衛生士のための高齢者歯科学 渡邊誠、岩久正明監修 永末出版
- ・脳卒中患者の口腔ケア 植田耕一郎 医歯薬出版
- ・高齢者歯科ガイドブック 植松 宏、稲葉 繁、渡辺 誠編集 医歯薬出版
- ・はじめて学ぶ歯科口腔介護 新井俊二、小椋秀亮監修 医歯薬出版
- ・日本老年歯科医学会監修口腔ケアガイドブック 日本老年歯科医学会監修 口腔保健協会

## 留意事項

附属病院等では服装、態度等に留意すること。不適切な場合は実習停止とする場合がある。

|             |                                            |
|-------------|--------------------------------------------|
| 科目名         | 口腔保健衛生臨床実習                                 |
| ユニット名       | 障害者口腔保健衛生臨床実習                              |
| 授業の形態       | 実習                                         |
| 開講時期・単位・時間数 | 4 学年前期・必修 1 単位・45 時間                       |
| 科目・ユニット責任者  | 近藤圭子                                       |
| 授業担当者       | 篠塚修（障害者歯科学分野）、大学院医歯学研究科臨床系教員、歯学部附属病院臨床系教職員 |
| 主な授業場所      | 歯学部附属病院スペシャルケア外来診療室 2                      |

### 学習目標

歯科受診に対して障害を有する患者とスムーズにコミュニケーションをとった上で、患者が安心して歯科治療・予防処置・保健指導を受けられるように、知識を確認して、必要な基本的態度、専門的技術を身につける。

### 到達目標

- ・患者および保護者・介護者と挨拶、会話を交わすことができる。
- ・患者を治療椅子へ導入することができる。
- ・治療中に、患者に対して、適切に言葉かけができる。
- ・精神鎮静法の準備・片付けをすることができる。
- ・患者の全身状態、行動の観察をして、対応できる。
- ・患者の情報収集・分析ができる。
- ・問診結果から、保健指導に必要な情報を分析して、活用できる。
- ・保健指導記録を書くことができる。
- ・自分が行った指導について評価することができる。

### 授業計画 4 学年前期・必修 1 単位・45 時間

|       | 授業題目          | 授業内容               |
|-------|---------------|--------------------|
| 1-3   | 障害者歯科外来における対応 | 患者および保護者・介護者との対応   |
| 4-6   | 患者の導入と安全確保    | 患者の治療椅子への導入        |
| 7-12  | 患者の観察と評価      | 患者の全身状態の観察         |
| 13-18 | 治療の準備と補助 1    | バイタルサイン（脈拍、血圧等）の測定 |
| 19-24 | 治療の準備と補助 2    | 精神鎮静法下の治療の準備と補助    |

|       |             |                                              |
|-------|-------------|----------------------------------------------|
| 25-30 | 精神鎮静法後の患者管理 | 精神鎮静法後の患者管理                                  |
| 31-36 | 情報収集・分析     | 問診票、口腔保健行動・生活習慣に関する質問票、口腔内観察（現在歯、治療状況、清掃状態等） |
| 37-42 | 保健指導        | 生活習慣、保健行動、ブラッシングなど<br>記録の作成                  |
| 43-45 | 評価          | 障害者歯科外来実習の振り返りと総括                            |

## 評価方法

実習記録提出、出席状況、ケース履修状況をもって、総括的評価を行う。

## 参考図書等

- ・障害者歯科ガイドブック 森崎市治郎他編 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本 「障害者歯科」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版

## 留意事項

附属病院等では服装、態度等に留意すること。不適切な場合は実習停止とする場合がある。

|             |                                                                          |
|-------------|--------------------------------------------------------------------------|
| 科目名         | 地域口腔保健衛生臨地実習                                                             |
| ユニット名       | 地域口腔保健衛生臨地実習                                                             |
| 授業の形態       | 実習                                                                       |
| 開講時期・単位・時間数 | 3 学年前期・必修・20 時間<br>3 学年後期・必修・10 時間<br>4 学年前期・必修・20 時間<br>4 学年後期・必修・40 時間 |
|             | } 2 単位<br>単位認定（2 単位）は、4 学年後期終了時に行う                                       |
| 科目・ユニット責任者  | 遠藤圭子                                                                     |
| 授業担当者       | 遠藤圭子、近藤圭子、白田千代子                                                          |
| 主な授業場所      | 口腔保健学科 第3講義室、保健衛生学科看護学専攻 実習室、演習室、学外施設・機関                                 |

### 学習目標

対象に合わせた口腔保健活動を展開するために必要なニーズ診断、計画立案、実施、評価の流れを実践的に理解するとともに、その能力を高める。

### 到達目標

- ・入院患者の疾患の様子、全身状態、口腔内状態を把握し、必要な援助について実践的に検討する。
- ・対象に合わせた用具を選択して、口腔ケアを実施する。
- ・学童の歯科保健のニーズを判断して、活動内容を決定する。
- ・学童に対する健康教育を実施、評価して、次への健康課題を提示できる。
- ・歯科衛生活動内容の特徴を理解して、実践する。

### 授業計画

#### 4 学年前期・必修・20 時間

| 回     | 授業題目      | 授業内容                             |
|-------|-----------|----------------------------------|
| 1, 2  | オリエンテーション | 地域歯科保健活動実習、保健衛生学科・口腔保健学科合同授業について |
| 3-6   | 口腔ケア1     | 口腔ケアの実際、使用器材                     |
| 7, 8  | 口腔ケア2     | 相互実習                             |
| 9, 10 | 口腔ケア3     | まとめおよび意見交換                       |

|       |                                           |                                |
|-------|-------------------------------------------|--------------------------------|
| 11-13 | 保健衛生学科・口腔保健学科合同授業 1<br>入院患者の口腔ケア          | 事例紹介、問題点のピックアップ                |
| 14-16 | 保健衛生学科・口腔保健学科合同授業 2<br>事例検討 (PBL テュートリアル) | 問題点の確認、解決策の検討、相互実習、<br>発表資料の作成 |
| 17-20 | 保健衛生学科・口腔保健学科合同授業 3<br>発表                 | 発表および意見交換                      |

#### 4 学年後期・必修・40 時間

|       |                                |                                       |
|-------|--------------------------------|---------------------------------------|
| 21-27 | 集団対象の健康教育 1                    | 事前調査、健康課題検討、調査票作成                     |
| 28-34 | 歯科健康診断の実際                      | 歯科健診補助、統計処理                           |
| 35-41 | 集団対象の健康教育 2                    | 問題点の把握、健康教育課題の決定、計画立案、<br>教材の作製、内容の検討 |
| 42-48 | 集団対象の健康教育 3                    | リハーサル、評価、修正                           |
| 49-55 | 集団対象の健康教育 4<br>H 小学校における集団指導   | 実習、事後評価、実習報告書の作成                      |
| 56-60 | 集団対象の健康指導 5<br>江戸川区小学校における集団指導 | 実習、事後評価、実習報告書の作成                      |

#### 評価方法

- ・報告書、出席状況を基に総括的評価を行う。
- ・実習態度、受け入れ施設からの評価を総括的評価に加味する。

#### 留意事項

- ・事前配付資料は、繰り返し読んで、確認して実習に臨む。
- ・服装、態度、言葉遣いに留意する。
- ・実習への取り組み、出席状況、報告書の提出状況などが不適切の場合には、実習停止とする。

|             |                                |
|-------------|--------------------------------|
| 科目名         | 地域口腔保健衛生臨地実習                   |
| ユニット名       | 高齢者・訪問口腔保健衛生臨地実習               |
| 授業の形態       | 実習                             |
| 開講時期・単位・時間数 | 4 学年後期・必修 2 単位・90 時間           |
| 科目・ユニット責任者  | 遠藤圭子                           |
| 授業担当者       | 吉増秀實、下山和弘、遠藤圭子、近藤圭子、白田千代子      |
| 主な授業場所      | 高齢者在宅サービスセンター、訪問歯科診療（居宅、高齢者施設） |

### 学習目標

高齢者施設や居宅において、利用者の視点に立った口腔保健活動を実践するために必要な態度、知識、技術を習得して、実践力を養う。

### 到達目標

- ・活動の場の種類、特徴を理解して、利用者へのサービス内容を説明する。
- ・利用者の身体的・精神的・社会的特性に配慮して、問題点を抽出・整理する。
- ・対象者の価値観の多様性を理解して、対応する。
- ・利用者の心理状態や体調の変化に対応する。
- ・診療に必要な機材を説明する。
- ・スタッフ、利用者、家族とコミュニケーションがとれる。

### 授業計画 4 学年後期・必修 2 単位・90 時間

| 回     | 授業題目                  | 授業内容                                            |
|-------|-----------------------|-------------------------------------------------|
| 1-6   | オリエンテーション             | 高齢者施設の概要と現状の理解<br>実習の意義と留意点、実習内容<br>実習報告書作成について |
| 7-12  | 利用者の理解、コミュニケーション      | 現状把握、利用者・家族とのコミュニケーションのとり方                      |
| 13-18 | 高齢者在宅サービスセンターにおける実習 1 | 事前情報収集・整理                                       |
| 19-30 | 高齢者在宅サービスセンターにおける実習 2 | 口腔ケアの計画、実践、評価                                   |
| 31-36 | 実習報告、まとめ              | 実習報告書作成、事後評価、今後の課題                              |

|       |                                  |                                                |
|-------|----------------------------------|------------------------------------------------|
| 37-42 | オリエンテーション                        | 訪問診療の概要と現状の理解<br>実習の意義と留意点、実習内容<br>実習報告書作成について |
| 43-48 | 利用者の理解<br>スタッフ、利用者、家族とのコミュニケーション | 現状把握、利用者・家族とのコミュニケーションのとり方                     |
| 49-54 | 訪問診療実習 1                         | 事前情報収集・整理、                                     |
| 55-66 | 訪問診療実習 2                         | 口腔ケア計画、実践、評価                                   |
| 67-72 | 実習報告、まとめ                         | 実習報告書作成、事後評価、今後の課題                             |
| 73-78 | 総合病院における口腔保健活動 1                 | 総合病院の機能、歯科・口腔外科の役割、<br>入院患者の口腔ケアの実際、           |
| 79-84 | 総合病院における口腔保健活動 2                 | 専門職種の実践内容                                      |
| 85-90 | 実習報告、まとめ                         | 実習報告書作成、事後評価、今後の課題                             |

## 評価方法

- ・ 報告書、出席状況を基に総括的評価を行う。
- ・ 実習態度、受け入れ施設からの評価を総括的評価に加味する。

## 留意事項

- ・ 事前配付資料は、繰り返し読んで、確認して実習に臨む。
- ・ 服装、態度、言葉遣いに留意する。
- ・ 実習への取り組み、出席状況、報告書の提出状況などが不適切の場合には、実習停止とすることがある。

|             |                                                                                                |
|-------------|------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 科目名         | 選択臨床・臨地実習                                                                                      |
| ユニット名       | 選択臨床・臨地実習                                                                                      |
| 授業形態        | 実習                                                                                             |
| 開講時期・単位・時間数 | 4 学年後期・必修 1 単位・45 時間                                                                           |
| 科目・ユニット責任者  | 遠藤圭子                                                                                           |
| 授業担当者       | 遠藤圭子、近藤圭子、白田千代子、吉増秀實、下山和弘、坂本裕次郎、小原由紀、大塚紘未、佐々木好幸（口腔保健教育研究センター、山崎美幸・岡田昌子・河野章江・藤田直子（非常勤講師）、実習先指導者 |
| 主な授業場所      | 歯学部附属病院、学外施設                                                                                   |

### 学習目標

既習した臨床実習および臨地実習で、関心を抱いた場での実習を選択して行うことによって、その領域の知識、技術を深める。特別な配慮が必要な対象者に対して、対象者本位の口腔保健活動を実施するための、態度、知識、技術を習得する。

### 到達目標

- ・対象者の身体的・精神的・社会的特性に配慮して、問題点を抽出・整理する。
- ・対象者の価値観の多様性を理解して、対応する。
- ・利用者の心理状態や体調の変化に対応できる。
- ・歯科衛生過程の各ステップの意味を理解して、実施できる。
- ・評価結果から、次のステップの課題が提示できる。
- ・専門職間の連携について説明できる。
- ・顎口腔機能の障害を評価し、対応法を習得する。
- ・対象とする方の生活背景を理解して、対応できる。
- ・実習報告書が作成する。

### 授業計画 4 学年後期・必修 1 単位・45 時間

他の臨床実習・臨地実習の日程内で、ローテーションを組んで実習する。

### 評価方法

- ・実習報告書、出席状況を基に総括的評価を行う。
- ・実習態度、受け入れ施設からの評価を総括的評価に加味する。

## 参考図書等

- ・最新歯科衛生士教本「口腔保健管理」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「歯周疾患」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「歯科保健指導」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「歯科補綴」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「小児歯科」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「口腔外科学・歯科麻酔学」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「歯科診療補助 歯科器械の知識と取り扱い」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「歯科診療補助 歯科材料の知識と取り扱い」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・わかる摂食・嚥下リハビリテーションⅠ 評価法と対処法、医歯薬出版、東京、2005 年
- ・歯科衛生士サブテキスト「臨床実習」、クインテッセンス出版
- ・歯科衛生士サブテキスト「臨床実習」、クインテッセンス出版

## 留意事項

- ・事前配付資料は、繰り返し読んで、確認して実習に臨む。
- ・服装、態度、言葉遣いに留意する。
- ・実習への取り組み、出席状況、報告書の提出状況などが不適切の場合には、実習停止とする。

|             |                                                                         |
|-------------|-------------------------------------------------------------------------|
| 科目名         | 特論（卒業研究）                                                                |
| ユニット名       | 特論（卒業研究）                                                                |
| 授業形態        | 演習                                                                      |
| 開講時期・単位・時間数 | 3 学年後期・必修・60 時間<br>4 学年前後期・必修・120 時間 } 6 単位<br>単位認定（6 単位）は 4 学年後期終了時に行う |
| 科目・ユニット責任者  | 杉本久美子                                                                   |
| 授業担当者       | 口腔保健学科教員、歯学科教員                                                          |
| 主な授業場所      | 口腔保健学科第 2 講義室                                                           |

### 学習目標

各人の興味、将来の方向性に沿ってテーマを設定し、計画・立案に基づいて研究を実施して、結果を論文にまとめることにより、論理的洞察力と研究への理解と志向性を培う。

### 到達目標

- ・自分の知的興味、将来の方向性に沿って研究テーマを設定できる。
- ・科学論文の検索と科学的吟味ができ、得た知見を整理できる。
- ・EBM・EBHC の概念を説明できる。
- ・EBM・EBHC に基づく研究の計画・立案ができる。
- ・研究計画に基づき、実験・調査などの研究を実施できる。
- ・実験・調査などで得られたデータを整理分析できる。
- ・結果に基づき、新たな問題点と課題を抽出、提起できる。
- ・一連の研究成果を論文にまとめられる。

### 授業計画 4 学年前後期・必修・120 時間

| 回     | 授業題目             | 授業内容                          |
|-------|------------------|-------------------------------|
| 1-3   | 研究計画の検討と関連論文のまとめ | 研究計画の検討ならびに研究テーマに関する文献の読解とまとめ |
| 4-9   | 研究計画の概要と関連論文の報告会 | 研究計画の概要と関連文献の報告               |
| 10-12 | 研究計画の確定          | 研究計画の再検討と確定                   |
| 13-39 | 研究の実施            | 研究計画に基づく研究の実施                 |

|         |             |                                 |
|---------|-------------|---------------------------------|
| 40-45   | 研究中間発表会準備   | 研究データの中間整理と分析、中間発表会プレゼンテーションの作成 |
| 46-50   | 研究中間発表会     | 研究成果の中間発表と討論                    |
| 51-75   | 研究内容の再検討と実施 | 中間評価に基づく研究の進め方の再検討、研究の実施        |
| 76-89   | 研究成果のまとめ    | 研究データの整理・分析、文献再検索               |
| 90-105  | 研究論文作成      | 研究論文の作成と推敲                      |
| 106-113 | 研究成果発表会準備   | 研究成果報告会プレゼンテーションの作成             |
| 114-120 | 研究成果発表会     | 研究成果の発表と討論                      |

## 評価方法

- ・研究中間発表会における発表により形成的評価を行う。
- ・卒業研究発表会における発表および研究論文により総括的評価を行う。

## 参考図書等

- ・「保健・医療のための研究法入門」 朝倉隆司監訳 協同医書出版社
- ・「医学的研究のデザイン」第2版 木原雅子、木原正博訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル
- ・「看護研究—原理と方法」 D.F. ポーリット、B.P. ハングラー、押尾 祥子著 医学書院
- ・「よくわかる 看護研究の進め方・まとめ方 エキスパートをめざして」 横山三江編 医歯薬出版
- ・「SPSS による医学・歯学・薬学のための統計解析」第2版 石村貞夫他著 東京図書
- ・「Excel によるアンケート処理」 石村貞夫他著 東京図書

## 留意事項

- ・常に指導教員と密接な連絡をとり、助言を得ながら研究を進めること。
- ・毎回出席簿に学科指導教員の押印を受けること。
- ・平成22年4月23日（金）、5月7日（金）に研究計画発表と文献紹介を行う。
- ・平成22年7月23日（金）に研究の中間報告を行う。
- ・平成22年12月28日（火）までに卒業研究論文を e-learning 上で提出すること。
- ・卒業研究発表会を平成23年2月4日（金）に実施する。

|             |                                                             |
|-------------|-------------------------------------------------------------|
| 科目名         | 社会福祉援助技術現場実習                                                |
| ユニット名       | 社会福祉援助技術現場実習                                                |
| 授業形態        | 実習                                                          |
| 開講時期・単位・時間数 | 4 学年前期（夏季集中）・選択・12 日間（90 時間）以上<br>単位認定（4 単位）は 4 学年の実習終了後に行う |
| 科目・ユニット責任者  | 坪井真                                                         |
| 授業担当者       | 実習先の実習指導者                                                   |
| 主な授業場所      | 社会福祉施設・機関                                                   |

### 学習目標

現場での実習体験を通して、社会福祉専門職としての仕事をする上で必要な専門知識、専門援助技術および関連知識について理解を深める。

### 到達目標

- ・福祉ニーズを抱えている個人、家族、小集団、地域などに対する総合的援助過程の中で、現場の実習指導者の指導を得ながら、社会福祉援助技術を活用できる。
- ・スーパービジョンを通して、自己の社会福祉援助者としての実践力を高め、補正することができる。
- ・社会福祉援助技術を活用するにあたっての課題、その解決方法を学び、将来の実践におけるその活用の展望について整理できる。
- ・社会福祉援助技術の実践に必要な知識、技術を高め、援助者として適切な態度と行動がとれる。
- ・各人の実習計画に基づき実習を遂行できる。

### 授業計画 4 学年前期（夏季集中）・選択・12 日間（90 時間）以上

実習日程等については、実習受け入れ先と相談の上、決定する。

### 評価方法

実習計画、実習記録ノート、実習報告書および実習指導者評価表により、総括的評価を行う。

|             |                                                             |
|-------------|-------------------------------------------------------------|
| 科目名         | 社会福祉援助技術現場実習指導（スーパービジョン）                                    |
| ユニット名       | 社会福祉援助技術現場実習指導（スーパービジョン）                                    |
| 授業の形態       | 実習                                                          |
| 開講時期・単位・時間数 | 3 学年後期・選択・37 時間<br>4 学年前期・選択・32 時間<br>4 学年前期（夏季集中）・選択・21 時間 |
|             | } 2 単位<br>単位認定（2 単位）は 4 学年後期終了時に行う                          |
| 科目・ユニット責任者  | 坪井真                                                         |
| 授業担当者       | 坪井真                                                         |
| 主な授業場所      | 口腔保健学科 第2講義室                                                |

### 学習目標

社会福祉施設・機関での現場実習を行う意義を理解し、実習の前から終了後にわたって指導を受け、現場実習を実効性のあるものとする。

### 到達目標

- ・各社会福祉施設における実習の流れを説明できる。
- ・各施設における実習目標、実習計画を立てられる。
- ・現場実習における心構え、留意点を説明できる。
- ・実習現場における行動の取り方を身につける。
- ・実習記録ノートを作成できる。
- ・スーパービジョン・リンケージを説明できる。
- ・実習先の特徴、利用者の特徴について説明できる。
- ・実習内容について発表ができる。
- ・実習終了後の振り返りができ、改善点を見いだせる。

### 授業計画

#### 4 学年前期・選択・32 時間

| 回   | 授業題目        | 授業内容                     |
|-----|-------------|--------------------------|
| 1-3 | 春季実習の振り返り 1 | 春季実習の振り返り（学習成果と学習課題の整理）  |
| 4-6 | 春季実習の振り返り 2 | 春季実習の振り返り（個人面接による助言・指導）  |
| 7-9 | 春季実習の振り返り 3 | 学習成果発表会の準備（プレゼンテーションの準備） |

|        |              |                           |
|--------|--------------|---------------------------|
| 10-12  | 春季実習の学習成果発表会 | 春季実習の学習成果に関するプレゼンテーション    |
| 13-15  | 学習成果と課題の整理   | 夏季実習に向けての振り返り             |
| 16-18  | 実習前指導 1      | 個別面接による実習前指導              |
| 19-21  | 実習前指導 2      | 実習計画の立案指導①                |
| 22-24  | 実習前指導 3      | 実習計画の立案指導②                |
| 25-27  | 実習前指導 4      | グループ・ディスカッション①            |
| 28-30  | 実習前指導 5      | グループ・ディスカッション②            |
| 31, 32 | 実習指導のまとめ     | 夏季実習計画の最終確認（個別面接による助言・指導） |

### 3 学年後期（夏季集中）・選択・21 時間

| 回     | 授業題目   | 授業内容                    |
|-------|--------|-------------------------|
| 33-39 | 実習後指導1 | 学習成果と課題の整理、プレゼンテーションの準備 |
| 40-46 | 実習後指導2 | 夏季実習の学習成果発表（プレゼンテーション）  |
| 47-53 | 実習後指導3 | 春季・夏季実習レポートの作成指導        |

#### 評価方法

発表内容、提出課題、出席状況および授業態度による総括的評価を行う。

#### 参考図書等

随時「実習の手引き」等の資料を配付する。

#### 評価方法

発表内容、提出課題、出席状況および授業態度による総括的評価を行う。

#### 参考図書等

随時「実習の手引き」等の資料を配付する。

編入 3 ・ 4 学年  
新社会福祉系ユニット

|             |                 |
|-------------|-----------------|
| 科目名         | 高齢者に対する支援と制度Ⅱ   |
| ユニット名       | 高齢者に対する支援と制度Ⅱ   |
| 授業形態        | 講義              |
| 開講時期・単位・時間数 | 3 学年前期・選択・30 時間 |
| 科目・ユニット責任者  | 坪井真             |
| 授業担当者       | 柳沢志津子（東洋学園大学）   |
| 主な授業場所      | 口腔保健学科 第3 講義室   |

### 学習目標

- ・高齢者の人々の生活実態および高齢者の人々を取り巻く社会情勢、福祉・介護需要、終末期ケアの在り方について理解する。
- ・高齢者福祉制度の発展過程、介護保険制度や高齢者の福祉・介護に係る他の法制度、介護の概念および介護過程における介護の技法や介護予防の基本的考え方について理解する。

### 到達目標

- ・高齢者の人々の生活実態および高齢者の人々を取り巻く社会情勢、福祉・介護需要（高齢者虐待や地域移行、就労の実態を含む）について説明できる。
- ・高齢者福祉制度の発展過程について説明できる。
- ・介護の概念や対象及びその理念等について説明できる。
- ・介護過程における介護の技法や介護予防の基本的考え方について説明できる。
- ・終末期ケアの在り方（人間観や倫理を含む）について説明できる。
- ・相談援助活動において必要となる介護保険制度や高齢者の福祉・介護に係る他の法制度について説明できる。
- ・高齢者の福祉・介護と口腔保健の関連性について説明できる。

### 授業計画

#### 3 学年前期・選択・30 時間

| 回   | 授業題目      | 授業内容                    |
|-----|-----------|-------------------------|
| 1-2 | オリエンテーション | 高齢者福祉の視点（ライフサイクルと高齢者福祉） |
| 3-4 | 高齢者の理解 1  | 高齢者の身体的特性               |
| 5-6 | 高齢者の理解 2  | 高齢者の精神的・心理的特性           |
| 7-8 | 高齢者の理解 3  | いきがい、社会参加、エイジズム         |

|       |                      |                                                          |
|-------|----------------------|----------------------------------------------------------|
| 9-10  | 高齢者（および家族）の生活実態と生活課題 | 現代社会における高齢者の生活と就労の実態、日常生活における高齢者のニーズ、地域移行の実態と課題、高齢者虐待の問題 |
| 11-12 | 高齢者福祉制度 1            | 高齢者福祉制度の発展過程                                             |
| 13-14 | 高齢者福祉制度 2            | 老人福祉法                                                    |
| 15-16 | 高齢者福祉制度 3            | 高齢者の居住の安定確保に関する法律                                        |
| 17-18 | 高齢者福祉制度 4            | 高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律                                |
| 19-20 | 高齢者福祉制度 5            | 高齢者福祉に関連する諸制度                                            |
| 21-22 | 高齢者福祉の専門機関と専門職 1     | 高齢者福祉施設の概要と実際                                            |
| 23-24 | 高齢者福祉の専門機関と専門職 2     | 地域包括支援センターの概要と実際                                         |
| 25-26 | 高齢者福祉の専門機関と専門職 3     | 相談援助活動と高齢者福祉制度                                           |
| 27-28 | 高齢者虐待の問題と解決策         | 高齢者虐待の実態、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律（高齢者虐待防止法）                  |
| 29-30 | まとめ                  | 授業の振り返り、高齢者福祉と関連分野（医療、口腔保健など）の連携                         |

## 評価方法

- ・授業内レポートで重要な単元の学習成果を評価する。
- ・グループディスカッション（事例検討など）の参加状況を評価に加味する。
- ・定期試験を実施し、総合的に評価する。

## 参考図書等

- ・教科書：「高齢者に対する支援と介護保険制度 第2版（新・社会福祉士養成講座 第13巻）」社会福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版
- ・他随時授業中に紹介する。

## 留意事項

事前に資料の配付、e-learning システム上へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。また、講義における質疑応答などには主体的に参加し、学ぶ意欲を持って授業に参加することを望む。

|             |                 |
|-------------|-----------------|
| 科目名         | 地域福祉の理論と方法Ⅰ     |
| ユニット名       | 地域福祉の理論と方法Ⅰ     |
| 授業形態        | 講義              |
| 開講時期・単位・時間数 | 3 学年前期・必修・15 時間 |
| 科目・ユニット責任者  | 坪井真             |
| 授業担当者       | 柳沢志津子（東洋学園大学）   |
| 主な授業場所      | 口腔保健学科 第3 講義室   |

### 学習目標

- ・地域福祉の基本的考え方、地域福祉に係る組織や専門職の役割について理解する。
- ・ネットワーキングをはじめとする地域福祉の推進方法について理解する。

### 到達目標

- ・地域福祉の基本的考え方（人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂等を含む）について説明できる。
- ・地域福祉の主体と対象について説明できる。
- ・地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について説明できる。
- ・地域福祉におけるネットワーキング（多職種・多機関との連携を含む）の意義と方法及びその実際について説明できる。
- ・地域福祉の推進方法（ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発、福祉ニーズの把握方法、地域トータルケアシステムの構築方法、サービスの評価方法を含む）について説明できる。

### 授業計画

#### 3 学年前期・必修・15 時間

| 回 | 授業題目         | 授業内容                    |
|---|--------------|-------------------------|
| 1 | 地域福祉の理念      | 自立支援、地域生活支援、地域移行        |
| 2 | 地域福祉の基本概念 1  | 地域コミュニティと住民、社会福祉法       |
| 3 | 地域福祉の基本概念 2  | 人権尊重、権利擁護、社会的包摂、        |
| 4 | 地域福祉の歴史的展開 1 | 地域福祉の源流 COS 活動とセツルメント活動 |
| 5 | 地域福祉の歴史的展開 2 | 戦後日本の地域福祉               |
| 6 | 地域福祉の歴史的展開 3 | 地域コミュニティ視点の登場           |
| 7 | 地域福祉の主体と対象 1 | 地方分権、住民自治               |

|    |                |                                   |
|----|----------------|-----------------------------------|
| 8  | 地域福祉の主体と対象 2   | 福祉の多元化、市場化                        |
| 9  | 地域福祉の問題とは何か    | ビデオ「孤立する都市の高齢者」                   |
| 10 | 地域福祉を支える組織と人々1 | 行政組織の役割と実際、地方自治体                  |
| 11 | 地域福祉を支える組織と人々2 | 民間組織の役割と実際、社会福祉協議会、共同募金           |
| 12 | 地域福祉を支える組織と人々3 | 民間組織の役割と実際、社会福祉法人、NPO・NGO、自治会     |
| 13 | 地域福祉を支える組織と人々4 | 社会福祉専門職の役割と実際、社会福祉士、地域活動専門員、介護相談員 |
| 14 | 地域福祉を支える組織と人々5 | 地域住民の役割と実際、民生委員、児童委員、ボランティア、自治会   |
| 15 | まとめ            | ミニテスト                             |

### 評価方法

- ・授業内レポートで重要な単元の学習成果を評価する。
- ・試験を実施し、総合的に評価する。

### 参考図書等

- ・教科書：「地域福祉の理論と方法 第2版（新・社会福祉士養成講座 第9巻）」社会福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版
- ・「厚生指標 国民の福祉の動向 各年度版」 厚生統計協会
- ・「社会福祉小六法 2009年度版」 ミネルヴァ書房
- ・他随時授業中に紹介する。

### 留意事項

事前に資料の配付、e-learning システム上へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。また、学習する内容について各自で参考文献を読み、理解を深めること。

|             |                                                    |
|-------------|----------------------------------------------------|
| 科目名         | 地域福祉の理論と方法Ⅱ                                        |
| ユニット名       | 地域福祉の理論と方法Ⅱ                                        |
| 授業形態        | 講義                                                 |
| 開講時期・単位・時間数 | 3 学年前期・選択・15 時間<br>単位認定（3 単位）は 4 学年前期（30 時間）終了時に行う |
| 責任者         | 坪井真                                                |
| 授業担当者       | 柳沢志津子（東洋学園大学）                                      |
| 主な授業場所      | 口腔保健学科 第3 講義室                                      |

### 学習目標

- ・地域福祉の基本的考え方、地域福祉に係る組織や専門職の役割について理解する。
- ・ネットワーキングをはじめとする地域福祉の推進方法について理解する。

### 到達目標

- ・地域福祉の基本的考え方（人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂等を含む）について具体的に説明できる。
- ・地域福祉の主体と対象について具体的に説明できる。
- ・地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について具体的に説明できる。
- ・地域福祉におけるネットワーキング（多職種・多機関との連携を含む）の意義と方法及びその実際について具体的に説明できる。
- ・地域福祉の推進方法（ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発、福祉ニーズの把握方法、地域トータルケアシステムの構築方法、サービスの評価方法を含む）について具体的に説明できる。

### 授業計画 3 学年前期・選択・15 時間

| 回 | 授業題目        | 授業内容                   |
|---|-------------|------------------------|
| 1 | 地域福祉の推進方法 1 | 社会福祉法                  |
| 2 | 地域福祉の推進方法 2 | コミュニティワーク技法            |
| 3 | 地域福祉の推進方法 3 | ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発 |
| 4 | 地域福祉の財源     | 地方自治体の地域福祉財源、民間財源      |
| 5 | 地域福祉の実際 1   | 社会福祉施設の地域拠点            |

|    |            |                     |
|----|------------|---------------------|
| 6  | 地域福祉の実際 2  | 福祉教育とボランティア活動       |
| 7  | 地域福祉計画策定 1 | 地域福祉計画策定の流れ         |
| 8  | 地域福祉計画策定 2 | 実践「住民参加による福祉のまちづくり」 |
| 9  | 地域福祉計画策定 3 | 実践「住民参加による福祉のまちづくり」 |
| 10 | 地域福祉計画策定 4 | 実践「住民参加による福祉のまちづくり」 |
| 11 | 地域福祉計画策定 5 | 実践「住民参加による福祉のまちづくり」 |
| 12 | 地域福祉の実際 3  | 地域福祉計画における住民主体形成    |
| 13 | 地域福祉の実際 4  | 福祉サービスの評価方法、第三者評価事業 |
| 14 | 地域福祉の実際 5  | 福祉の情報提供と苦情解決システム    |
| 15 | まとめ        | ミニテスト               |

## 評価方法

- ・授業内レポートで重要な単元の学習成果を評価する。
- ・試験を実施し、総合的に評価する。

## 参考図書等

- ・教科書：「地域福祉の理論と方法 第2版（新・社会福祉士養成講座 第9巻）」社会福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版
- ・「厚生指標 国民の福祉の動向 各年度版」 厚生統計協会
- ・「社会福祉小六法 2010年度版」 ミネルヴァ書房
- ・その他、随時授業中に紹介する。

## 留意事項

事前に資料の配付、e-learning システム上へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。また、学習する内容について各自で参考文献を読み、理解を深めること。

|             |                      |
|-------------|----------------------|
| 科目名         | 保健医療サービス             |
| ユニット名       | 保健医療サービス             |
| 授業形態        | 講義                   |
| 開講時期・単位・時間数 | 3 学年後期・選択 2 単位・30 時間 |
| 科目責任者       | 坪井真                  |
| 授業担当者       | 草水美代子（西片医療福祉研究会）     |
| 主な授業場所      | 口腔保健学科 第3講義室         |

### 学習目標

- ・相談援助活動において必要となる医療保険制度や保健医療サービスについて理解する。
- ・保健医療サービスにおける専門職の役割と実際、多職種協働について理解する。

### 到達目標

- ・保健・医療分野における相談援助の特徴を説明できる。
- ・医療保険制度（診療報酬に関する内容を含む）の特徴や仕組みを説明できる。
- ・保健医療サービスにおける医療ソーシャルワーカーの役割と実際について説明できる。
- ・保健医療サービスにおける他の専門職（医師・看護師・保健師・リハビリテーション関連職など）の役割と実際について説明できる。
- ・インフォームドコンセントの概要（関連制度、自己決定・自立尊重原理など）を説明できる。
- ・保健医療サービスにおける他職種連携や医療チームアプローチについて説明できる。

### 授業計画 3 学年後期・選択 2 単位・30 時間

| 回     | 授業題目                                  | 授業内容                                                                    |
|-------|---------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------|
| 1-3   | オリエンテーション<br>保健医療サービスの概要<br>医療保険制度の概要 | 授業の説明、相談援助活動と保健医療サービス<br>保健・医療分野における相談援助の特徴<br>医療保険の種類とプロセス、医療費に関する政策動向 |
| 4-6   | 出来高払いと包括払い制度<br>医療費減免等の諸制度            | 出来高払いと包括払い制度の内容、医療費政策との関連<br>高額療養費制度、他の医療費減免制度（在宅療養を含む）                 |
| 7-9   | 診療報酬制度<br>医療法の概要                      | 診療報酬制度の内容、診療報酬制度における社会福祉士<br>医療法の概要、医療機関の種類、診療報酬と医療連携                   |
| 10-12 | 医療ソーシャルワーカー                           | 医療ソーシャルワーカーの歴史、仕事と役割、業務指針                                               |

|       |                 |                                                  |
|-------|-----------------|--------------------------------------------------|
|       | 病院組織とMSW        | 病院内のMSWの位置づけ、MSWと他職種との関係                         |
| 13-15 | 医師・看護師・保健師の役割   | 医師・看護師・保健師の法的定義、診療報酬制度および医療法における医師・看護師・保健師       |
| 16-18 | インフォームドコンセント    | 関連制度、自己決定・自立尊重原理、ICとMSW業務                        |
| 19-21 | リハビリテーション関連職の理解 | 作業療法士（OT）、理学療法士（PT）、言語聴覚士（ST）の仕事と役割              |
| 22-24 | 医療チームアプローチ      | 入院から退院にいたる一般的なプロセスと各段階における医療従事者の役割、医療チームアプローチの実際 |
| 25-27 | 地域保健医療サービスと社会福祉 | 地域保健法の概要、保健師の役割、介護保険と地域保健医療サービス体制                |
| 28-30 | まとめ             | 事例から学ぶ保健医療サービス<br>授業の振り返りと学習成果の確認                |

## 評価方法

- ・授業内レポートで重要な単元の学習成果を評価する。
- ・グループディスカッション（事例検討など）の参加状況を評価に加味する。
- ・定期試験を実施し、総合的に評価する。

## 参考図書等

- ・教科書：「保健医療サービス 第2版（新・社会福祉士養成講座 第17巻）」社会福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版
- ・他随時授業中に紹介する。

## 留意事項

事前に資料の配付、e-learning システム上へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。また、講義における質疑応答などには主体的に参加し、学ぶ意欲を持って授業に参加することを望む。

|             |                      |
|-------------|----------------------|
| 科目名         | 社会調査の基礎              |
| ユニット名       | 社会調査の基礎              |
| 授業形態        | 講義                   |
| 開講時期・単位・時間数 | 3 学年前期・選択 2 単位・30 時間 |
| 科目責任者       | 坪井真                  |
| 授業担当者       | 坪井真                  |
| 主な授業場所      | 口腔保健学科 第3講義室         |

### 学習目標

社会調査の意義と目的・方法、社会調査における倫理や個人情報保護について理解する。

### 到達目標

- ・社会調査の意義と目的及び方法の概要について説明できる。
- ・統計法の概要、社会調査における倫理や個人情報保護について説明できる。
- ・量的調査及び質的調査の基本的な方法を説明することができる。

### 授業計画 3 学年前期・選択 2 単位・30 時間

| 回     | 授業題目                    | 授業内容                                      |
|-------|-------------------------|-------------------------------------------|
| 1-3   | オリエンテーション<br>社会調査の意義と目的 | 授業の説明、学習内容の確認、社会調査の意義と目的<br>ソーシャルワークと社会調査 |
| 4-6   | 社会調査のプロセス               | 社会調査のプロセス、社会調査の概要、統計の留意点                  |
| 7-9   | 統計法 1                   | 統計の意義と目的、主な統計資料、統計法の基本                    |
| 10-12 | 統計法 2                   | ソーシャルワークにおける統計データの活用、事例紹介                 |
| 13-15 | 社会調査における倫理と個人情報保護       | 社会調査における倫理、個人情報保護、統計法における<br>秘密保持、調査票の管理  |
| 16-18 | 量的調査の方法 1               | 量的調査の概要、調査のプロセス（データ収集・分析等）                |
| 19-21 | 量的調査の方法 2               | 量的調査の実際（事例の紹介、簡単な調査の演習）                   |
| 22-24 | 質的調査の方法 1               | 質的調査の概要、調査のプロセス（データ収集・分析等）                |
| 25-27 | 質的調査の方法 1               | 質的調査の実際（事例の紹介、簡単な調査の演習）                   |
| 28-30 | 社会調査における IT の活用<br>まとめ  | IT を活用した社会調査の実際<br>授業の振り返りと学習成果の確認        |

### 評価方法

- ・授業内レポートで重要な単元の学習成果を評価する。
- ・グループディスカッション（事例検討など）の参加状況を評価に加味する。
- ・定期試験を実施し、総合的に評価する。

### 参考図書等

- ・教科書：「社会調査」放送大学テキスト
- ・他随時授業中に紹介する。

### 留意事項

事前に資料の配付、e-learning システム上へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。また、講義における質疑応答などには主体的に参加し、学ぶ意欲を持って授業に参加することを望む。

|             |                                                             |
|-------------|-------------------------------------------------------------|
| 科目名         | 相談援助の理論と方法                                                  |
| ユニット名       | 相談援助の理論と方法                                                  |
| 授業形態        | 講義                                                          |
| 開講時期・単位・時間数 | 3 学年前期・選択・45 時間<br>3 学年前期（夏季集中）・選択・53 時間<br>3 学年後期・選択・22 時間 |
| 科目責任者       | 坪井真                                                         |
| 授業担当者       | 坪井真、南野奈津子（東京福祉専門学校）、長谷川洋昭（田園調布学園大学）                         |
| 主な授業場所      | 口腔保健学科 第3講義室                                                |

### 学習目標

- ・相談援助の理論および相談援助の過程と知識・技術について理解する。
- ・相談援助の実際および相談援助の事例分析（意義や方法）について理解する。

### 到達目標

- ・相談援助における人と環境との交互作用に関する理論について説明できる。
- ・相談援助の対象と様々な実践モデルについて説明できる。
- ・相談援助の過程とそれに係る知識と技術について説明できる。
- ・相談援助における事例分析の意義や方法について説明できる。
- ・相談援助の実際（権利擁護活動を含む）について説明できる。

### 授業計画

#### 3 学年前期・選択・45 時間

| 回     | 授業題目           | 授業内容                                               |
|-------|----------------|----------------------------------------------------|
| 1-3   | イントロダクション      | 社会福祉援助技術の概要（定義・倫理、歴史、理論）                           |
| 4-6   | 人と環境の交互作用      | システム理論の理解、ソーシャルワーク実践との関連性                          |
| 7-9   | 相談援助の対象        | 具体的な相談援助の対象と範囲（視聴覚学習）                              |
| 10-12 | 様々な実践モデルとアプローチ | 相談援助における実践モデル（問題解決アプローチ、課題中心アプローチ、エンパワメント・アプローチなど） |
| 13-15 | 相談援助の過程        | 相談援助の基本的なプロセス、事例検討                                 |
| 16-18 | 相談援助における援助関係   | 援助関係形成の方法（コミュニケーション・スキルなど）                         |

|       |                                  |                                               |
|-------|----------------------------------|-----------------------------------------------|
| 19-21 | 相談援助のための面接技術                     | 相談援助における面接の場面、活用される技術など                       |
| 22-24 | ケースマネジメントとケアマネジメント               | ケースマネジメントとケアマネジメントの共通点と相違点、諸外国と日本の事例の比較検討     |
| 25-27 | アウトリーチ                           | アウトリーチの概念、相談援助の事例検討                           |
| 28-30 | 相談援助における社会資源の活用・調整・開発            | 一般的な社会資源の種類、相談援助における社会資源の位置づけ・活用・調整・開発、事例検討   |
| 31-33 | ネットワーキング（相談援助における多職種・多機関との連携を含む） | 相談援助におけるネットワーキング（相談援助における多職種・多機関との連携を含む）、事例検討 |
| 34-36 | 集団を活用した相談援助                      | グループワークの概要、事例検討                               |
| 37-39 | スーパービジョン                         | スーパービジョンの概要、事例検討                              |
| 40-42 | 記録、相談援助と個人情報の保護の意義と留意点           | 相談援助における記録の意味や位置づけ、相談援助における個人情報保護の意義と留意点      |
| 42-44 | 相談援助における情報通信技術（IT）の活用            | 相談援助における情報通信技術（IT）の活用、事例検討                    |
| 45    | 授業の振り返り                          | 授業内レポートの作成                                    |

### 3 学年前期（夏季集中）・選択・53 時間

| 回      | 授業題目               | 授業内容                        |
|--------|--------------------|-----------------------------|
| 46, 47 | 相談援助の実際（権利擁護活動を含む） | 相談援助（権利擁護活動を含む）の事例検討、グループ討議 |
| 48-50  | 社会福祉援助の展開過程 1      | 展開過程の概要、各過程の特徴、事例検討         |
| 51-53  | 社会福祉援助の展開過程 2      | 個人・家族を支援する社会福祉援助の展開過程       |
| 54-56  | 社会福祉援助の展開過程 3      | 集団・地域を支援する社会福祉援助の展開過程       |
| 57-59  | 個別援助技術 1           | 個別援助技術（ケースワーク）の内容、事例検討      |
| 60-62  | 個別援助技術 2           | 個別援助技術（ケースワーク）の展開過程         |
| 63-65  | 集団援助技術 1           | 集団援助技術（グループワーク）の内容、事例検討     |
| 66-68  | 集団援助技術 2           | 集団援助技術（グループワーク）の展開過程        |
| 69-71  | 地域援助技術 1           | 地域援助技術（コミュニティワーク）の内容、事例検討   |
| 72-74  | 地域援助技術 2           | 地域援助技術（コミュニティワーク）の展開過程      |
| 75-77  | その他の社会福祉援助技術       | アウトリーチ、スーパービジョンの内容、事例検討     |

|       |              |                          |
|-------|--------------|--------------------------|
| 78-80 | 地域を基盤とした実践 1 | コミュニティソーシャルワークの内容と展開過程   |
| 81-83 | 地域を基盤とした実践 2 | ソーシャルケア・サービスと社会福祉援助の関係   |
| 84-86 | 地域を基盤とした実践 3 | ミクロ実践とマクロ実践の連結による社会福祉援助  |
| 87-89 | 地域を基盤とした実践 4 | ファシリテーションの内容と社会福祉援助の関係   |
| 90-92 | 総合的な社会福祉援助実践 | 医療・保健・福祉の連携による成果支援（事例検討） |
| 93-95 | 社会福祉援助と関連領域  | 社会福祉援助と関連領域の関係（事例検討）     |
| 96-98 | 授業の振り返り      | 学習成果の確認と授業内レポートの作成       |

### 3 学年後期・選択・22 時間

| 回       | 授業題目         | 授業内容                      |
|---------|--------------|---------------------------|
| 99-101  | 相談援助の過程 1    | 相談援助における受理面接（インテーク）、事例検討  |
| 102-104 | 相談援助の過程 2    | 相談援助における事前評価（アセスメント）、事例検討 |
| 105-107 | 相談援助の過程 3    | 相談援助における支援計画（プランニング）、事例検討 |
| 108-110 | 相談援助の過程 4    | 相談援助における経過観察（モニタリング）、事例検討 |
| 111-113 | 相談援助の過程 5    | 相談援助における事後評価、事例検討         |
| 114-116 | 相談援助の過程 6    | 相談援助における終結と改善、事例検討        |
| 117-119 | 包括的な相談援助事例 1 | 包括的な相談援助の事例検討             |
| 120     | まとめ          | 授業の振り返りと学習成果の確認           |

### 評価方法

- ・授業内レポートで重要な単元の学習成果を評価する。
- ・グループディスカッション（事例検討など）の参加状況を評価に加味する。
- ・定期試験を実施し、総合的に評価する。

### 参考図書等

- ・教科書：「相談援助の理論と方法 I 第 2 版（新・社会福祉士養成講座 第 7 巻）」「相談援助の理論と方法 II 第 2 版（新・社会福祉士養成講座 第 8 巻）」社会福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版
- ・他随時授業中に紹介する。

### 留意事項

事前に資料の配付、e-learning システム上へのアップロード等があった場合は、各自予習して授

業に臨むこと。また、講義における質疑応答などには主体的に参加し、学ぶ意欲を持って授業に参加することを望む。

|             |                                                             |
|-------------|-------------------------------------------------------------|
| 科目名         | 社会福祉相談援助演習                                                  |
| ユニット名       | 社会福祉相談援助演習                                                  |
| 授業の形態       | 演習                                                          |
| 開講時期・単位・時間数 | 3 学年前期・選択・62 時間<br>3 学年前期（夏季集中）・選択・35 時間<br>3 学年後期・選択・53 時間 |
| 科目・ユニット責任者  | 坪井真                                                         |
| 授業担当者       | 坪井真、堀千鶴子（城西国際大学）                                            |
| 主な授業場所      | 口腔保健学科 第3講義室                                                |

### 学習目標

社会福祉における相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

### 到達目標

- ・社会福祉援助の特徴を説明することができる。
- ・社会福祉援助の内容・方法とプロセスを説明することができる。
- ・社会福祉援助に関する実践上の課題について、自らの意見を述べるすることができる。
- ・社会福祉援助と口腔保健における実践の関連性に興味関心をもち、自ら調べ、考える態度をもつ。
- ・社会福祉援助技術現場実習に向けた自らの興味関心と学習課題を説明することができる。

### 授業計画

#### 3 学年前期・選択・62 時間

| 回     | 授業題目       | 授業内容                               |
|-------|------------|------------------------------------|
| 1-4   | 相談援助演習の理解  | ①相談実践と相談援助技術 ②相談援助演習とは何か～演習の目的・意義～ |
| 5-8   | 相談援助技術基礎 1 | 「自己覚知」について～「自分」と「他者」～              |
| 9-12  | 相談援助技術基礎 2 | 「自己覚知」について～自分との出会い～                |
| 13-16 | 相談援助技術基礎 3 | 「援助」と「指導」～援助・支援とは何かを考える～           |

|       |                                 |                                                                                    |
|-------|---------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|
| 17-20 | 相談援助技術基礎 4                      | 基本的なコミュニケーション技術の習得～「言語的コミュニケーション」と「非言語的コミュニケーション」                                  |
| 21-24 | 相談援助技術基礎 5                      | 基本的な面接技術の習得①                                                                       |
| 25-28 | 相談援助技術基礎 6                      | 基本的な面接技術の習得②                                                                       |
| 29-32 | 相談援助技術基礎 7                      | 相談実践における「価値」と「倫理」①                                                                 |
| 33-36 | 相談援助技術基礎 8                      | 相談実践における「価値」と「倫理」②                                                                 |
| 37-40 | 個別援助技術における面接技法                  | インテーク技法                                                                            |
| 41-44 | 個別援助技術におけるアセスメント方法              | アセスメントの理解と実際及びニーズ把握と支援目標の把握                                                        |
| 45-48 | 個別援助技術における支援計画作成法               | 支援計画（プランニング）作成の理論と支援の実施及び支援体制形成とその展開                                               |
| 49-52 | 個別援助技術におけるモニタリング・効果測定・終結とアフターケア | 記録のまとめ方・記録方法の理論の実際及び支援展開の評価方法                                                      |
| 53-56 | 相談援助実践事例演習 1                    | 実践事例（社会的排除・虐待（児童・高齢者）・家庭内暴力（D.V）・低所得者・ホームレス・その他の危機状態にある相談援助事例（権利擁護活動を含む））の理解と研究方法① |
| 57-60 | 相談援助実践事例演習 2                    | 実践事例（社会的排除・虐待（児童・高齢者）・家庭内暴力（D.V）・低所得者・ホームレス・その他の危機状態にある相談援助事例（権利擁護活動を含む））の理解と研究方法② |
| 61-62 | 授業の振り返り                         | 授業内レポートの作成                                                                         |

### 3 学年前期（夏季集中）・選択・35 時間

| 回     | 授業題目         | 授業内容                                                                               |
|-------|--------------|------------------------------------------------------------------------------------|
| 63-66 | 相談援助実践事例演習 3 | 実践事例（社会的排除・虐待（児童・高齢者）・家庭内暴力（D.V）・低所得者・ホームレス・その他の危機状態にある相談援助事例（権利擁護活動を含む））の理解と研究方法③ |

|       |              |                                                     |
|-------|--------------|-----------------------------------------------------|
| 67-70 | 相談援助実践事例演習 4 | 事例研究の理解と実際（アウトリーチ・チームアプローチ・ネットワーキング・社会資源の活用・調整・開発）① |
| 71-74 | 相談援助実践事例演習 5 | 事例研究の理解と実際（アウトリーチ・チームアプローチ・ネットワーキング・社会資源の活用・調整・開発）② |
| 75-78 | 相談援助実践事例演習 6 | 事例研究の理解と実際（アウトリーチ・チームアプローチ・ネットワーキング・社会資源の活用・調整・開発）③ |
| 79-82 | 集団援助技術の展開 1  | グループとは何か、力動・相互作用を理解する                               |
| 83-86 | 集団援助技術の展開 2  | グループの作り方と展開方法                                       |
| 87-90 | 集団援助技術の展開 3  | プログラム活動の実際                                          |
| 91-94 | 集団援助技術の展開 4  | 会合の持ち方・進め方                                          |
| 95-98 | 集団援助技術の展開 5  | グループの成長・発展への支援のあり方                                  |

### 3 学年後期・選択・53 時間

| 回       | 授業題目        | 授業内容                          |
|---------|-------------|-------------------------------|
| 99-100  | オリエンテーション   | 個別援助・集団援助と地域援助について            |
| 101-104 | 地域援助技術の展開 1 | 地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握及び地域診断方法② |
| 105-108 | 地域援助技術の展開 2 | 地域福祉の計画の策定～社会資源の把握と支援計画～      |
| 109-112 | 地域援助技術の展開 3 | ソーシャルアクションの理論と実際              |
| 113-116 | 地域援助技術の展開 4 | ネットワーキング                      |
| 117-120 | 地域援助技術の展開 5 | 社会資源の活用・調整・開発                 |
| 121-124 | 地域援助技術の展開 6 | 地域援助実践の記録とサービスの評価             |

|         |                  |                      |
|---------|------------------|----------------------|
| 125-128 | ケアマネジメント 1       | ケアマネジメントの理論と実際①      |
| 129-132 | ケアマネジメント 2       | ケアマネジメントの理論と実際②      |
| 133-136 | 組織運営・管理の理論と方法    | 組織運営・管理とスーパーヴィジョン    |
| 137-140 | 相談援助実習に向けた事例検 1  | 社会福祉施設利用者の事例検討       |
| 141-144 | 相談援助実習に向けた事例検討 2 | 社会福祉協議会や行政機関の事例検討    |
| 145-148 | 相談援助実習に向けた事例検討 3 | 医療ソーシャルワークの事例検討      |
| 149-150 | 演習総括（まとめ）        | 相談援助実践の展望と動向（グループ討議） |

### 評価方法

- ・授業内レポートで重要な単元の学習成果を評価する。
- ・グループディスカッション（事例検討など）の参加状況を評価に加味する。
- ・定期試験を実施し、総合的に評価する。

### 参考図書等

随時授業中に紹介する。

### 留意事項

事前に資料の配付、e-learning システム上へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。また、グループディスカッションやロールプレイなどには主体的に参加し、学ぶ意欲を持って授業に参加することを望む。

|             |                                                                                            |
|-------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|
| 科目名         | 社会福祉相談援助実習                                                                                 |
| ユニット名       | 社会福祉相談援助実習                                                                                 |
| 授業の形態       | 実習                                                                                         |
| 開講時期・単位・時間数 | 3 学年後期（春季集中）・選択・16 日間（120 時間）または 8 日間（60 時間）以上<br>単位認定（4 単位）は 4 年次の実習（8 日間または 16 日間）終了後に行う |
| 科目・ユニット責任者  | 坪井真                                                                                        |
| 授業担当者       | 実習先の実習指導者                                                                                  |
| 主な授業場所      | 社会福祉施設・機関                                                                                  |

**学習目標**

- ・社会福祉士として求められる資質や倫理、相談援助に係る知識と技術について、具体的かつ实际的に理解し、支援に必要な技術を体得する。

**到達目標**

- ・社会福祉分野における相談援助実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ实际的に経験し、実践的な技術等を経験知として整理できる。
- ・社会福祉士として求められる資質、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を体験的に把握できる。
- ・関連分野の専門職との連携のあり方や具体的内容を把握し、事後学習で整理できる。

**授業計画** 3 学年後期（春季集中）・選択・16 日間（120 時間）もしくは 8 日間（60 時間）以上  
実習日程等については、実習受け入れ先と相談の上、決定する。

**評価方法**

実習計画、実習記録ノート、実習報告書および実習指導者評価表により、総括的評価を行う。

|             |                                                                              |
|-------------|------------------------------------------------------------------------------|
| 科目名         | 社会福祉相談援助実習指導                                                                 |
| ユニット名       | 社会福祉相談援助実習指導                                                                 |
| 授業の形態       | 実習                                                                           |
| 開講時期・単位・時間数 | 3 学年前期・選択・23 時間<br>3 学年後期（春季集中）・選択・14 時間<br>単位認定（2 単位）は 4 学年前後期（53 時間）終了時に行う |
| 科目・ユニット責任者  | 坪井真                                                                          |
| 授業担当者       | 坪井真、社会福祉施設・機関の実習指導者                                                          |
| 主な授業場所      | 口腔保健学科 第3講義室                                                                 |

### 学習目標

- ・社会福祉における相談援助実習の意義について理解する。
- ・授業で学んだ専門知識と相談援助の具体的な実践を結びつけるとともに、実習後は実習体験を意識化し、体系立てていくことをめざす。

### 到達目標

- ・社会福祉における相談援助実習の意義を事前に理解し、実習後は経験知として説明できる。
- ・相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的なかつ实际的に体験し、経験知として説明できる。
- ・社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得し、意識化できる。
- ・具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化・理論化し、体系立てて整理できる。

### 授業計画

#### 3 学年前期・選択・23 時間

| 回     | 授業題目               | 授業内容                                       |
|-------|--------------------|--------------------------------------------|
| 1, 2  | 社会福祉現場実習のオリエンテーション | 社会福祉実習施設の説明、社会福祉実習の意義・目的、実習先の決定、個人票作成要領の説明 |
| 3-5   | 実習による体験学習の理解       | 4 年生による社会福祉援助技術現場実習の学習発表会参加                |
| 6-8   | 社会福祉施設・機関の把握 1     | 社会福祉施設の現状と実習内容①                            |
| 9-11  | 社会福祉施設・機関の把握 2     | 社会福祉施設の現状と実習内容②                            |
| 12-14 | 社会福祉施設・機関の把握 3     | 社会福祉・医療機関の現状と実習内容                          |

|       |         |                          |
|-------|---------|--------------------------|
| 15-17 | 実習前指導 1 | 実習生としての態度や取り組み、事前学習の内容など |
| 18-20 | 実習前指導 2 | 実習計画書および個人票の作成指導①        |
| 21-23 | 実習前指導 3 | 実習計画書および個人票の作成指導②        |

### 3 学年後期（春季集中）・選択・14 時間

| 回     | 授業題目    | 授業内容                              |
|-------|---------|-----------------------------------|
| 24-30 | 実習前指導 4 | 個別面接による実習前指導                      |
| 31-37 | 実習後指導   | 実習の振り返り（プレゼンテーション）<br>実習報告書の作成指導等 |

### 評価方法

事前・事後学習の成果による総合的評価を行う。

### 参考図書等

随時、実習関連資料を配付する。

|             |                      |
|-------------|----------------------|
| 科目名         | 就労支援サービス             |
| ユニット名       | 就労支援サービス             |
| 授業形態        | 講義                   |
| 開講時期・単位・時間数 | 4 学年後期・選択 1 単位・15 時間 |
| 科目責任者       | 坪井真                  |
| 授業担当者       | 坪井真                  |
| 主な授業場所      | 口腔保健学科 第2講義室         |

### 学習目標

- ・相談援助活動において必要となる各種の就労支援制度について理解する。
- ・就労支援に係る組織、団体及び専門職について理解する。
- ・就労支援分野との連携について理解する。

### 到達目標

- ・相談援助活動において必要となる各種の就労支援制度について説明できる。
- ・就労支援に係る組織、団体及び専門職について説明できる。
- ・就労支援分野との連携について説明できる。

### 授業計画 4 学年後期・選択 1 単位・15 時間

| 回 | 授業題目            | 授業内容                              |
|---|-----------------|-----------------------------------|
| 1 | オリエンテーション       | 授業の説明、学習内容の確認、就労支援の概説             |
| 2 | 労働の意義           | 労働の意義（講義及びグループ討議）                 |
| 3 | キャリア発達と就労支援     | キャリアとキャリア発達（講義及びグループ討議）           |
| 4 | 雇用・就労の動向        | 雇用支援が必要な人たちの課題と社会情勢の影響            |
| 5 | 労働施策の概要         | 労働法規及び就労支援に関する法律の概要               |
| 6 | 就労支援制度の概要 1     | 低所得者の人たちを支援する就労支援制度               |
| 7 | 就労支援制度の概要 2     | 障害のある人たちを支援する就労支援制度               |
| 8 | 就労支援サービスの実施体制 1 | 行政機関（国、地方自治体、ハローワークなど）による就労支援サービス |
| 9 | 就労支援サービスの実施体制 2 | 職業リハビリテーション専門機関による就労支援サービス        |

|    |                        |                                    |
|----|------------------------|------------------------------------|
| 10 | 就労支援に係る専門職の役割と<br>実際 1 | 社会福祉士と就労支援サービス、事例検討                |
| 11 | 就労支援に係る専門職の役割と<br>実際 2 | 社会福祉士以外の専門職による就労支援サービス、事例検討        |
| 12 | 就労支援分野との連携と実際 1        | ハローワークを中心とした就労支援サービスの連携状況          |
| 13 | 就労支援分野との連携と実際 2        | 職業リハビリテーション専門機関を中心とした就労支援サービスの連携状況 |
| 14 | 就労支援分野との連携と実際 3        | 教育機関（特別支援学校等）を中心とした就労支援サービスの連携状況   |
| 15 | まとめ                    | 授業の振り返りと学習成果の確認                    |

### 評価方法

グループディスカッション（事例検討など）25%、授業内レポート 25%、定期試験 50%の総合点で評価する。

### 参考図書等

- ・随時授業中に紹介する。

### 留意事項

事前に資料の配付、e-learning システム上へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。また、講義における質疑応答などには主体的に参加し、学ぶ意欲を持って授業に参加することを望む。

|             |                      |
|-------------|----------------------|
| 科目名         | 福祉行財政と福祉計画           |
| ユニット名       | 福祉行財政と福祉計画           |
| 授業形態        | 講義                   |
| 開講時期・単位・時間数 | 4 学年後期・選択 2 単位・30 時間 |
| 科目責任者       | 坪井真                  |
| 授業担当者       | 坪井真                  |
| 主な授業場所      | 口腔保健学科 第2講義室         |

### 学習目標

- ・福祉行財政の実施体制および福祉計画の意義・目的、計画の主体・方法などについて理解する。

### 到達目標

- ・福祉の行財政の実施体制（国・都道府県・市区町村の役割、国と地方の関係、財源、組織及び団体、専門職の役割を含む）について説明できる。
- ・福祉行財政の実際について説明できる。
- ・福祉計画の意義や目的、主体、方法、留意点について説明できる。

### 授業計画 4 学年後期・選択 2 単位・30 時間

| 回      | 授業題目        | 授業内容                         |
|--------|-------------|------------------------------|
| 1, 2   | オリエンテーション   | 授業の説明、学習内容の確認、重要事項の説明        |
| 3-4    | 福祉行政の実施体制 1 | 福祉事務所や児童相談所などの福祉行政組織         |
| 5, 6   | 福祉行政の実施体制 2 | 福祉行政で働く社会福祉士の役割              |
| 7, 8   | 福祉行財政の動向 1  | 国・都道府県における福祉行財政の動向           |
| 9, 10  | 福祉行財政の動向 2  | 市区町村における福祉行財政の動向             |
| 11, 12 | 福祉行財政の課題と展望 | 国・都道府県・市町村の財政状況と福祉行財政        |
| 13, 14 | 福祉行財政の実際    | 統計資料および事例に基づく福祉行財政の実態        |
| 15, 16 | 福祉計画の意義と目的  | 行政の総合計画と福祉計画、福祉計画の法的根拠など     |
| 17, 18 | 福祉計画の主体     | 福祉計画づくりにおける主体と専門職、住民の関わり方    |
| 19, 20 | 福祉計画の方法     | P D C A サイクルやマネジメント過程などの計画理論 |
| 21, 22 | 福祉計画の実際 1   | 国・都道府県・市区町村の関係性からみた福祉計画      |

|        |           |                         |
|--------|-----------|-------------------------|
| 23, 24 | 福祉計画の実際 2 | 都道府県行政による各種計画と福祉計画の位置づけ |
| 25, 26 | 福祉計画の実際 3 | 市区町村行政による各種計画と福祉計画の位置づけ |
| 27, 28 | 福祉計画の実際 4 | 地域福祉計画と地域福祉活動計画の事例      |
| 29, 30 | まとめ       | 授業の振り返りと学習成果の確認         |

### 評価方法

- ・授業内レポートで重要な単元の学習成果を評価する。
- ・グループディスカッション（事例検討など）の参加状況を評価に加味する。
- ・定期試験を実施し、総合的に評価する。

### 参考図書等

- ・随時授業中に紹介する。

### 留意事項

事前に資料の配付、e-learning システム上へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。また、講義における質疑応答などには主体的に参加し、学ぶ意欲を持って授業に参加することを望む。

|             |                      |
|-------------|----------------------|
| 科目名         | 福祉サービスの組織と経営         |
| ユニット名       | 福祉サービスの組織と経営         |
| 授業形態        | 講義                   |
| 開講時期・単位・時間数 | 4 学年後期・選択 2 単位・30 時間 |
| 科目責任者       | 坪井真                  |
| 授業担当者       | 坪井真                  |
| 主な授業場所      | 口腔保健学科 第2 講義室        |

### 学習目標

福祉サービスの組織と経営に係る基礎理論およびサービス経営と管理運営の特徴について理解する。

### 到達目標

- ・福祉サービスに係る組織や団体（社会福祉法人、医療法人、特定非営利活動法人、営利法人、市民団体、自治会など）について説明できる。
- ・福祉サービスの組織と経営に係る基礎理論について説明できる。
- ・福祉サービスの経営と管理運営について説明できる。

### 授業計画 4 学年後期・選択 2 単位・30 時間

| 回      | 授業題目               | 授業内容                             |
|--------|--------------------|----------------------------------|
| 1, 2   | オリエンテーション          | 授業の説明、学習内容の確認、重要事項の概説            |
| 3, 4   | 福祉サービスの組織や団体 1     | 社会福祉法人、NPO法人、営利法人、市民団体、自治会・町内会など |
| 5, 6   | 福祉サービスの組織や団体 2     | 福祉サービス提供組織の定義、組織の特徴など            |
| 7, 8   | 福祉サービスの組織や団体 3     | 福祉サービス提供組織の社会的役割、運営の実態や課題        |
| 9, 10  | 福祉サービス提供組織の経営 1    | 福祉サービス提供組織の経営の実際                 |
| 11, 12 | 福祉サービス提供組織の経営 2    | 福祉サービス提供組織の経営を支える財務と会計           |
| 13, 14 | 福祉サービス提供組織の経営と法令 1 | 行政法、民法、個人情報保護法などの関連制度と組織の運営基準    |
| 15, 16 | 福祉サービス提供組織の経営と法令 2 | 人事考課、労働関連法、育児・介護休業法、安全衛生管理       |

|        |                  |                                        |
|--------|------------------|----------------------------------------|
| 17, 18 | 経営と組織づくり 1       | 組織に関する基礎理論、組織間ネットワーク、チームアプローチ、リーダーシップ  |
| 19, 20 | 経営と組織づくり 2       | キャリア・パスの概要（仕組みと意義）、職員研修システム、OJT、OFF-JT |
| 21, 22 | 経営と組織づくり 3       | 職場のメンタルヘルス対策（現状と課題）                    |
| 23, 24 | 経営と組織づくり 4       | リスクマネジメント、サービス評価の仕組み                   |
| 25, 26 | 経営と組織づくり 5       | スーパービジョン体制、苦情解決の仕組み                    |
| 27, 28 | 福祉サービス提供組織と社会福祉士 | 福祉サービス提供組織における社会福祉士の役割と位置づけ            |
| 29, 30 | まとめ              | 授業の振り返りと学習成果の確認                        |

### 評価方法

- ・授業内レポートで重要な単元の学習成果を評価する。
- ・グループディスカッション（事例検討など）の参加状況を評価に加味する。
- ・定期試験を実施し、総合的に評価する。

### 参考図書等

随時授業中に紹介する。

### 留意事項

事前に資料の配付、e-learning システム上へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。また、講義における質疑応答などには主体的に参加し、学ぶ意欲を持って授業に参加することを望む。

|             |                                                                                                                                              |
|-------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 科目名         | 社会福祉相談援助実習                                                                                                                                   |
| ユニット名       | 社会福祉相談援助実習                                                                                                                                   |
| 授業形態        | 実習                                                                                                                                           |
| 開講時期・単位・時間数 | 3 学年後期（春季集中）・選択・16 日間（120 時間）または 8 日間（60 時間）以上<br>4 学年前期（夏季集中）・選択・16 日間（120 時間）または 8 日間（60 時間）以上<br>単位認定（4 単位）は 4 年次の実習（8 日間または 16 日間）終了後に行う |
| 科目・ユニット責任者  | 坪井真                                                                                                                                          |
| 授業担当者       | 実習先の実習指導者                                                                                                                                    |
| 主な授業場所      | 社会福祉施設・機関                                                                                                                                    |

**学習目標**

- ・社会福祉士として求められる資質や倫理、相談援助に係る知識と技術について、具体的かつ実際に理解し、支援に必要な技術を体得する。

**到達目標**

- ・社会福祉分野における相談援助実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に経験し、実践的な技術等を経験知として整理できる。
- ・社会福祉士として求められる資質、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を体験的に把握できる。
- ・関連分野の専門職との連携のあり方や具体的内容を把握し、事後学習で整理できる。

**授業計画 4 学年前期（夏季集中）・選択・16 日間（120 時間）または 8 日間（60 時間）以上**

実習日程等については、実習受け入れ先と相談の上、決定する。

**評価方法**

実習計画、実習記録ノート、実習報告書および実習指導者評価表により、総括的評価を行う。

|             |                                                                                                                              |
|-------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 科目名         | 社会福祉相談援助実習指導                                                                                                                 |
| ユニット名       | 社会福祉相談援助実習指導                                                                                                                 |
| 授業形態        | 実習                                                                                                                           |
| 開講時期・単位・時間数 | 3 学年前期・選択・23 時間<br>3 学年後期（春季集中）・選択・14 時間<br>4 学年前期・選択・32 時間<br>4 学年後期・選択・21 時間<br>} 2 単位<br>単位認定（2 単位）は 4 学年前後期（53 時間）終了時に行う |
| 科目・ユニット責任者  | 坪井真                                                                                                                          |
| 授業担当者       | 坪井真、社会福祉施設・機関の実習指導者                                                                                                          |
| 主な授業場所      | 口腔保健学科 第3講義室                                                                                                                 |

### 学習目標

- ・社会福祉における相談援助実習の意義について理解する。
- ・授業で学んだ専門知識と相談援助の具体的な実践を結びつけるとともに、実習後は実習体験を意識化し、体系立てていくことをめざす。

### 到達目標

- ・社会福祉における相談援助実習の意義を事前に理解し、実習後は経験知として説明できる。
- ・相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ实际的に体験し、経験知として説明できる。
- ・社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得し、意識化できる。
- ・具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化・理論化し、体系立てて整理できる。

### 授業計画

#### 4 学年前期・選択・32 時間

| 回     | 授業題目         | 授業内容                      |
|-------|--------------|---------------------------|
| 1-3   | 春季実習の振り返り 1  | 春季実習の振り返り（学習成果と学習課題の整理）   |
| 4-6   | 春季実習の振り返り 2  | 春季実習の振り返り（個人面接による助言・指導）   |
| 7-9   | 春季実習の振り返り 3  | 学習成果発表会の準備（プレゼンテーションの準備）① |
| 10-12 | 春季実習の学習成果発表会 | 春季実習の学習成果に関するプレゼンテーション    |

|       |            |                           |
|-------|------------|---------------------------|
| 13-15 | 学習成果と課題の整理 | 夏季実習に向けての振り返り             |
| 16-18 | 実習前指導 1    | 個別面接による実習前指導              |
| 19-21 | 実習前指導 2    | 実習計画の立案指導①                |
| 22-24 | 実習前指導 3    | 実習計画の立案指導②                |
| 25-27 | 実習前指導 4    | グループ・ディスカッション①            |
| 28-30 | 実習前指導 5    | グループ・ディスカッション②            |
| 31-32 | 実習指導のまとめ   | 夏季実習計画の最終確認（個別面接による助言・指導） |

#### 4 学年後期・選択・21 時間

| 回     | 授業題目    | 授業内容                    |
|-------|---------|-------------------------|
| 33-39 | 実習後指導 1 | 学習成果と課題の整理、プレゼンテーションの準備 |
| 40-46 | 実習後指導 2 | 夏季実習の学習成果発表（プレゼンテーション）  |
| 47-53 | 実習後指導 3 | 春季・夏季実習レポートの作成指導        |

#### 評価方法

事前・事後学習の成果による総合的評価を行う。

#### 参考図書等

随時、実習関連資料を配付する。